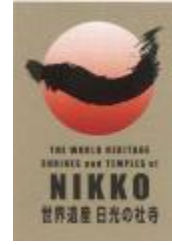


わくわく！



# 日光の社寺たんけん



日光文化財愛護少年団育成会

# みなさんへ

「日光の社寺」が1999年（平成11年）12月、世界遺産に登録されました。これは、国の宝物から世界の宝物になったということです。「日光の社寺」が素晴らしいから世界の宝物になったのです。

ところで、みなさんは、世界の宝物になった「日光の社寺」のすばらしさを十分に知っているといえるでしょうか。「日光の社寺」を作った人たちの願いや知恵、そして、これらを守り伝えてきた人たちの思いや努力を自分の手足を使って調べて発見したとき、「日光の社寺」が世界遺産になったことの意味が分かるのではないのでしょうか。そのとき、すがすがしい感動と「日光の社寺」への新たな思いがわきおこることでしょう。

さあ、「日光の社寺」の探検に出かけましょう。

このパンフレットは、日光市の小中学校の先生が、みなさんの『世界遺産「日光の社寺」探検』に役立ててもらいたいということで作りました。3部構成になっています。

- 日光二荒山神社・日光山輪王寺コーナー
- 日光東照宮コーナー
- 日光の社寺ゆかりの人々コーナー

それぞれのコーナーについて、毎年、2～3程度の題材を選び付け足していく予定です。そこでリーフレット式にしました。

みなさんが探検してみると、新しい発見があったり疑問がでたりするでしょう。ぜひ、そのことを知らせてください。それらのことを参考にし、先生方も勉強してさらに使いやすいパンフレットにしていきたいと考えています。

みなさんの「日光の社寺」探検が実り多いものになることを期待します。そして、他の文化財や世界遺産へ興味関心が広まっていくこと、今、自分ができる文化財保護のことなどを考えてほしいと願っています。

## なぜ「日光の社寺」が世界遺産になったの？

「日光の社寺」は「二社一寺」ともいいます。二社とは、日光二荒山神社、日光東照宮、一寺とは、日光山輪王寺のことです。「二社一寺」のほとんどの建造物が、山内といわれる地域に集中して建てられています。その中には、国宝9棟、重要文化財94棟の計103棟の建造物群が含まれます。

- 山内にある建造物の多くは、17世紀（江戸時代の初期）の日本を代表する天才的な芸術家の作品であって、とても素晴らしい芸術品です。
- 東照宮と大猷院霊廟は、「権現造」の見本であり、そこに建てられている建造物群は、江戸時代の神社・寺院の様子を代表的な姿を表しています。また、日本の古い建築様式を知る手がかりになります。
- 日光の山内は、奈良時代のこ信仰ろからの聖地とされ、数百年を経た大樹などの自然と社殿とが一体となった美しい神々しい景観が素晴らしい。聖地日光は、それぞれの時代の政治と結び付き、特に、江戸時代の政治にとって大切な役割を果たしました。

## 世界遺産とは何？

地球と人類が過去から引き継いできた宝物です。それは、今、生きている私たちみんなの宝物として大切に守り、未来の人々に引き継いでいくものです。

世界遺産には、記念工作物、建造物、遺跡である「文化遺産」と、地形や生物、景観などを含む地域である「自然遺産」、そして自然と文化の両方を合わせた「複合遺産」があります。

「日光の社寺」は、日本で10番目の世界遺産です。ほかの日本の世界遺産、さらに世界のそれらについて調べてみてはいかがでしょうか。

## 世界遺産条約のシンボルマーク



このシンボルマークは、自然と文化が相互に依存している関係にあることを意味しています。中央の四角は人間が作りだした形を、周りの円は自然を表しており、両者は切り離されずつながっています。

このシンボルマークは、世界のように丸いが同時に世界遺産の保護をも象徴しています。

## 日光の社寺に関する年表

時代	日本		日光	
	年代	できごと	年代	できごと
奈良	710 (和銅3) 752 (天平勝宝4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平城京に都を移した。</li> <li>東大寺の大仏がつくられた。</li> </ul>	766 (天平神護2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>勝道上人が四本龍寺を建てた。 (日光山を開いた。)</li> </ul>
平安	794 (延暦13)  1167 (仁安2) 1185 (文治元)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平安京に都を移した。</li> <li>○藤原氏の勢いが強くなった。</li> <li>○源氏と平氏の争いが起こった。</li> <li>平清盛が政権をにぎった。</li> <li>平氏がほろびた。</li> </ul>	820 (弘仁11)  1177 (治承元)	<ul style="list-style-type: none"> <li>円仁が三仏堂を建てた。</li> <li>座主の座をめぐる争いがおき、日光山が荒れ果てた。</li> </ul>
鎌倉	1192 (建久3) 1274 (文永11) 1281 (弘安4) 1333 (元弘3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>源頼朝が鎌倉に幕府を開いた。</li> <li>元がせめてきた。(元寇)</li> <li>鎌倉幕府がほろんだ。</li> </ul>	1210 (承元4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>弁覚が第24世座主となり、多くの堂塔を建て直した。</li> <li>○鎌倉將軍家の日光山に対する信仰が強かった。</li> </ul>
室町  (南北朝)  (戦国)	1338 (延元3・暦応元)  1467 (応仁元)	<ul style="list-style-type: none"> <li>足利尊氏が京都に幕府を開いた。</li> <li>○南朝と北朝の対立がつづいた。</li> <li>応仁の乱がおきた。</li> </ul>		○日光山は南朝方に付いた。
安土桃山	1573 (天正元) 1590 (天正18)	<ul style="list-style-type: none"> <li>織田信長が室町幕府をほろぼした。</li> <li>豊臣秀吉が全国を統一した。</li> </ul>		○秀吉の小田原攻めの時、日光山は北条方に味方したため所領を没収され、日光山は荒れ果てた。
江戸	1600 (慶長5) 1603 (慶長8)  1623 (元和9)  1635 (寛永12) 1639 (寛永16)  1853 (嘉永6) 1867 (慶応3) 1868 (慶応4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>関ヶ原の戦いがおこった。</li> <li>徳川家康が江戸に幕府を開いた。</li> <li>徳川家光が3代將軍になった。</li> <li>参勤交代の制度ができた。</li> <li>鎖国政策が完成した。</li> <li>ペリーが浦賀に来航した。</li> <li>江戸幕府がほろんだ。</li> <li>戊辰戦争がおこった。</li> <li>五か条の御誓文が出された。</li> <li>神仏分離令が出された。</li> </ul>	1613 (慶長18) 1616 (元和2)  1636 (寛永13) 1652 (承応元) 1689 (元禄2) 1700 (元禄13)  1842 (天保13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>天海が53世貫首に任命された。</li> <li>徳川家康が亡くなった。遺言で遺骨を久能山から日光山へ移すことを指示した。</li> <li>徳川家光による東照宮の大造営が完了した。</li> <li>八王子千人同心が「日光火の番」を命じられた。</li> <li>松尾芭蕉が日光を訪れた。</li> <li>日光奉行所が置かれ、日光領の政治、警備、祭祀、営繕に当たった。</li> <li>「五か村用水」(二宮堀)が開かれた。</li> <li>○日光にも戦火が迫った。</li> </ul>
明治			1879 (明治12)	・「保晃会」が創立される。

にっこうふたらさんじんじゃ  
日光二荒山神社

にっこうさんりんのうじ  
日光山輪王寺コーナー





にっこうふたらさんじんじゃ にっこうさんりんのうじ  
日光二荒山神社・日光山輪王寺のはじまり

むかしから、高い山々には神が宿っていると信じられていました。

この考え方を『山岳崇拜』といいます。それが、奈良時代になると中国から入ってきた仏教と結びつきました。そして、それぞれの山には守り神としての神のほか、さらに仏もいて、人々を守るという考え方が生まれてきました。このような考え方を『神仏習合』といいます。

日光が開けたのは、奈良時代のおわりのころです。勝道上人というお坊さんが、男体山（そのころは「補陀洛山」とよばれ、平安時代には「二荒山」と呼ばれていました）には神様や仏様がいると信じて登ったのが、始まりといわれています。このとき上人は大谷川と稲荷川の合流点に山の神様をおがむ場所を設け、四本龍寺（のちの輪王寺）を建て、のちに本宮神社を建てたといいます。また、男体山のふもと中禅寺湖のほとりに中宮を、頂上には奥宮を建てました。

この後、日光山とよばれる関東で一番の霊場（神仏の宿る山々）として、大勢の修行僧が修行に励みました。そして日光は、栄えていきました。

さんがくしんこう やまやま まつ かみ ほとけ  
**【山岳信仰の山々とそこに祀られている神と仏】**

≪山≫

なんたいさん  
男体山



によほうさん  
女峰山



たろうさん  
太郎山



≪神≫

おこなむちのみこと なんたいごんげん  
大己貴命・男体権現



たごりひめのみこと によたいごんげん  
田心姫命・女体権現



あじすきたかひこねのみこと たろうごんげん  
味耜高彦根命・太郎権現



≪仏≫

せんじゅかんのん  
千手観音



あみだによらい  
阿弥陀如来



ばとうかんのん  
馬頭観音



# 二荒山神社

◎ なぜ「二荒山神社」という  
ふたらさんじんじや  
 名前がついたのだろうか？

『日光』という地名と、深く関係  
 があると言われています

①むかし、アイヌの人のことばで  
 クマザサを「フトラ」とよんだ。  
 日光の山にはクマザサが多いの  
 で、「フトラの多い山」といつた  
 のがだんだんなまって『フタラ』  
 になり、それに『二荒』の字をあ  
 てた。



③勝道上人が登ったころ、男体山  
 は仏様の教えの中にある山の名を  
ふだらくさん  
 とって「補陀落山」とよばれた。  
 そのフダラクがフタラクとなり、  
 やがて『フタラ』になって『二  
 荒』の字をあてた。



⑤日光は、むかし、大日如来とい  
だいにちによらい  
 う仏様が現れたところといわれて  
 いた。お経の中に、「大日如来の  
こうみょう  
 光明」という言葉があり、その中  
 の「日」と「光」をとって日光と



二荒山神社（弥生祭：4月17日）

②日光の山の代表は男体山と女峰山。  
なんたいさん にょほうさん  
 男体山は男の神様，女峰山には女の神様  
 が現れたので、「二現山」と言ったのが、  
 フタアラとなり，やがて『フタラ』となり  
 『二荒』の字をあてた。

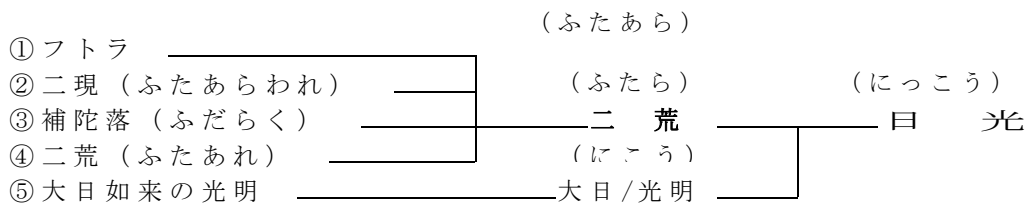


うまがえし  
 ④馬返の上にびょうぶ岩という切り立った  
かざあな  
 岩山があり，そこに風穴という大きなほら  
 穴があった。  
 むかしはその風穴から春と秋の2回，大  
 風が吹き出して天気が荒れた。1年に2回  
 荒れたので『二荒（フタアレ）』と言った  
 が，やがて『二荒（フタラ）』になった。

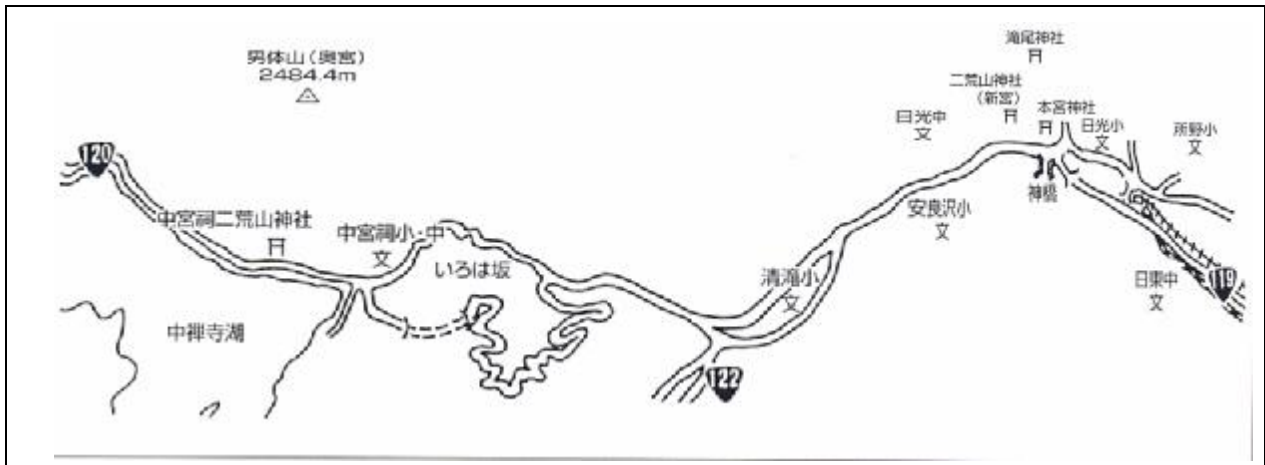
こうぼうだいし  
 これを，弘法大師が日光に来たときに音  
 読みの『二荒（ニコウ）』にし、「日光」の  
 字をあてるようになった。



いろいろな説がありますが、まとめてみると…







日光市と二荒山神社の位置

年	主なできごと	しんこう 信仰
766	勝道上人，本宮神社（四本龍寺）を祀る	神
782	勝道上人，男体山頂に奥宮を祀る	仏
825	滝尾神社が祀られる	習
850	現在の東照宮の場所に，新宮が祀られる	
1619	東照宮が祀られ，新宮は今の場所に移転する（現在の二荒山神社）	代
1636	東照宮が改築され，神橋が現在のよう姿になる	
1871	神仏分離令により，二荒山神社と輪王寺，東照宮が分けられる	神 仏 分 離 の 時 代
1902	洪水で神橋が流される	
1904	神橋，再建される	
1999	世界遺産に登録される	

二荒山神社年表

勝道上人は、男体山のある日光を聖地としました。現在の山内に『本宮神社』『四本龍寺』を祀り、やがて中禅寺（中宮祠）を足場にして男体山の山頂を『奥宮』としました。

また、稲荷川ぞいには『滝尾神社』が祀られ、女峰山への信仰も深まりました。滝尾神社は、空海（弘法大師）が祀ったといわれています。

その後現在の東照宮の敷地に『新宮』が祀られましたが、東照宮がつくられるときに移転しました。これが今の『二荒山神社』です。



滝尾神社

にっこうさんりんのうじ

# 日光山輪王寺

## ☆「日光山輪王寺」の始まり☆

奈良時代の末（766年）勝道上人<sup>しょうどうしやうにん</sup>によって日光山は開かれました。  
勝道上人とその弟子たち一行はやっと大谷川の激流にたどり着き、ここで深沙大王<sup>しんじやだいおう</sup>の助けで山菅の蛇橋（神橋）<sup>やますげ じゃばし しんきやう</sup>を渡り、「四本龍寺」<sup>しほんりゆうじ</sup>というお寺を建てたといわれています。これが「日光山輪王寺」の始まりです。

## ☆日光市と「日光山輪王寺」の位置☆



「日光山輪王寺」は寺の総称<sup>そうしやう</sup>です。  
お寺やお堂など左の黄色い部分の全体を指して  
輪王寺といいます。



## ☆日光山と神仏分離☆

明治時代、輪王寺・二荒山神社<sup>ふたらさんじんじや</sup>・東照宮<sup>とうしやうぐう</sup>と三つの場所に分けられる前、これらはひとつにまとまって「日光山」と呼ばれる関東の一大霊場<sup>いちだいいいじやう</sup>でした。

明治元年（1868年）、明治政府から「神仏分離令」<sup>しんぶつぶんりれい</sup>という神と仏を分ける命令が出されます。神と仏の区別がなかった「日光山輪王寺」は窮地<sup>きゆうち</sup>に立たされます。日光山では明治4年～13年にかけて実施されました。いくつかの建物が今の輪王寺・二荒山神社の場所に移ったのはこの時です。二荒山神社境内<sup>けいだい</sup>にあった三仏堂<sup>さんぶつどう</sup>もこの時今の場所に移りました。

## ☆日光山輪王寺年表☆

年	主 な で き ご と	寺の名前	信 仰
766	・勝道上人が「四本龍寺」(本宮神社)を建てた	四本龍寺	神 仏 習 合 の 時 代
	・仏教の修業をするために集まった人々でこの寺は栄えた		
810	・寺の名前が「満願寺」になった	満願寺	
	・空海・円仁の来山伝説とともに建て物が増えていった		
848	・三仏堂・常行堂・法華堂ができた		
1177	・座主の座をめぐる争いがおき、日光山が荒れ果てた		
1186	・頼朝が常行堂に御供田を寄進した	光明院	
1210	・実朝寄進の三重塔など山内の堂塔の多くが再建された		
1240	・弁覚法印が光明院を建てた		
	・三山(男体山・女峰山・太郎山)、三仏(千手観音・阿弥陀如来・馬頭観音)、三社(新宮・滝尾・本宮)が同一体であるという形が整った		
	・この頃山岳修行の修験道(山伏)が盛んになった	座禅院	
1476	・昌源が座禅院権別当となり、松や杉数万本を植えた		
	・所領が十八万石になり、院や坊の建物が五百坊もあったといわれる		
1590	・豊臣秀吉に領地を取り上げられる		
1613	・天海が「日光山」の住職となり再び栄えるようになった	輪王寺	
1644	・慈眼堂が建てられた		
1653	・大猷院が建てられた		
1655	・寺の名前が「輪王寺」になった		
1871	・神仏分離により、輪王寺(満願寺)・二荒山神社・東照宮の三つの場所に分けられた	神仏分離の時代	
1811	・三仏堂が現在の場所に移った		
1999	・世界遺産に登録された		

### ☆強飯式☆ 4月2日～三仏堂～

山伏が三升入りの大碗を持って「七十五杯一粒も残さず食えろ」と責めます。この「日光責め」をうけると災厄が払え、運が開けるといわれます。

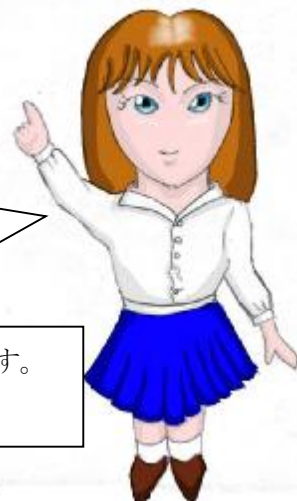
昔、山の中を歩いて修業をしていた時、修験者が宿泊していたところにお供えしたものを持ち帰って人々に分かち与えたのが強飯式の始まりです。

# いんのうじさんぶつどう 輪王寺三仏堂



今日はわたしが輪王寺  
三仏堂を案内します。  
よく勉強してみてね。

絵はすべて自作です。



神橋の前の階段を登ってみよう。勝道上人の銅像があるよね。その奥に大きな建物があるのが見えるかな。これが輪王寺の三仏堂です。

Q とても大きい建物だよね。関東から北では一番大きい木造の仏堂だといわれているけれど、どのぐらいの大きさがあるのでしょうか。はしからはしまで何歩あるか、はかってみよう。

Q この建物の大きさがパンフレットに書いてあるので調べて、学校や自分の家の大きさと比べてみよう。

Q さてこの建物をよく見てみよう。大きな柱が使われているよね。この柱を良く見てみると継ぎ目がないことに気づくよね。実は、この柱は幅が 70cm 高さが 25m の 1本のけやきの木を使っているんだ。そして 30 回以上もうるしを塗って作られているんだ。どうしてこんなにうるしを塗るのかな。

Q じゃあこの柱が何本ぐらい使われているか数えてみよう。



日光山之図(中世期)写本  
東京国立博物館  
聖地日光の至宝 P55 より引用

おじいさんの一口メモ

実はこの三仏堂、ずっと今の場所にあったわけじゃないんじや。最初は今の瀧尾神社のところにあったんじやが、何回も場所が移っているんじや。どんな場所に移ったのかというと・・・

- ① 瀧尾神社の境内
- ② 東照宮の境内
- ③ 二荒山神社の境内
- ④ 今の場所




あちこち歩いてみながらどこにあったのか想像してみてもおもしろいぞ



Q 階段を登って、正面の部屋を見てみよう。輪王寺の三仏堂っていうくらいだから、三体の仏像があるんだよね。あれ、でも、お寺なのに広い部屋があるだけで、仏像が見えないね。どこにあるかいっしょに探してみよう。



Q さらに奥に入ってみると、ちょっと低くなった石畳の部屋に、大きな金色の仏像があるよね。実は、ここに三体の仏像があったんだ。高さが8.5mというとても大きいもので、木で作られた坐像としては日本最大の物なんだ。じゃあこの仏像をよく観察してみよう。そして、特徴や変わったところ疑問点などを書いてみよう。

名前	ばとうかんぜおんぼさつ 馬頭観世音菩薩	あみだによらい 阿弥陀如来	せんじゆかんぜおんぼさつ 千手観世音菩薩
仏像			
気づいたこと			

Q 実は、この三体の仏像は、日光にある三つの山を表しているんだ。それぞれなんという山だろう。予想してみよう。



おじいさんの一口メモ

実は日光の信仰は男体山、女峰山という2つの山を神様と考えることから始まったんじゃ。そこに太郎山が加わって三つの神様となったそうじゃ。その後、神様は、仏様が仮の姿で現れたものとする考え方(本地垂迹説)が広まり、三仏堂に見られるように仏様が山を表すようになったというわけじゃ。

おこなむちのみこと 大己貴命  
あじすまたかひこねのみこと 味耜高彥根命  
たごりひめのみこと 田心姫命  
千手観世音菩薩 馬頭観世音菩薩 阿弥陀如来



もっと知りたいところ、わからないところが出てきた人もいるんじゃないかな。そんな疑問を大切に、もっと詳しく調べて見るとおもしろいよ。



# 大猷院

## 『大猷院』のはじまり

大猷院とは、正しくは「大猷院 廟」といいます。「廟」というのは、先祖の霊をまつたお堂のこと（お墓を伴う拝礼の施設）です。

江戸幕府の三代目の将軍である徳川家光公は亡くなった時に、当時の天皇後光明天皇から「大猷院」という法号（亡くなってからいただく名前）をいただきました。つまり、「大猷院廟」は家光公のお墓といえます。

家光公は、おじいさんにあたる家康公（江戸幕府を開いた人）を心から尊敬していました。1651年（正保4年）、48歳の若さで亡くなりますが、亡くなる間に「自分が死んだ後も東照大権現（家康公のこと）におつかえする。」という遺言を残しました。そうして、1年2ヶ月後の1653年（承應2年）に「大猷院廟」は完成しました。大猷院廟と呼ばれたのは明治以降で、江戸時代には「御霊屋」と呼ばれていました。



### 「大猷院の意味」

「猷」という言葉には「はかりごと」「道」という意味があります。「はかりごと」とは政治のことで、大猷とは大きな政治を成しとげたという事です。大猷院とは「大きな政治をなさった方」ということになります。



### 家光公について

江戸幕府を開いた徳川家康公の子秀忠公とお江与の方（織田信長の妹 お市の子であり浅井ながまさの三女・浅井達子）との間に生まれました。家康公を慕い、東照宮の大改修を行って、ほぼ現在の東照宮の形につくり変えたのが家光公です。

# たいゆういん 大猷院



がく かがげ にてんもん  
大猷院の額が掲げられている二天門



むらつかじょう  
皇宮城のような  
皇嘉門の先の石段を  
のぼったところに、  
家光公の墓所、宝塔  
があるんだ。  
見てみたいわ。



皇嘉門

いみつかう ぼしよたいゆういん いやすこうな あと あお  
家光公の墓所大猷院は、家康公亡き後、師として仰いで  
てんかみだいせうじょう ぼしよ にっこうさんないこくやま じげんどう となり  
きた天海大僧正の墓所、日光山内大黒山の慈眼堂の隣に  
ほうむ あと どうしょうたいこんげん つか  
葬られています。死んだ後も東照大権現にお仕えする気  
持ちが示されています。

「大猷」とは・・・  
大いなる（政治の）道

にてんもん  
二天門にある「大猷院」の  
文字は、隠明門にある「東照大権現」  
と同じ、後水尾上皇が書いたもの。  
二天門は、山内の社寺の中で最大の  
の門なんだよ。

大猷院というのは家光公が後光明天皇  
からおくられた諡号（死者におくる名前）。  
家康公は神様だけど、家光公は仏様にな  
ってまつられているそうだ。



「奥の院」宝塔  
ちか いみつかう ねむ  
☆この地下に家光公が眠る。

# 家光廟大猷院配置図

(いえみつびょうたいゆういんはいちず)



⑥皇嘉門 (こうかもん)



⑦奥院 (おくのいん)



⑤本殿 (ほんでん)



④唐門 (からもん)



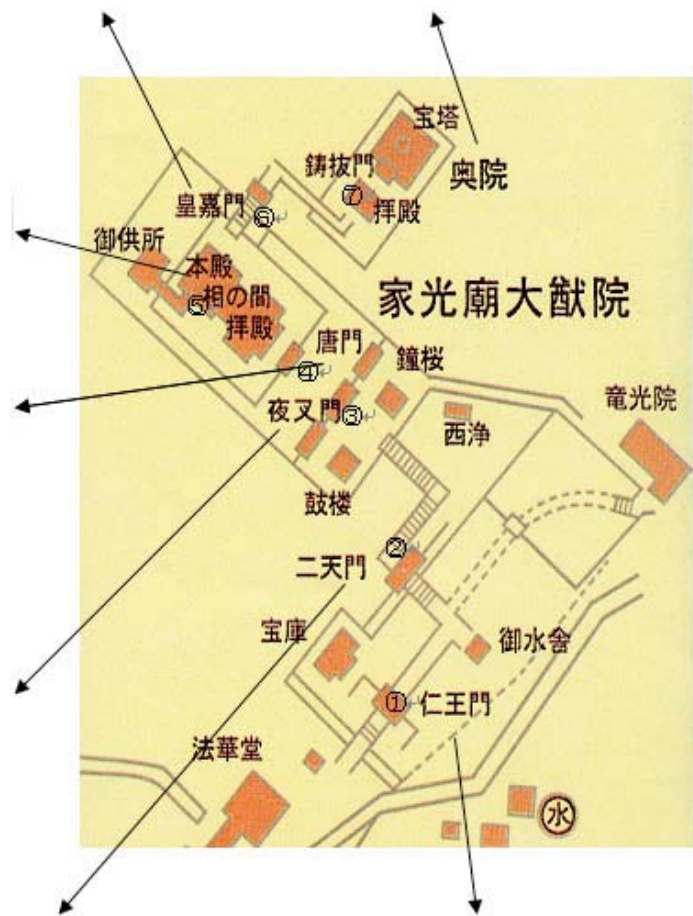
③夜叉門 (やしやもん)



②二天門 (にてんもん)



①仁王門 (におうもん)





たいゆういん

# 大猷院



今日は日光の中でも 東照宮と並ぶすばらしい建築物, 大猷院について見てみましょう。



空から近づいてみると、東照宮、二荒山、輪王寺などが見えるよね。では大猷院はどこでしょう。



もっと近づいてみるよ。たくさんの門と建物が見えてきたよね。では門の数がいくつあるか数えてみよう。



みんなは門や建物の名前を覚えているかな。前のページを参考にして思い出してみよう。



おじいさんの一口メモ

この大猷院は全体で地上から天国までをあらわしているといわれているんじゃ。ある場所までが地上を表しているんじゃが、どこまでだったかのう。雰囲気の違いを感じ取って考えてみなさい。

また、それぞれの門の名には意味があるんじゃ。夜叉は鬼、唐は中国といったようにじゃ。門の彫刻と雰囲気をよくみると、なぜそう呼ばれているかわかるかもしれないのう。





階段をのぼり、門をくぐっていくと途中にたくさんの灯籠とうろうがあるのがわかるよね。この灯籠とうろういったいいくつぐらいあるんだろう。また、何でこんなにたくさんあるんだろう。



ではこの灯籠をよくみてみよう。何か文字がかいてあるよね。この文字は灯籠とうろうを贈った人の名前なんだ。ではどんな人が灯籠とうろうを贈ったのか調べてみよう。



一番奥までついたらかな。でも入れないよね。実はこの奥が大猷院で一番大切なところ。ある人のお墓なんだ。下の写真の右側の人なんだけど・・・みんな名前をおぼえてるかな。



(「東照大権現・大猷院・慈眼大師版絵」輪王寺所蔵)

#### おじいさんの一口メモ

上の写真じゃが。左が天海大僧正てんかいだいてそうじょう、中央が徳川家康公とくがわいえやすこう、右が徳川家光公とくがわいえみつこうとなっておる。この三人の人物がどんな人物か、どんな関係があるか他のページで調べてみると、なぜ大猷院がここにできたのかわかるのじゃ。さっそく調べてみんかね。



ではこの大猷院がいつ頃できたのか年表に書いてみたから見てね。日本や世界でどんなことが起こっていたか思い出してみるとおもしろいよ。

1651	慶安4年	・ 3代将軍家光 <small>せいきよ</small> 逝去。日光山内大黒山に大猷院 <small>びょう</small> 廟 建設開始。
1653	承應2年	・ 大猷院廟完成。入仏 <small>にゅうぶつ</small> の儀。家光の3回忌。梶左兵衛督、日光山守護となる。5日間の殺生禁断 <small>せつしょうきんだん</small> 、罪人 <small>ざいにん</small> を許す命令。
1655	明暦3年	・ 朝鮮使節大猷院廟参詣 <small>さんけい</small>
1683	天和3年	・ 大猷院廟の宝塔供養 <small>ほうとうくよう</small>
1690	元禄3年	・ 大猷院廟の大修繕、大猷院廟奥院正遷座 <small>せんざ</small>
1750	寛延3年	・ 大猷院殿(家光)の100回忌法会 <small>かいきほうえ</small>
1800	寛政12年	・ 大猷院殿 150 回忌法会
1850	嘉永3年	・ 大猷院殿 200 回忌法会
1999	平成 11 年	・ 世界遺産登録
2000	平成 12 年	・ 大猷院殿 250 回忌法会。奥の院の公開



大猷院にはいろんな建物があります。またあとで説明するから今もっている疑問ぎもんを大切にしておいてね。

# やよひのさの 弥生祭

## つまつ ～春告げ祭り～



日光の春は、「弥生ばやしのの音に乗ってやってくる…」と言われています。その「弥生ばやし」とは、日光のの氏神様である二荒山神社のの弥生祭ののとき家体の中の中で奏でる「祭ばやし」のことです。

弥生祭は、厳しく長い冬にに閉ざされていた日光にに春のの訪れを告げる祭りであり、市民は祭り気分にに酔いしれ春のの訪れを喜び合いいます。

### やよひさい [弥生祭のはじまりと名称の由来]

弥生祭は『日光山三月会縁起』『満願寺三月会日記』などの資料によれば、神護景雲元年（767年）に始まったとされています。

3月は、昔の呼び方では「弥生」なのでそこから「弥生祭」とつけられました。その当時は、大陰暦（旧暦）が用いられていましたが、明治6年（1873年）から太陽暦（新暦）が使用されるようになったため、旧暦の3月が現在使われている新暦の4月の時期にあたるので、4月16日・17日に弥生祭が行われるうになりました。しかし、「弥生祭」という名前はそのまま残されました。

### ほんまつ つけまつ [本祭りと付祭り]

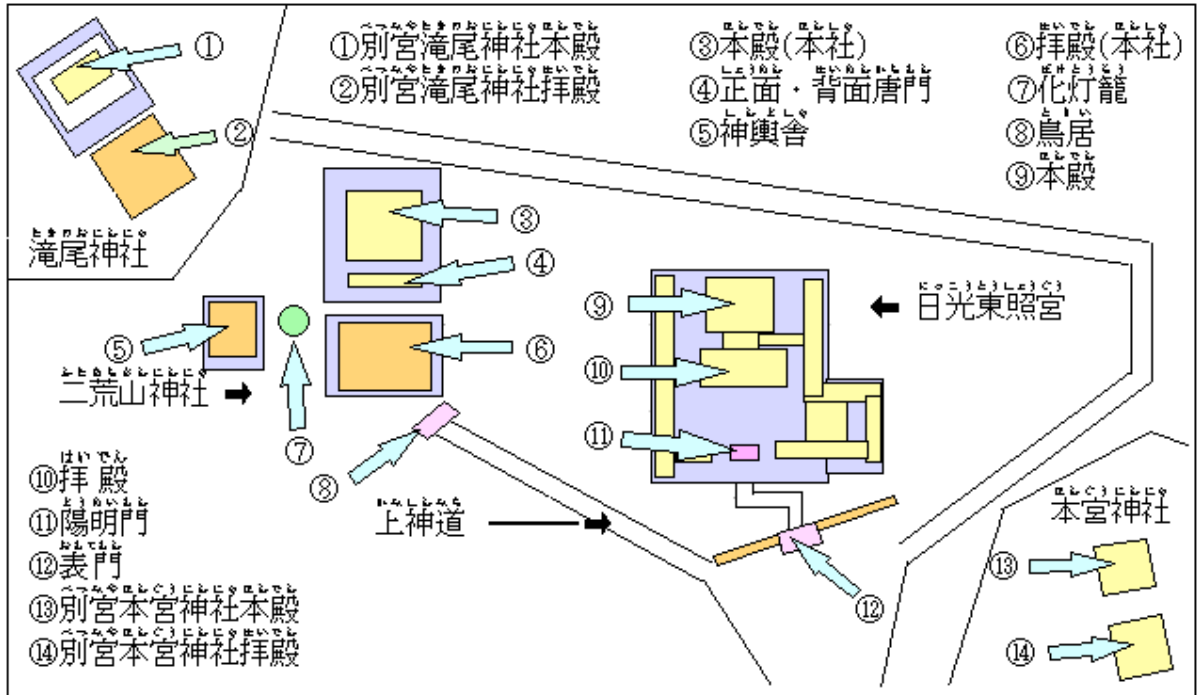
この祭りは、「本祭り」と「付祭り」とに分けて呼ばれています。二荒山神社が行う祭典を「本祭り」といい、氏子の人々の奉納行事を「付祭り」といいます。

「本祭り」は4月13日に始まり、17日まで二荒山神社本社や別宮滝尾神社・本宮神社で古式にのっとり厳かに祭典や御輿渡御が行われます。

「付祭り」は家体をもつ東町8ヶ町、西町7ヶ町（現在3町が休年中）が花家体や本家体を神社に奉納する祭りです。現在のようなお祭りの形になったのは、江戸時代からと言われ、昔は「人担ぎ家体」と呼ばれる重量約300kgもの家体を担いでお囃子を奉納しました。ところが、昭和14年（1939年）に「車輪（四輪）付家体」が登場し、現在のようないろんな形へと少しずつ形を変えてきたわけです。また、別名「ごた祭り」とも呼ばれ、昔からしきたりを重んじ、格式通りに万事を進めないといけなくなることもある祭りで、これは、単にお祭りのしきたりということだけではなく、社会教育の場でもあったのです。



[弥生祭本祭 4月13日~17日]



4月13日 (神輿飾祭)

13時から本社拜殿 (⑥) において、神社に仕える8人の神人たちによって神輿舎 (⑤) から、重さ100kgを越える金色の神輿3基を出して本社拜殿 (⑥) に移す儀式です。

拜殿では古式にのっとり、祭典が執行され、17時には境内の灯籠に灯りがともされます。この祭りにより、弥生祭の本祭りが正式に始まります。



左が味耜高彥根命の神輿、中央が主祭神 大己貴命の神輿、右が田心姫命の神輿

4月14日 (滝尾神社神輿渡御祭)

(酒迎式)

滝尾神社 (祭神田心姫命) の神輿一基が本社拜殿 (⑥) から滝尾神社に移す祭りです。途中東照宮表門前 (⑩) にて神輿を止め、東照宮神職が神輿に神饌をお供えし、拝礼する儀式酒迎式が行われます。滝尾神社では「雅楽」を奏でたり、「八乙女神楽」も奉奏されたりして、静かな境内にも祭り気分があふれます。



「八乙女神楽」と「神饌」

神輿) 神様の乗り物 (人がかつぐもの) のこと。ここで言う3基とは、大己貴命 (おおなむちのみこと) ・  
田心姫命 (たごりひめのみこと) ・味耜高彥根命 (あじすきたかひこねのみこと) の3つの神輿の  
ことである。

神職) 神社に奉仕して神事に従う人。神主。神官。

神饌) 神前に供える酒や食べもの。一般的に稲・米・酒・鳥・獣・魚介・果物・野菜・塩・水を用いる。

雅楽) 優雅で正式な音楽。日本では、宮廷・寺社・高級貴族の間で行われた。

灯籠) 木・石・金属などで作ったわくに紙などを張った、あかりをともし器具。

### 4月15日 (氏子大祭)

氏子の家内安全を祈願する祭りであり、氏子会会長をはじめ、氏子会役員・当番町役員などが参列して行われます。

\*氏子とは、氏神様の子孫。同じ氏神様を奉る人々のことです。

### 4月16日 (滝尾神社神輿還御祭) (高天原神事)

滝尾神社拝殿 (②) で2夜を過ごした神輿 (田心姫命) が本社に還る祭りです。また、本社の高天原齋場にて本社・本宮の2基の神輿がこれをお迎えする神事です。あとは明日の例大祭を待つばかりとなります。

当番町) 東町 (8ヶ町) ・西町 (7ヶ町) のそれぞれ中心となって、6月の引き継ぎ会後から弥生祭祭典に向けて準備を進めていく町内のことを言う。現在は3町が休年中であるため12ヶ町が祭典に参加しています。

神事) 神を奉る行事。祭事。

### 4月16日 (宵祭り)



この祭りは、日光観光協会が主催になって行われています。東町・西町の各町の家体は、弥生ばやしを奏でながら各町内を練り歩きます。午後には、東西の全町家体が日光市役所前で合流します。その後、神橋修復前は、「登橋神事」と呼ばれる行事が行われていました。登橋神事とは、氏子会の関係者や各町内の代表の人が神橋 (重要文化財) に登橋し、二荒山神社に向かって礼拝するものです。

現在は、神橋修復作業中であるため実施されていません。その代わりに、日光市総合会館前に全町内の家体が集合し、お囃子を披露するなどの「宵祭り式典」が行われます。



## 4月17日【例大祭】 (三神輿本宮神社渡御祭)

10時から二荒山神社年間最大の祭典である例大祭が、氏子崇敬者多数が参列し、神前に海や山の幸多種の神饌が供えられ、代表者による「玉串奉奠」が行われ、氏子の安全・国家の平穏が祈願されます。

12時30分頃から、三基の神輿は行列を整えて本宮に向かいます。拝殿(⑥)を出発し、上神道・東照宮表門前・中山通・長坂を通過して本宮へと進みます。この行列には、神輿の他に獅子・鉄砲・槍・稚児など約200人の氏子が奉仕します。本宮拝殿(⑭)では、古式ゆかしい祭典が行われ、神輿は下神道を通って14時頃本社に還り、「本祭り」のすべての祭典が終了します。

## 4月17日(付祭り)

大祭当日。東町・西町の家体がそれぞれそれぞれ当番町を先頭に二荒山神社鳥居前に集合・合流し、境内に繰り込みます。そして、弥生祭のハイライトである各町内への挨拶回り

「名刺交換」が行われます。それが無事に終わると本殿(③)にお囃子を奉納するために「神明廻り」が行われます。その後は取り決め事項に従って、「拝殿前手打ち式」

「東照宮参拝」「御物見前手打ち式」「家体繰り下げ伝達式」を行い、東西両当番町を先頭に各町帰路につきます。



## 【名刺交換】(最大のハイライト)

頭役(羽織袴姿)に引率された行事(袴姿)2名が自町名の書かれた大型の名刺を持って各町に挨拶に出向きます。その時の使者の口上は以下のようです。**\*口上・・・口で言うこと。あいさつ。**

「〇〇町から参りました。当日はおめでとうござ  
います。」ご町内ご一同様によろしく。」

と短い口上ですが、「ごた」の原因ともなるこの儀式には緊張を強いられます。

## 神明廻り)

弥生祭に家体を献備した町内の全家体が、拝殿と本殿の狭い間を通り、本殿に向かって拝礼し、通り抜ける行事を、通称「神明廻り」と言う。

## 拝殿前手 打ち式

東町8か町・西町4か町の家体が「神明廻り」終了後、12か町の自治会長祭儀部長・筆頭頭役が拝殿前に集合し、伝統ある弥生祭が無事終了したことを神前に奉告すると共に、次年度の再会を確認する。その後、「3・3・1」の日光じめで式は終了する。

東照宮参  
拝

「2 拝・2 拍手・1 拝」の拝礼により、東照宮に祭りが無事行われたことを奉告します。

御物見前  
手打ち式

西両町の筆頭頭役・次席頭役が御物見前に参集し、先番当番町筆頭頭役の音頭で「3・3・1」の日光じめにより手打ちを行う。この儀式は、弥生祭の最後を締めくくる大切な儀式である。

家体繰り  
下げ伝達  
式

東西両町の頭役（1名）・行事（2名）が御物見前に参集し、先番当番町・別の当番町の順に、「家体繰り下げの口上」が行われる。この儀式で、東西両町による儀式はすべて終了する。

たまぐし  
玉串

さかきの枝に、木綿（ゆう）または紙をつけて神前にささげるもの。

### [弥生祭を見学しながら次のことを調べてみましょう。]



各町内の家体にはピンク色の花が飾られています。この花の名前は何でしょう。



家体はみな同じように見えますが、中には色やつくりの違う家体もあります。それぞれ何家体と呼ばれているのでしょうか。



弥生ばやしにはいろいろな楽器が使われています。どんな楽器が使われているのか調べてみましょう。また、西町と東町では、お囃子に大きな違いがあります。それは何でしょう。（ヒント：楽器の種類）



お祭りを行っている人たちが履いている履き物は何という名前でしょう。



お祭りには、いろいろな小道具が使われています。例えば、腰に差しているものや家体の前や横に出して腰かけるいすなどいろいろあります。また、それぞれに名前があります。調べてみましょう。



お祭りの中で、使者により口上が述べられることが何度かあります。それぞれの場所で違った口上が述べられています。また、それには理由があります。密着取材をして調べてみましょう。



家体を出している町内には、この祭りのための若者組の組織があります。年齢・経験によってその役割や服装が異なります。違いを調べてみましょう。

(ヒント：服に付けている徽章である程度区別できます。)

\* 徽章：身分・職業・名誉などを表わすために身につけるしるし。



お祭りがスムーズに進行するように全体の指示を出している人がいます。

その人は西町と東町に一人ずついます。捜してみましよう。

(ヒント：当番町をつとめている町内にいます。)



これは三御輿本宮神社渡御祭の時の行列の写真です。行列の先頭を歩く人々が、正装をした神職の方々です。家体が二荒山神社の境内に繰り込んだ後に行われています。みなさんは見たことがありますか。正装とはいってもいろいろな色がありますね。これには理由があります。どうして色が違うのか、なぜ色分けされているのか、調べてみましょう。



\* これ以外にもたくさん不思議が隠されています。13日～17日までの「本祭り」や「付祭り」について疑問に思ったことをどんどん調べてみてください。お祭りが楽しくなるかもしれません。

\* 現在12ヶ町が家体を献備していますが、その中で奏でられている弥生ばやしは、各町内によって音色や調子が微妙に異なります。また、京都の流れを汲むお囃子であるため、雅な曲が奏でられます。是非お囃子にも注目して美しい音色に耳を傾けてみましょう。

\* 計画を立てて、密着取材をしながら見学すると、「弥生祭」についていろいろな発見があるかもしれません。メモやカメラを持って出かけましょう。分からないことがあったときには、勇気を持ってどんどん質問しましょう。



# 日光に伝わる2つの強飯式

日光には、昔から[日光山輪王寺強飯式]と[生岡神社子供強飯式]という2つの強飯式があります。

## [日光山輪王寺強飯式]

### ◇「強飯式」って何？

輪王寺\*<sub>1</sub>に伝わる「強飯式」は、毎年4月2日に日光山輪王寺の三仏堂\*<sub>2</sub>で行われます。山盛りのご飯(三升\*<sub>3</sub>)を無理やり食べさせようとすることから、別名「日光責め」と呼ばれ、日光に古くから伝わる全国でも大変めずらしい儀式です。普通、「強飯式」というと、山盛りのご飯を食べさせる『強飯頂戴の儀』が写真やテレビなどで大きくとりあげられますが、本当は、3つの儀式『三天合行供・採灯大護摩供』『強飯頂戴の儀』『縁喜がらまき』を合わせて「強飯式」と言います。

\*1,2 輪王寺に関する詳しいことは、「日光山輪王寺コーナー」を見ましょう。

\*3 お米約5kgです。



### ◇「強飯式」は、いつ頃から始まったの？

奈良時代の終わり頃、日光を開いた勝道上人\*<sub>4</sub>というお坊さんを始めとして、たくさんの修行僧\*<sub>5</sub>が、『神仏習合』\*<sub>6</sub>という考え方のもとに日光の山々で修行を行っていました。修行僧が、山で修行をしている間、宿泊した場所にお供えした物を山から持ち帰って、村の人々に分け与えたことが「強飯式」の始まりとされています。

その後、修行をした時のお供え物を人々に分け与えるということだけでなく、日光三社権現\*<sub>7</sub>や開運三天\*<sub>8</sub>からも、お供え物を人々に分け与えるというという意味もこめて行われるようになりました。そして、江戸時代に今のような強飯式の形になったとされています。江戸時代には、徳川家の家来や全国の大名家たちも「自分の藩の名誉のため」と競って強飯式の頂戴人\*<sub>9</sub>になりました。

\*4 「勝道上人」については、「日光の社寺ゆかりの人々コーナー」を見ましょう。

\*5 仏様の教えを広め行う人、山伏のこと。

\*6 日光の山々には、守り神として、神様の他に仏様もいて、人々を守るという考え方。

\*7 千手観音・阿弥陀如来・馬頭観音の神様のこと。「日光三社権現」に関することは、「日光山輪王寺コーナー」を見ましょう。

\*8 日光三社権現という仏様の親せきにあたる神様です。七福神（弁財天・袋禄・寿老人・大黒天・毘沙門天・恵比寿・布袋）という神様の中にいる三福神のことで、大黒天・弁財天・毘沙門天の神様のことです。人々の願いを一番かなえてくれる神様とされています。大黒天は、幸福を人々に与えてくれ、弁財天はお金を人々に与えてくれ、毘沙門天は人々の苦しみを取り除いてくれる神様です。

\*9 強飯式の時に、山盛りのご飯を無理やり食べさせられる人のこと。



【七福神の神様】

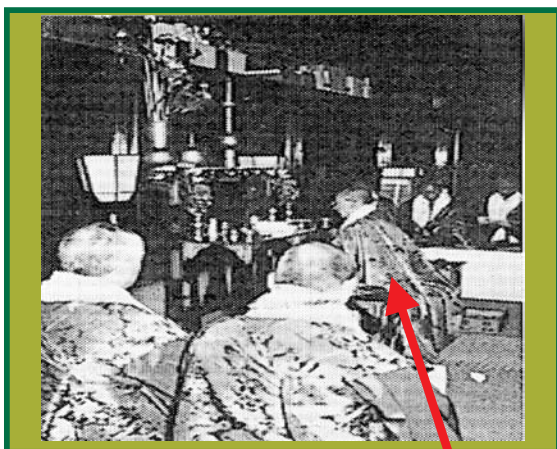
◇ 「強飯式」の御利益

強飯式に参加した頂戴人（6～7人）や強飯式を見に来た人々は、日光三社権現という仏様や神様が守ってくださり、七難即滅・七福即生（全ての災難や困難がなくなり、全ての幸せが生まれる）・家運長久（家族が元気で、商売もうまくいき、全ての願い事がかなえられる）などの願いをかなえることができるとされています。

◇ 「強飯式」の内容

《第1の儀式（『三天合行供・採灯大護摩供』）》

\*どちらも秘法です。  
\*同時に行われます。



【三天合行供】 大導師

三仏堂の内陣（一番奥の部屋）で行われる秘室の儀式です。  
大導師と呼ばれるお坊さんによる  
日光三社権現・開運三天と  
呼ばれる、仏様や神様への供養の儀式です。



さいとうだいごまく  
【採灯大護摩供】

お堂の内陣ないじんの一つ手前の少し高い部屋で行われる秘宝ひほうの儀式ぎしきです。  
修行僧しゆぎようそう(山伏やまぶし)によるお経きやうが響ひびき、大護摩だいごまが燃えさかります。

ぎしき ごはんちやうだい ぎ  
《第2の儀式 (『強飯頂戴の儀』)》

\* 6つの儀式が行われます。

①



ごじんしゆ  
【御神酒】

朱塗しゆぬりの大きなさかずき  
に波々なみなみとつがれたお酒をい  
ただく儀式です。

②



きがんもん  
【祈願文】

神様仏様に様々な願いがか  
なえられるよう祈り願う儀式  
です。

③



山伏

【強飯】

頂戴人

山伏たちが、山盛りのご飯を口上(せりふ)とともに頂戴人の頭上(かぶ)にのせ、「七十五杯残さず頂戴しろ」と頂戴人を責め立てます。しかし、実際は食べません。食べるまねをするだけです。

山伏の口上(セリフ)

「・・・三社権現より賜る

(いただく)ところの御供(神様仏

様に供える物)ジャ、謹んで頂戴

あろう。・・・」

「こりや、当山古実万代不易

の強飯、一杯、二杯に非ず七十五杯

づかづか取り上げてのめそう。・・・

依って此の強飯、一度信心渴仰

して頂戴なあるときは、七難

即滅、七福即生、四魔退散、

家運長久、決して疑うことは

ない。・・・」

④



【菜前】

大先達(山伏たちのリーダー)から、強飯式の由来が話され、ご馳走として日光山の珍物を盛りつけた菜膳が運ばれます。名物珍味は、中禅寺で取れる木辛皮(さんしよ)の皮の部分)、蓼が海(湯元にある)のたで(植物名)、御花畑(太郎山の頂上にある)の唐辛子、寂光(寂光の滝付近)の大根の四種類です。

⑤



【<sup>きつ</sup>金 <sup>こう</sup>甲】

毘沙門天の金甲（かぶと）を  
頂戴人の頭にのせ、頂戴人が毘  
沙門天になったことを表します。

⑥



【<sup>く</sup>供 <sup>よう</sup>養】

最後におみやげとして大ギセル、  
ネジリぼうなどのめずらしい物を  
いただき儀式が終了します。

《第3の儀式（『<sup>えんぎ</sup>縁喜がらまき』）》



【縁喜がらまき】

儀式で神様や仏様からいただいた  
幸せ・富・めぐみなどを自分達だ  
けのものにせず、他の人々にも分け  
与えてあげるといふ考えから、  
縁起物（神様や仏様にお供えた  
物）やおもちやなどを一般参拝者  
に向けてまく儀式です。  
幸せをたくさんの人々に分け与  
え、お互いに幸せになるようにとい  
う意味がこめられています。

## いきおか ごうはん [生岡神社子供強飯式]

### ◇「子供強飯式」って何？

日光市七里にある生岡神社に神様を祭る儀式として昔から伝えられている『お飯食の案内もん』『春駒』『強飯式』の3つの儀式を「生岡神社強飯式」と言います。この「強飯式」は、子供が演じるので「子供強飯式」とも呼ばれています。

毎年11月25日に生岡神社で、3つの儀式が3回くり返して行われます。



### ◇「子供強飯式」は、いつ頃から始まったの？

「生岡」とは、日光山の神様が生まれたところという意味です。そこにある生岡神社は、昔は、お寺で『生岡大日堂』と言いました。江戸時代になると、生岡大日堂に、仏様の教えを学ぼうとたくさんお坊さんが集まりました。そこに、輪王寺のお坊さんが来て行っていたのが、「強飯式」でした。それが、明治時代の神仏分離令\*10により、生岡大日堂は、神社になり生岡神社となりました。しかし、お寺ではなくなったので、輪王寺のお坊さんによる強飯式ができなくなりました。そこで、地元の青年が復活させ、しだいに高等小学生（今の中学生）が行うようになり、今では、小学生でも良いことになりました。

\*10 神様と仏様を分ける命令のことです。

### ◇「子供強飯式」の御利益

子供強飯式に参加した頂戴人や子供強飯式を見に来た人々は、生岡神社の神様が守ってくださり、七難即滅・七福即生（全ての災難や困難がなくなり、全ての幸せが生まれる）・家運長久（家族が元気で、商売もうまくいき、全ての願い事がかなえられる）など、願いがかなうと言われています。

### ◇「子供強飯式」の子供達

向かって左が、  
『山伏』を演じる  
子供です。

山伏は、仏様や神様の教えを広める人と言われています。



向かって右が、  
『強力』を演じる  
子供です。  
強力は、荷物を背負って山伏に従う人と言っています。

◇ 「子供強飯式」の内容

①



ほらがい  
法螺貝の合図で山伏が現  
れ、新役（太郎坊・次郎坊）  
の前に進みます。

②

山伏



太郎坊・次郎坊



山伏が、大きな声で太郎坊、  
次郎坊に「コリヤ、御新役、当山  
の作法、七十五杯、ツカツカ  
おっ取り上げてのう召そう、但  
し料理が望みか、強力をもつ  
て責む、ヤイ強力、料理をもつ  
エ。」と口上（セリフ）を言う。

③



強力が、「承う。」と大声をあげ、生大  
根を持つて現れます。強力は、「コリヤ、  
ちゅうぐうし きつからか じゃつこう  
中宮祠の木辛皮、寂光の青山椒、お花  
畑の唐辛子、生岡神社の生大根。」「コラ、  
諸所の名物、よせての御馳走、七十五杯ツ  
カツカおっ取り上げてのう召そう。」と口上を  
言う。そして、退席しながらふり返つて、「一  
粒も残しちやならん。」と再度口上を言う。

強力

\*強力の口上に出てくる名物は、輪王寺の強飯式【菜前】の名物を参考にしよう。

はんじき あんない  
◇「お飯食の案内」の内容



別当

別当（生岡神社を昔から守ってきた人のこと）が、里いもを盛った三方（食べ物をのせる台）を持って現れます。太郎坊と次郎坊に里いもを無理やり食べさせる儀式です。ずっと昔、お米がなくて困っていた時に、生岡神社の神様が、子供達に里いもで食い初めをさせたことから伝わったと言われています。

はるごま  
◇「春駒」の内容



春駒

別当、新役（太郎坊、次郎坊）の三人が春駒にまたがり順番に拝殿内を右回りに3回まわる儀式です。春駒は、頭が木彫りの馬で、体が青竹でできています。食い初めをした子どもが、大きくなり、竹馬にのって遊べるようになるまで成長したことを、神様に報告したことから伝わったと言われています。



ふたらさんじんじゃ  
**二荒山神社とわたしたち**

二荒山神社とわたしたちの生活には  
 どのような関係があるのでしょうか。

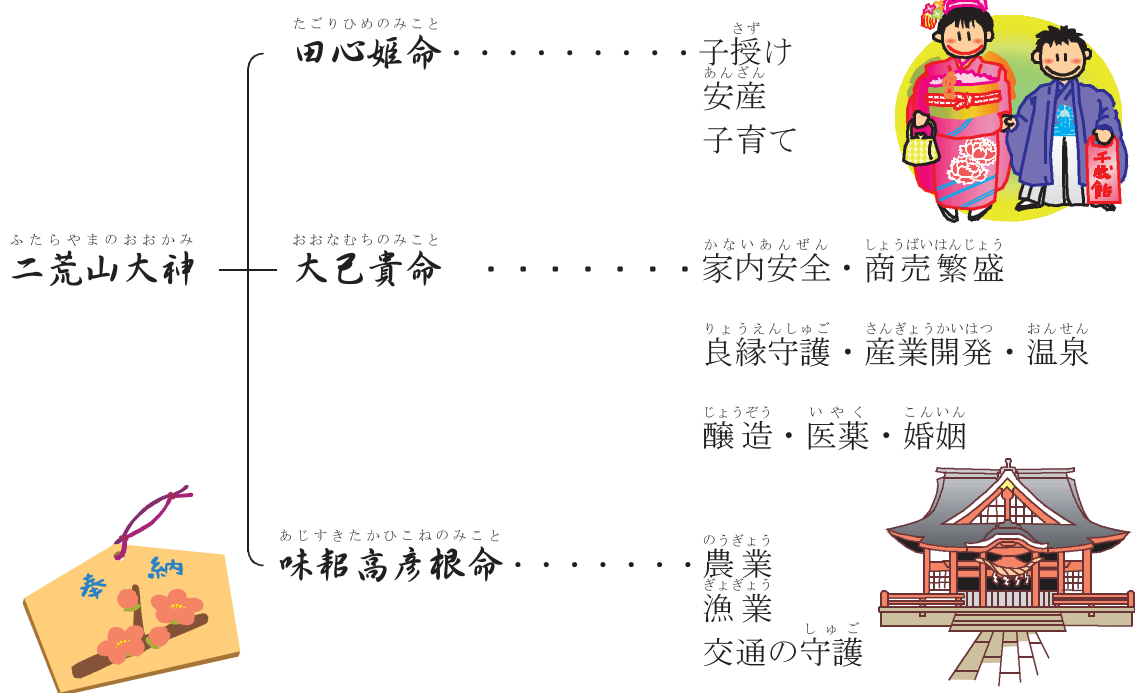
日光二荒山神社は、男体山（古く二荒山という）を御神体山として、奈良時代に祀られたお社であり、“日光の氏神様”として、私たち日光市民だけでなく、広く全国の人々からも尊いお社として親しまれています。

私たちは、この世に生まれてから、様々な節目において二荒山神社にお参りし、健康や安全を祈願します。また、仕事上でも、農業や醸造業などの産業の発展や商売繁盛を願う人々の信仰を集めています。

つまり、私たちは“二荒山大神”を氏神様として深く信仰し、密接なつながりをもっていることとなります。

二荒山大神とは、二荒山神社にお祀りしている三神をあわせた呼び方で、大己貴命（中心になる神様、主神）、田心姫命（主神の奥さんにあたる、妃神）、味耜高彦根命（主神と妃神の子、御子神）を指します。

この三神を二荒山の三柱神（神様は人間のよう一人二人とは数えず、一柱二柱と数えます）といいます。そして、それぞれの神様には下図のような御神徳（御利益）があるとされています。（二荒山神社コーナーP5参照）

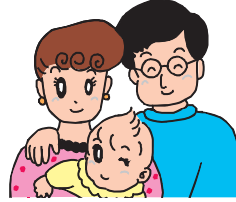


# 人生のおまつり

昔から人々は、人生の節目に子どもの成長や、家族の健康を祈ってお祝いをしてきました。人々はどんなときに神社（氏神様）にお参りするのでしょうか。

## 子どものとき

### 安産祈願



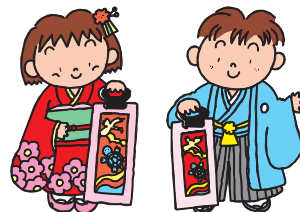
子どもは、神様から「授かる」といい、神様からの恵と考えられてきました。妊娠5ヶ月目の「戌の日」に神社にお参りし、安産を祈願し、帯祝いをします。「戌の日」にお参りするのは、犬は多産で安産であることから、この日にお参りするのです。帯祝いとは、岩のように丈夫に育ちますようにとの意味を込めて『岩田帯』と呼ばれる腹帯をしめることです。

### 命名

赤ちゃんが産まれて7日目にお祝いをします。このことを「お七夜」といい、名前を決めたり、初めて産着の袖に手を通したりすることが行われます。赤ちゃんの名前は、お父さん、お母さんがいろいろ考えてつけたり、おじいちゃんやおばあちゃんがつけてくれたりします。また、神社で名前をつけてもらうこともあります。

### 初宮

赤ちゃんが産まれて初めて神社にお参りすることを初宮といいます。氏神様に誕生の報告とお礼をし、健康に育つことを神様に見守ってもらうようにお祈りをするのです。男の子は31日目、女の子は33日目に行われていたようですが、赤ちゃんの健康を第一に考えて、良い日を選んで「お宮参り」が行われているようです。



## 七五三

子どもが成長し、三歳、五歳、七歳になると晴れ着を着て、家族そろって神社にお参りをします。これまでの成長を神様に感謝し、これからの成長をお祈りします。三歳は男の子・女の子、五歳は男の子、七歳は女の子です。どうしてこの年齢なのかは、古くからの習わしによります。三歳になると、男の子も女の子も髪かみの毛を伸ばし、整えるようになりました。これを「髪置かみおき」といいます。五歳になると、男の子は袴はかまを着るようになりました。これを「袴着はかまぎ」といいます。そして、女の子は七歳になると、帯おびでしめる着物おびときを着るようになりました。これを「帯解おびとき」といいます。

## 入学・卒業

子どもが成長し学校に入学したり、学校を卒業したりするときに神社にお参りをし、お礼やお願いをしたりします。日光市の小学校や中学校では、卒業のお礼にお参りをする学校が多いようです。また、高校や大学受験の合格祈願のためにお参りをすることもあります。

## 人々の生活の申で

### 神前結婚式



結婚は人生のおまつりの中でも、もっとも晴れやかなものの一つです。国や宗教によっていろいろな結婚式がありますが、日本では神社で結婚式をあげる人たちもいます。神様の前で、幸せな家庭かていを作ることを誓ちかい合います。これを「神前結婚式しんぜんけっこんしき」といいます。

### 厄ばらい

長い人生の中には、大きな病たいへん気くろうをしたり大変な苦勞くろうをしたりすることもあります。このような災わざわいを「厄」といい、神様にお祈りをして災（厄）を取り去ってもらうことを「厄ばらい」といいます。

### 初詣

みなさんの中にはお正月になると神社やお寺に新年のあいさつに行く人も多いでしょう。新年になって初めて神社やお寺に行くことを「初詣はつもうで」といいます。「新しい1年がよい年でありますように。」とか、「商売はんじょうが繁盛はんじょうしますように。」などと氏神様にお願いをします。

## ～ 男体山登拝講社大祭 ～

7月31日から8月8日にかけて、日光二荒山神社ふたらさんにおける年間最大の祭典、「男体山登拝講社大祭さいてん」が行われます。これは二荒山神社のご神体山である男体山の登拝修行しゅぎょうの祭りであり、この1週間に限って夜間登拝が許されています。お祓いを受け、午前0時を待って登拝、山頂奥宮さんちやうおくのみやに詣で、早朝のご来光らいこうを拝し、家内安全・諸願成就しよがんじやうじゆきげんを祈願します。男体山中腹、中禅寺湖湖畔に臨む中宮祠ちゆうぐうしを出発し、男体山頂上にある奥宮を目指します。期間中は諸祭典のほか、奉納花火、深山踊り、神輿巡行みこしじゆんこうなどが行われ、全国から数万人におよぶ登拝者が集まります。今回は、筆者も登ってみました。そのときに撮った写真とともに、登拝体験記を紹介していきます。

### ☆ 登拝体験記 ☆



1 中宮祠(登拝口)



3 4合目の鳥居



5 滝尾神社の賽銭箱



7 美しい風景



9 二荒山大神の銅像

登拝期間中、登拝門がきれいに飾り付けられます。登拝者の心得をしっかりと読んで、出発！1合目で二荒山大神ふたらさんに手を合わせる事ができました。これは、奥宮まで登れない人のために作られたものです。



3合目までは山道、3合目から4合目にかけてはアスファルトを歩きました。道中は、4合目の鳥居をくぐったここからが険しくなるとのこと。ゴツゴツした石の上を滑らないよう注意して歩きました。



8合目で滝尾神社に到達！苦難の道乗り越えてのものだけに、大きな喜びがありました。ひと休みをして、再び出発！ここからの道は、さらに険しさを増しました。気合いを入れて、がんばりました。



山頂へ近付くにつれて、見渡す景色はどんどん美しくなっていました。体の疲れを癒すには十分です。ここまで登ってきた充実感に包まれました。あとひと踏ん張り。両足に力をこめて、登りました。



出発から3時間半。ついに奥宮までたどり着きました。ひたすら感動！この気持ちは、自分で登って見ないと伝わらないかもしれません。みなさんも登ってみては、いかがでしょうか。



2 二荒山大神の石碑



4 険しい山道



6 険しさを増す山道



8 中禅寺湖を望む



10 男体山の山頂

けいだいまつしゃ ひえじんじや だいこくでん みともじんじや  
**境内末社〔日枝神社 大国殿 朋友神社〕**



**日枝神社**

平安時代（848年）に慈覚大師じかくだいしによってまつられたといわれています。山王社さんおうしゃとも言われ、山内には滝尾神社たきのお白糸ノ滝しらいとの近くや、東照宮とうしょうぐうの御旅所おたびしょの山王社などがありました。いずれも明治時代のはじめになくなってしまい、今はこの日枝神社だけとなりました。祭神は大山咋命さいじん、山の神様くいのみこと・健康けんこうの守り神。

〈日枝神社〉=重要文化財じゅうようぶんかざい 江戸時代のはじめごろ（1644～1648年）造られたといわれている。



ゆいいつ こうらんまね だいこくさま  
**〈全国唯一の幸運招き大国様〉**



だいこくでん  
 ≪≪≪ 〈大国殿〉=重要文化財

**大国殿**

祭神は大己貴命おおなむちのみこと。大国主命おおくにぬしのみことともいわれています。幸福を招く福の神様としてまつられています。毎月第2土曜日には縁日えんにちが、6月には「だいこくまつり」が開かれます。



**朋友神社**

祭神は少彦名命すくなびこなのみこと。本社の祭神・大己貴命（大国主命）と共に国づくりをされた神様として医薬の神いやく、知恵の神ちゑとあがめられています。

昭和48～49（1973～1974）年にかけて大規模な解体修理がおこなわれました。このことにより、それまでワラぶきであった屋根が板ぶきになりました。

〈朋友神社〉=重要文化財 江戸時代中期のころ建てられたといわれている。

どうとうろうろ　　ぼけどうろうろ

# 銅灯籠（化灯籠）



どうして、化灯籠なの？

夜ふけに火を灯すと、ゆらゆらと怪しげな姿<sup>あやすがた</sup>に変わるため警固<sup>けいこ</sup>の武士に切りつけられ、たくさんの刀きず<sup>かたな</sup>があるからといわれています。しかし、闇<sup>やみ</sup>の中で風に揺れる灯籠の火はそれだけで不気味でお化けのようです。

↓これが切りつけられたきずの跡だ！



お化けの  
正体は？



じゅうようぶんかざい　　してい  
重要文化財に指定されている  
からかねせいかずがつく  
唐銅製春日造りの灯籠（鎌倉時代）

灯籠に使っていたナタネ油をなめにきたモモンガかムササビだったということらしい。

他にも3つの伝説があるよ！

- ① 灯籠が蓑<sup>みの</sup>を着て笠<sup>かさ</sup>をかぶり出歩いていた。
- ② 灯籠に油を差し明かりをつけるが消えてしまう。灯籠が油をなめてしまうからだ、こらしめに灯籠を切りまくった。
- ③ 灯籠が人間に替わり蓑<sup>かの</sup>を着て立っていた。その蓑坊主<sup>みのぼうず</sup>を切り伏せたが灯籠に早替わりした。



ふたられいせん

## 二荒靈泉



【二荒靈泉】

この泉の水は、目の病気に効くといわれている「薬師靈泉」と、おいしいお酒ができるといわれている「酒の泉」の水が合流して、この場所に流れてきています。

昔は、「酒の泉」は、本当にお酒の味がしたといわれていますが、今は残念ながらお酒の味はしません。

# 二荒山神社の建築

**御本社**…江戸前期・元和5年（1619年）徳川二代将軍秀忠公により建てられました。八棟造りという特殊な建築様式で日光の社寺の中でも最も古い建造物の一つです。優雅な彫刻や文様など安土桃山様式の残る建築で建築史的価値が高いとされています。



**八棟造り**  
複雑に屋根を組み合わせた豪華な造りをしています。



**彩色文様**  
本殿の柱の上部には美しい文様がほどこされています。



**蕨股**  
下が開いて蛙の股のような形をして、上部の重みを支えています。



**丸彫・籠彫**  
両面から見られる立体的な彫刻に、極彩色といわれる色彩で彩色されています。

**拝殿**…江戸前期・正保2年（1645年）に建てられたのではないかとされています。和様を基本とした建築様式で、以前はすぐとなりにあった輪王寺三仏堂と様式が似ている点があります。本殿と違い彩色文様も彫刻もなく単純だが力強い印象の建造物です。

## 本宮神社

大谷川と稲荷川の合流する丘の上にあります。日光山を開いた勝道上人が、初めて大谷川を渡り二荒山（男体山）を遠く眺めて拝んだ場所で、二荒山神社始まりの地となっています。古くから御本社・滝尾神社と共に、「日光三社」として信仰を集めています。

平安・大同三年（808年）に建てられ、味耜高彦根命を祀り、農業・漁業・交通安全の神と称えられています。本殿・拝殿とも、江戸・貞享元年（1684年）の大火で焼失し、翌年再建したものです。現在、どちらも銅板瓦の屋根ですが、当初は植物性のふき材であったと考えられています。



**本殿**…三間社流造り。方柱（四角い柱）のある向拝（ひさし）の廻りのみ、色鮮やかな極彩色で塗られていますが、その他は内外部とも弁柄塗りで、柱も円柱となっています。



**拝殿**…間口・奥行きとも三間（6.68メートル）で、屋根は入母屋造り。軒の廻りは疎垂木（間かくが広いたるき）で、柱はすべて方柱です。内外部とも弁柄漆塗りで、彩色はありません。

# しんぶつぶんり りんのうじ 神仏分離にゆれた輪王寺



これは何？

これは明治10年(1877年)の、三仏堂の移転工事の様子を写したものです。三仏堂はこれまで二荒山神社のところにあったのですが、神仏分離令によって現在の場所に移されたのです。

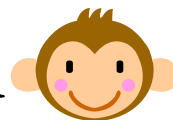


神仏分離令  
って何？

明治新政府は、天皇を中心とする政治を進めるため、神道を国の宗教として位置づけ、全国の神社を整理し直そうとしました。そのため、これまで神仏がいっしょに祭られてきたのを、はっきりと区別して分けようとしたのです。日光山は、明治4年(1871年)に県から神社と寺の敷地の区別を明らかにし、神社の敷地内から仏堂などをすべて移すようにと命じられました。

県の役人が立ち会って、建物だけでなく彫刻や祭礼の道具などまで、神社のものか寺のものかを調べました。その結果、二荒山神社境内と東照宮境内とされた地域から、三仏堂、相輪塔、鐘楼、本地堂、五重塔、護摩堂、経蔵などを、輪王寺(当時、満願寺)へ移すよう命じられました。しかし、輪王寺は寺の所有地を大幅にけずられたうえ、本坊が火災で焼けてしまったり、諸大名に貸していたお金が返してもらえなくなったりしたため、移転の費用が用意できず、二度にわたって延期を願い出しました。

神仏分離はどのよう  
に進められたの？



輪王寺の建物はどう  
うにして守られたの？

神仏分離令は、各地で仏教を排除する廃仏毀釈にまで発展してしまい、新政府も行きすぎを反省し、方針を変えることになりました。

輪王寺の財政事情が苦しく、移転の延期を願い出していたことが結果として幸いしたのです。また、近くの住民たちも日光町民全体の生活問題であるとして、連判状をまとめ、落合源七、巴快寛らが県や国に日光山の現状維持を願い出しました。こうした働きかけのかいあって移転は相輪塔と三仏堂だけにとどまり、移転費用として明治天皇より3000円(現在のお金で6000万円くらい)が下賜されました。こうして三仏堂は無事移転され、昔からのすがたを今に伝えることができたのです。



## ☆神橋の歴史☆

時代	年	主なできごと
奈良		<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝道上人が日光山を開いた奈良時代後期にかけられたとされるがはっきりした記録はない。</li> </ul>
室町		<ul style="list-style-type: none"> <li>・室町時代の旅行記(「回国雑記」「東路の津登」)に神橋が書かれている。当時すでに広く知られた橋であった。</li> </ul>
江戸	1636	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寛永13年の東照宮の造り替えとともに、それまでのはね橋構造に石造りの橋脚を取り入れたものへと変わる。主に神事、将軍社参、勅使(天皇からの使い)などが山内に向かうときのみ使用され、この時、一般の通行が禁止となり、下流に仮橋がかけられた。この仮橋が現在大谷川を渡る国道になっている。</li> </ul>
昭和	1950 ~1956	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寛永の造り替え以降は、十数年から二十年ぐらいの周期で、修復・架け替え工事を実施。</li> <li>・昭和25~31年全体解体・塗装修理の架け替え工事実施。</li> </ul>
平成	1997 ~2005	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成9~17年全体改修塗装修理実施工事。</li> </ul>



参照ページ(神橋の伝説と勝道上人について)

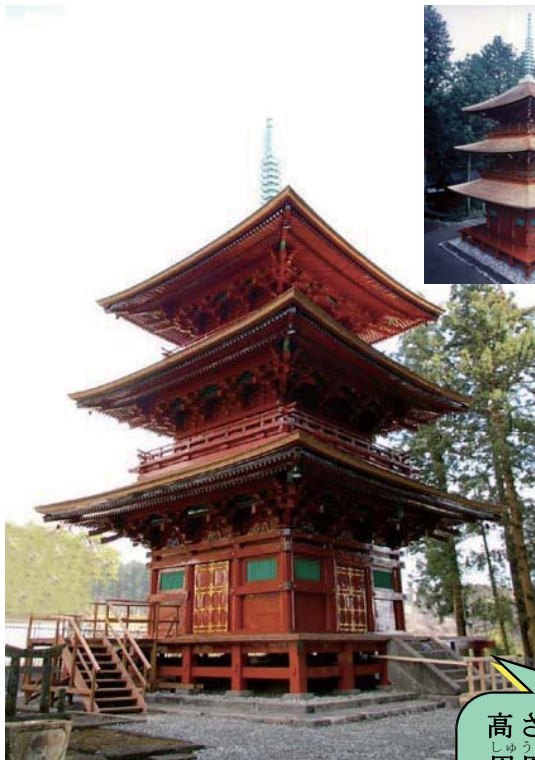
→『日光の社寺 ゆかりの人々コーナー』 勝道上人パートI

→『日光二荒山神社日光山輪王寺コーナー』 ☆日光山輪王寺の始まり☆

## ☆神橋の建築☆

<p>けいじょう</p> <p>①形状</p> <p>ちゅうぜんじこ けごん たき だいやがわ 中禅寺湖から華厳の滝を落ちて流れる大谷川にかけられた、</p> <p>はば 長さ 28 m、幅 7.4 m、水面からの高さ 10.6 mの橋</p> <p>②視覚上の特徴</p> <p>ゆうだい しぜん つく 雄大な自然の景色の中で、太い木を用いた造りの美しさ</p> <p>やわ えんこ こうせい ゆうが と、柔らかい円弧で構成された優雅な曲線による美しさ。</p> <p>うるしぬり べんがらしゆ しゆいろ しきさい 漆塗の弁柄朱の朱色が引き締める色彩の美しさ。この2</p> <p>つの美しさが合わさり、スケールの大きさと繊細さと優雅さを印象づける。</p> <p>③構造上の特徴</p> <p>さんかん けいこく さんだいききょう 山間の溪谷に用いられた「はね橋」形式としてはめずらしい古い橋で日本三大奇橋</p> <p>やまぐちけんきんたいきょう やまなしけんさるはし (山口県錦帯橋、山梨県猿橋)の1つに数えられている。</p> <p>はしげた ち き がわ がんぼん う こ 橋桁を「乳の木」と呼び、そのケヤキの大材のはしを川岸の岩盤に4mほど埋め込み、</p> <p>うわむ つ きょうきやく 兩岸よりななめ上向きに突き出させその先を石の橋脚で支えている。そして、中央部で兩岸からの橋桁に短い橋桁を上からのせ置き骨組みを造る構造となっている。</p> <p>④今後の課題</p> <p>橋桁に使用されているケヤキ材をどのように調達していくかが今後の大きな課題である。</p>	
---	--

# 四本龍寺 三重塔



奈良時代末766年、勝道上人によって創建された四本龍寺の境内には、朱塗りの美しい三重塔がそびえたっています。

三重塔は、1241年鎌倉幕府第三代将軍、源実朝公の死後の冥福を祈るために建てられました。

その後、一度焼けて失われましたが、1713年再び建てられました。2003年から4年間かけて大規模な修理が行われ、再建当時の姿によみがえりました。

高さ 24.24メートル  
周囲 5.47メートル四方



## 三重塔の秘密をさぐる

### その1 屋根の秘密

Q 三重塔の屋根は、何でできているのでしょうか？

答え

木の板で作られた屋根を「桷葺」と言います。今回の修理で、再建当時の屋根は「桷葺」だったことがわかりました。



「桷葺」の作業

### その2 相輪の秘密

Q 塔の一番上に立っているポールには、輪がいくつあるのでしょうか？

答え



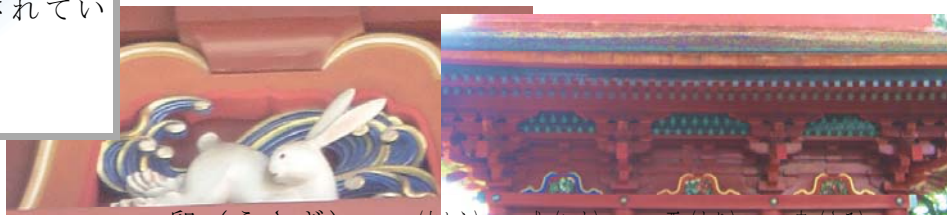
塔には、「相輪」という飾りのついたポールが立っています。「相輪」には、9つの輪がついた「九輪」や「水煙」が積み重ねられています。

### その3 彫刻の秘密

Q 1層目の屋根の下部分（かえる股）には、何の彫刻がほどこされているのでしょうか？

答え

子（ねずみ）は北、卯（うさぎ）は東、午（うま）は南、酉（とり）は西というように、十二支で方角を示しています。



卯（うさぎ）（左から） 戌（いぬ） 酉（とり） 申（さる）

# 四本龍寺の主な史跡

## 観音堂



奈良時代末期766年、日光開山の祖である勝道上人によって建てられました。平安時代初期807年には、当時下野国司であった橘利遠が、千手観音をまつり、大きな御堂に建てかえました。その後何度も火災にあり、現在の観音堂は、1684年に焼失後、再建されたもので、二社一寺の建造物の中では珍しい白木造り(※1)の建物です。

また、1874年(明治7年)には、金剛童子を合わせまつったことから、「金剛堂」とも呼ばれています。

※1…何も塗らない地のままの木材で造ること。

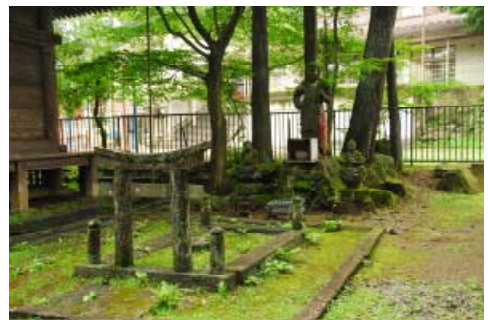
大谷川を蛇の橋で渡り、山内に住んで修行をしていた勝道上人が、ある日、礼拝をささげるとき、この石のあたりから紫の雲が立ちのぼり、男体山の方へたなびくのを見たということから、「紫雲石」と呼ばれています。そして、この地を四神守護の霊地(※2)と悟り、四本龍寺が建てられました。このことから、「四本龍寺」の名前の由来は、「紫雲立寺」といわれています。

※2…東の青龍、西の白虎、南の朱雀、北の玄武をまつる神聖な地。



## 紫雲石

## 護摩壇と不動明王



三重塔と観音堂の間には、石の護摩壇があり、その正面には不動明王がまつられています。

# 日光二荒山神社の配置図



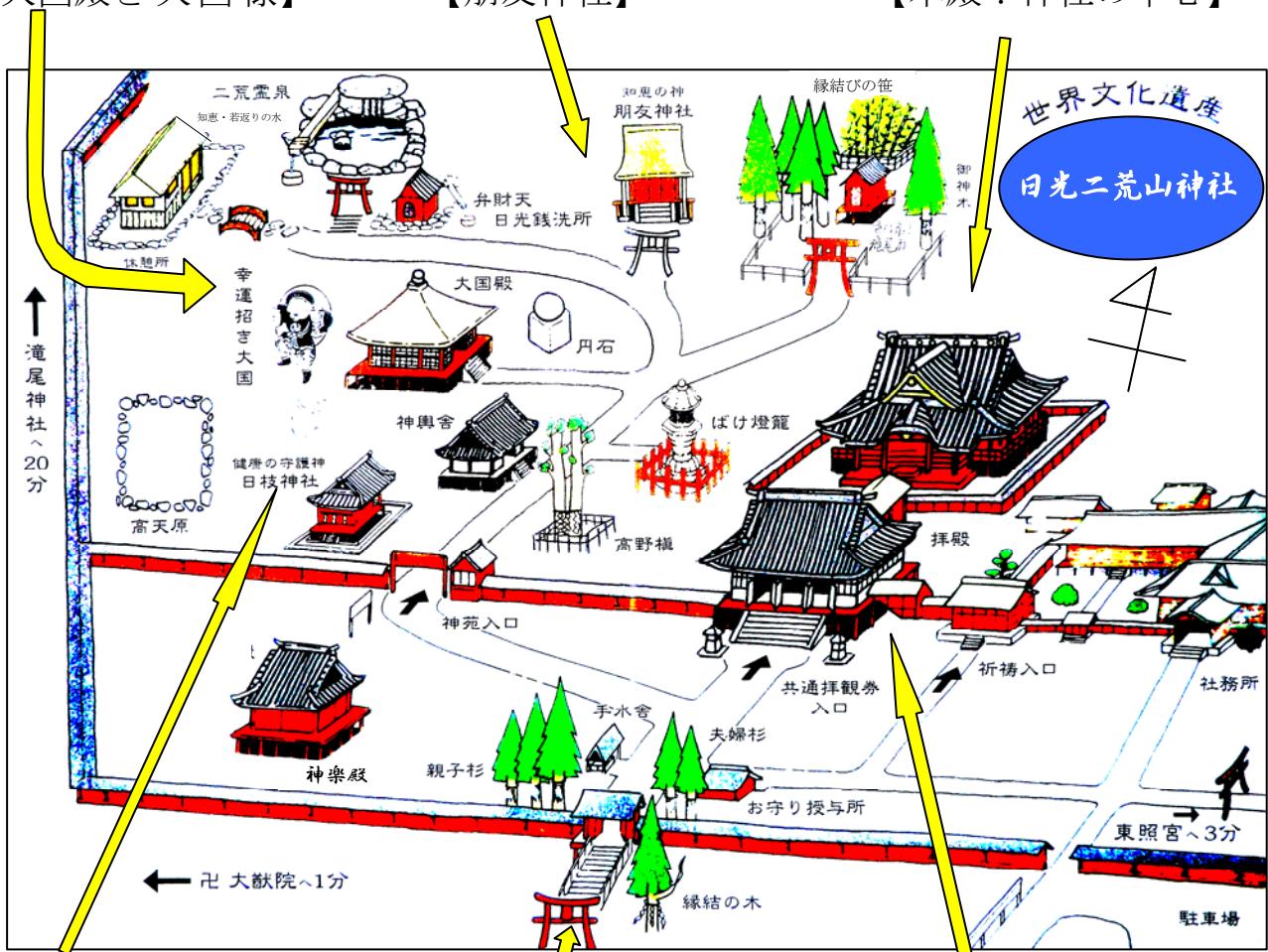
だいこくでん だいいこくさま  
【大国殿と大国様】



みともじんじゃ  
【朋友神社】



ほんでん  
【本殿：神社の中心】



ひ え じん じゃ  
【日枝神社】



とりい  
【鳥居：神社の門】



はいでん いの  
【拝殿：神に祈る場所】

日光二荒山神社の別宮として、滝尾神社と本宮神社があります。

## 輪王寺と朝鮮通信使との関わり

三代将軍徳川家光は日本の船が海外に出ることを禁止し、外国から来ることも断りました。この時代に、日本が交流した外国は、中国とオランダ、琉球、朝鮮に限られ、中でも「通信の国」と呼ばれた琉球と朝鮮とは貿易とともに外交も行っていました。

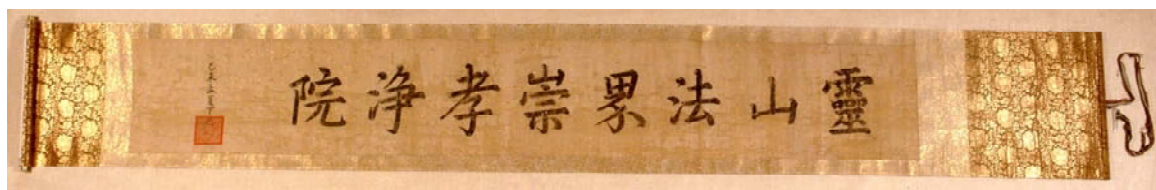
江戸時代、朝鮮通信使が日本に来たのは、合計12回になります。そのうちの④～⑥回目に当たる、④寛永13年（1636年）、⑤寛永20年（1643年）、⑥明暦元年（1655年）の3回、日光山にお参りに来ました。三代将軍家光が大猷院として日光に祀られると、⑥回目の明暦元年には東照宮だけでなく、大猷院にも儀式を行うために322人の通信使が来しました。

明暦元年の通信使が大猷院に贈った数々の品は、李朝国王孝宗（在位：1649年～59年）の額字をはじめ、大花筵、楽器、燈籠などが、輪王寺に今日まで伝えられています。これらは、当時の朝鮮文化を伝える上でも貴重な品ばかりです。

### 朝鮮通信使が輪王寺に伝えた宝物

（日光山輪王寺蔵）

朝鮮国王孝宗親筆額字



この額字は朝鮮国王の孝宗が書いたものです。ここには『靈山法界崇孝浄院』と書かれています。靈山法界崇孝浄院とは、日光大猷院（靈山法界＝日光、崇孝浄院＝大猷院）のことです。その意味は、仏を祀る聖なる山「靈山」に、将軍家綱が父のために寺を建てた孝行をあらわしています。（大瀧晴子氏）

朝鮮国王書と  
朱漆塗箱（龍文）



書と書を入れる箱

銀製香合

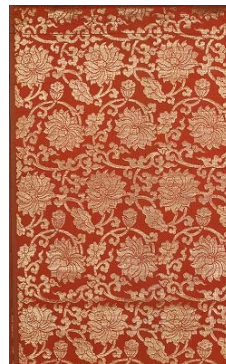


香料を入れる容器

大花筵



紅地一重蔓蓮  
唐草文金襴



# 朝鮮通信使から贈られた宝物の不思議発見！

ぎよ 敵 (日光山輪王寺蔵)



## びっくり情報！

音楽を止めるときに鳴らす音が、  
おどろ 驚くような大きな音だったため、  
「ぎよっとする」の語源になりました。

## その1 どこで音を鳴らす？

Q 敵は中国古代の楽器です。木製で、  
とら 虎が伏したような形をしています。音楽を  
あいず 止める合図に使います。左の写真から音を  
鳴らす場所を見つけましょう。

答え 背中 (敵の背中には27の刻みがあり、この刻みを竹でこすって鳴らします。)

しく 祝



(日光山輪王寺蔵)

## その2 どんな合図に使った？

Q 祝は中国古来の楽器です。四角の  
もくせい はこ 木製の箱でふたの中央にあながあり、中に  
ちゆうおう 木を入れて、これで底面を打ち鳴らすもの  
てい 面をう です。祝は、どんな合図に使ったのでしょ  
う？

答え 音楽を始める合図に使った



どうとうろう 銅燈籠 (大猷院)

## その3 胴体の形

Q 朝鮮通信使から贈られた銅燈籠は、胴体が「寸胴」  
ずんどう (まっすぐ) になっています。右の写真から「寸胴」の銅燈籠を見つ  
けましょう。 答え



てんによ 天女

## その4 彫られているもの

Q 銅燈籠には、どんな不思議なものが彫られているでしょう？

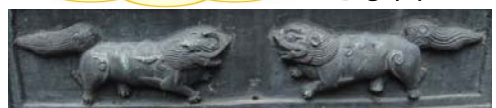
答え 天女、こま犬、竜など



読めるかな？

こま犬

りゅう 竜



にっこうとうしょうぐう  
日光東照宮コーナー



# 日光山中禅寺 (立木観音)



中禅寺立木観音

中禅寺は、勝道上人によって創建されたお寺で、日光山輪王寺の別院です。中禅寺湖の南側、歌ヶ浜にあります。

本尊の立木観音は、勝道上人が男体山を登頂した時に中禅寺湖の湖上に現れた千手観音を彫ったものといわれています。また、境内にある波之利大黒天は、勝道上人の男体山登山の時に現れ、上人の願いをかなえた大黒天を彫ったといわれています。

中禅寺湖の波の上に姿が現れたことから、波之利（なみのり）とかいて「はしり」と読みます。

中禅寺やその周りには、勝道上人にまつわる物やお話がたくさん伝えられています。それらも調べてみると楽しいでしょう。

**移り変わり** 初め立木観音は、今の場所とは違うところに安置されていました。現在の二荒山神社中宮祠のところにありました。1902年の暴風雨で山崩れにあい、仏堂と共に立木観音も中禅寺湖に流され、行方がわからなくなりました。その後、歌ヶ浜の地で立木観音が見つかり、現在の中禅寺の場所に建て直されました。

784年	延暦3年	中禅寺湖の北側（現在の二荒山神社中宮祠のあたり）に神宮寺（元の中禅寺）が建てられた。
1902年	明治35年	暴風雨のため山崩れにあい、仏堂が流されてしまった。
1912年	大正2年	歌ヶ浜（現在の中禅寺）に建て直された。

## 江戸時代の中禅寺湖の絵図

（「日光山縁起絵巻 第5巻 所収」日光山輪王寺所蔵）



神宮寺（元の中禅寺）

千手ヶ浜

大日崎

五大尊

上野島

八丁出島

歌ヶ浜・現在の中禅寺



# 立木観音



ほんどう せんにゅうかんのんぞう  
本堂にまつられた十一面千手観音像

しょうどうしょうにん  
勝道上人の作といわれる日光で  
いちばん古い仏像です。



Q どうして立木観音とよばれているの？

カツラの木をたおさずに根が  
ついたまま立木の状態で彫ったの  
で、立木観音とよばれています。



Q 手は何本あるの？

左右の手は、寄木造りで42本  
あります。1本の手で25の願いを  
かなえてくれるといわれています。

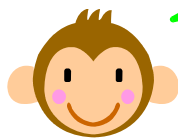


Q 顔はいくつあるの？

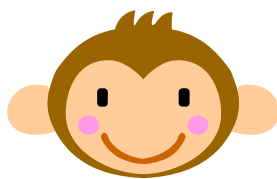
じゅういちめんせんじゅかんのんぼさつ  
正しくは、十一面千手観音菩薩といわ  
れ、頭に11の仏像をのせています。



Q 高さはどのくらいあるの？



足もとから頭まで約6mの高さといわれています。



観音様のまわりには、してんのうぞう お  
いてあり、東西南北の方向から観音様を  
おまもりしています。

この四天王像は、かまくら  
みなもとのよりとも きしん  
源頼朝が寄進したものです。



日光山中禪寺には、ほかにどんなものがあるのかな。

## 〈<sup>ごだいどう</sup>五大堂〉

<sup>ほんどう</sup>本堂うらの高い所に<sup>た</sup>建てられたのが五大堂です。これは、山々のお堂の<sup>ほとけさま</sup>仏様を集めて建てられ、昭和47年に<sup>しやうわ</sup>完成した<sup>かんせい</sup>ものです。

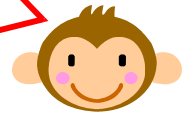


中央に<sup>ふどうみやうおう</sup>不動明王が<sup>あんち</sup>安置されています。



中禪寺の五大堂

<sup>てんじやう</sup>天井もよく見てみよう



<sup>かたやまなんぶうがはく</sup>堅山南風画伯によって<sup>えが</sup>天井に描かれた<sup>だいうんりゆう</sup>大雲龍



日光の<sup>しき</sup>四季の花々が描かれた<sup>こうしてんじやう</sup>格天井

## 〈<sup>はしりだいこくてんどう</sup>波之利大黒天堂〉



<sup>ほんぞん</sup>本尊は<sup>ひほう</sup>秘宝です

## 〈<sup>あいぜんみやうおうぞう</sup>愛染明王像〉



愛染堂にまつられています

## 〈<sup>みが</sup>身代わりのこぶ〉



<sup>けいだい</sup>境内にあります

## 船禅頂について

船禅頂とは、中禅寺湖岸の霊場を船で巡拝する1200年前から続いている儀式で、毎年8月4日に行われています。これは日光を開山した勝道上人が、弟子の道珍とともに霊場を巡り、祈念したことから始まった行事です。

### 船禅頂体験記(平成18年8月4日)



1 石護摩壇

「船禅頂」はまず、中禅寺境内の石護摩壇にお供えをして、お経を唱えることから始まりました。厳かな空気の中、勝道上人ゆかりの霊場巡拝に参加しました。



2 読経のようす



3 八丁出島

供養船に乗って、湖上へ出ました。湘南の寺ヶ崎(八丁出島)「薬師堂跡」で、読経が行われました。わたしも船上から手を合わせました。



4 供養船で移動



5 上野島

南岸松崎の五大尊をお祀りした「日輪寺跡」を巡ったのち、上野島の「日光開山勝道上人墳墓」をおが拝みました。男体山とのコントラストが美しく、感動的でした。



6 墳墓供養



7 千手ヶ浜

「大日崎」を遠くから拝んだのち、供養船は千手ヶ浜に着きました。歩いて向かった「千手堂跡」では、参加者全員が自然と手を合わせました。



8 千手堂跡



9 二荒山神社中宮祠

昼食を船内でとったのち、二荒山神社中宮祠を船から拝みました。歌ヶ浜に戻ったのち、立木観音像の前で読経して終了しました。もし機会があれば参加体験してみてください。



10 中禅寺本堂

# 日光東照宮



陽明門



陽明門の彫刻



五重塔

日光東照宮は、元和3年（1617年）に、徳川家康公を神として祀ったことに始まります。

元和2年（1616年）4月17日、徳川家康公は駿府城（静岡県静岡市）において、75歳で亡くなり、久能山に葬られました。家康公は「遺体は久能山におさめ、一周忌を過ぎたならば、日光に小さなお堂を建てて祀りなさい。そうすれば、私が日本の国の守り神になりましょう。」と遺言をしました。

二代将軍徳川秀忠公は遺言に従い、その準備を進めました。翌年（1617年）の2月に、朝廷から東照大権現の神号が授けられました。3月には、主な社殿が完成し、久能山から柁を移し、4月17日に東照大権現を祀る東照社が造られました。

その後、徳川三代将軍家光公は、寛永11年～13年（1634～1636年）にかけて、社殿のほとんどを造り替えました。正保2年（1645年）に朝廷から宮号が与えられ、以後東照宮と呼ぶようになりました。

そして、江戸時代を通じて、主な修理事業だけでも20数回行われました。こうした、幕府の保護政策により、日光東照宮は、豪華できらびやかな社殿を今に伝えているのです。

ようめいもん れいじゅう  
陽明門の霊獣と動植物

りゅう  
龍



東照宮の霊獣の中で、2番目に数が多いのが龍です。

龍は、神秘的な力を有するという想像上の動物で、深淵や海中に潜み、時には雲を起し、雨を呼んで空中を飛翔します。

龍は、三代將軍徳川家光の干支であり、古代中国では王権のシンボルであることから、東照宮を飾るのにふさわしい霊獣とみなされ、印象的な場所に多用されています。

特徴は、目が鬼、頭がラクダ、耳が牛、角が鹿、胴体は蛇、鱗は鯉、腹は蟹、掌は虎、爪は鷹の九つです。

## 息

陽明門の屋根の下には、2段に龍の頭が並んでいます。この二つを見比べてみましょう。

下の段のものには、ヒゲがなく、まるでブタのように上唇に鼻孔がついています。さらに、一角で、牙があり、襟足の毛髪はカールしています。これを「息」といい、「いき」と読むのか「そく」と読むのかもはっきりしていません。

鱧が元の姿という説もありますが、どんな動物かはっきり分からない、何とも奇妙な動物です。



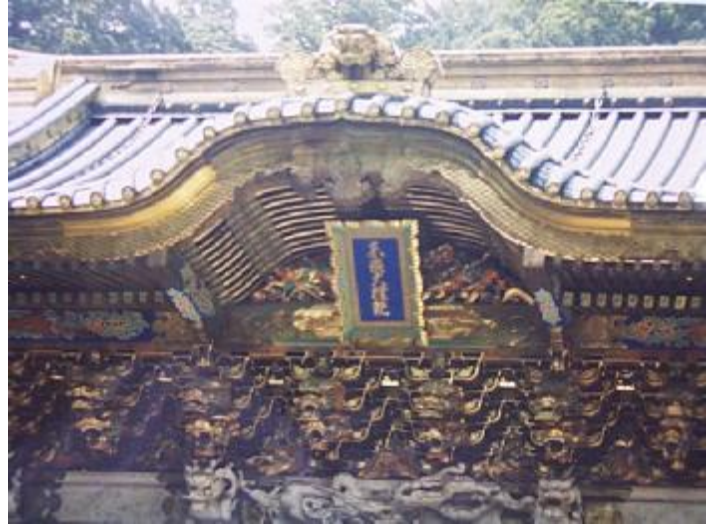
## 陽明門（太陽が明るく輝くことを意味する）

～「日暮らし門」ともいわれます～

この門の彫刻や絵画をよく見ていたら日の暮れるのも忘れるからです。由来は京都御所の中にある東の正門の名をいただいたといわれます。

ほかに「勅額門」ともいわれます。それは、唐破風の所に後水尾天皇の筆といわれる「東照大権現」の額がさがっているからです。

その上には鬼の面がついており、恐ろしい顔で下をにらんでいます。これは、この門内に悪魔をいれないようにと、鬼が見張っているのです。



陽明門

～構造～

入母屋、四方唐破風（中央が盛り上がり、両端が反り返った曲線が特徴）造りです。面積33平方メートル（10坪程度）、費用約3億円、1坪平均3千万円といわれます。高さ11.1メートル、正面の長さ7メートル、奥行き4.4メートルです。

～いったいいくつの彫刻があるのでしょうか～

○508体

人物42・霊獣194・鳥類71・植物159・昆虫7・水波17・雲18

地紋（一定の図形が繰り返される模様）とよばれる彫刻が柱や梁にあります。

○東照宮で3番目の彫刻の数です

ちなみに第1位本社（本殿・石の間・拝殿）2468体

第2位唐門611体



逆柱

～「魔除けの逆柱」～

12本の柱には胡粉（貝殻をすりつぶしてつくった白色の顔料）が塗られ、グリ紋とよばれる地紋が彫られています。しかし、内側の2本目だけが他の柱と逆に下向きになっています。これは、魔除けのためにわざわざ逆に彫ったといわれます。

グリ紋は中国の漆工芸品のデザインに多く見られ、一見、獣の顔を想像させ、これ自体にも魔除けの意味があるといわれます。

<こんな説もあります>

建物は完成した瞬間から崩壊が始まります。それなら、仕残しして完成させなければ、崩壊しません。しかし、実際仕残しがあっては困ります。そこで、1か所だけ他と異なるようにしたのではないかという説です。

## 龍馬

龍馬は、ひづめをもつ龍のことで、  
顔は龍に似ていますが、太いひげがなく、足に馬と  
同じようなひづめを持っています。体が白くぬられ、  
目とひづめが金色をしています。陽明門には浮き彫り  
の龍馬が8頭いて、空に駆け出さんばかりの姿です。



## 唐獅子



唐獅子は、聖域を守る獣として中国から  
古い時代に伝わったライオンのことです。  
鼻の先が広がり、爪と目が金色をしてい  
ます。陽明門には76頭もいて東照宮全  
体のほとんどの唐獅子がここにありま  
す。唐獅子の勇ましい姿が、当時の武将たちに  
好まれました。

## 牡丹

牡丹は、東照宮の中で、最も数の多い彫刻です。  
陽明門には、大きい浮き彫りの牡丹が左右にありま  
す。東照宮全体では、1000体もあります。中国の  
古い時代から、この花は「花の王様」と言われ、人々  
に大変愛されました。牡丹は、葉先が3つに分かれて  
いて緑色が濃いのが、特徴です。



## 錦鶏



錦鶏は中国から伝わったキジの一種です。  
尾の先が真っすぐで長く、頭に冠のよう  
な羽があつて、腹が赤いのが特徴です。東  
照宮全体では40体も彫刻されています。  
錦鶏の彫刻の多くは、バラの花と一緒に彫  
刻されています。

## 鯉

東照宮の彫刻の中で、魚介類は鯉だけです。  
陽明門には、琴高仙人の乗った鯉が彫刻されていま  
す。仙人は琴の名人で、800年も長生きをしたそう  
です。ある時弟子たちに「龍の子を捕まえる。」と約  
束して川の中へ入り、大きな鯉に乗って現れ人々を驚  
かせました。波間から姿を見せた瞬間がこの彫刻です。



# 陽明門の唐子彫刻

陽明門の正面、高欄こうらんと呼ばれる黒い手すりのところに、「唐子の知恵遊び」と呼ばれる子どもたちの彫刻があります。ジャンケン、竹馬、鬼ごっこなど、現代も見られる様々な遊びが描かれています。

遊びの彫刻は20体、他に花鳥の彫刻が10体あります。なぜ、遊んでいる子どもの彫刻があるのでしょうか？



「けんか」 正面東側の右から4番

その答えは「平和への願い」がこめられているといわれます。平和な世界にこそ、子どもたちはのびのびと暮らすことができます。そして、平和な世界を築くのも子どもたちです。その意味で、子どもはどんな時代でも宝物以上に大切なのです。子どもに「正しい道を歩んで平和の礎になってほしい」という家康公の願いを、唐子の彫刻は訴えているのです。



「司馬温公のかめわり」 正面中央

子どもの成長にとって大切な「遊び」は、家庭や学校以上に多くの事を学んでいく場であるとともに、動植物や昆虫との触れあいは生命についての優れた教育の場でもあり、自然の美しさ、厳しさを学ぶ場にもなるのです。



「鬼ごっこ」 正面中央の左側



「雪だるまを作っているところ」 背面中央



し ば おんこう かめ  
司馬温公の瓶割り

－生命の大切さ－

場所 : 高欄こうらんの正面中央

昔の中国ほくそう政治家、司馬温公しじつがん（司馬光ともいう）の子どものころの話です。  
温公は、『資治通鑑』という、294巻にもおよぶ政治の参考となる書物を書いた学者としても有名です。

大きくてとても高価な水瓶がありました。そのあたりで友達と遊んでいたところ、友達の一人がその水瓶の中に落ちて、今にもおぼれそうになっています。そこで温公は、友達を助けるために、父親からしかられるのを覚悟して石で瓶を割ったのだといいます。その結果、友達の命は救われました。

それを聞いた父親は、しかるどころか温公をほめたたえ、改めて命はどのような高価なものよりも大切だということを教えたそうです。

写真の矢印A・・・瓶が割られたので、落ちた子が中からはい出している。

写真の矢印B・・・石を持って、手をふりあげている温公。

写真の矢印C・・・友達が助かったので、喜んで手をたたいている子。

写真の矢印D・・・大切な瓶を割ったところにおいて、しかられると思ったのか逃げ出した子。

写真の矢印E・・・びっくりして何もできなかった子。

勉強に関する彫刻は右端にありますが、命を救う彫刻は中央に置かれています。

このことは、勉強以上に命を大切にしなければいけないということをあらわしています。

D                                  B                  A                          C                  E  
↓                                  ↓                  ↓                          ↓                  ↓



おもてもん におうぞう れいじゅう  
表門の仁王像と霊獣

におうぞううんぎょう  
仁王像吡形



におうぞうあぎょう  
仁王像阿形



おもてもん にっこうとうしょうぐう だい1 もん きゅう におうぞう あんち におうもん  
表門は日光東照宮の第1の門で、左右の仁王像を安置するところから、仁王門とも  
よばれています。身 たけ 4mの仁王像ははくりよく 力をもつて おとす 訪れる人を圧倒します。

しょうめんむ しょうめんむ  
正面向かって右側の像が、口を開けた「阿形」を、左側の像が、口を閉じた「吡形」  
をしていて、わざわ 災いから日夜、御門を守っているのです。

ばく  
獬



獬は、東照宮の中で 龍・唐獅子に次いで3  
番目に数の多い霊獣です。

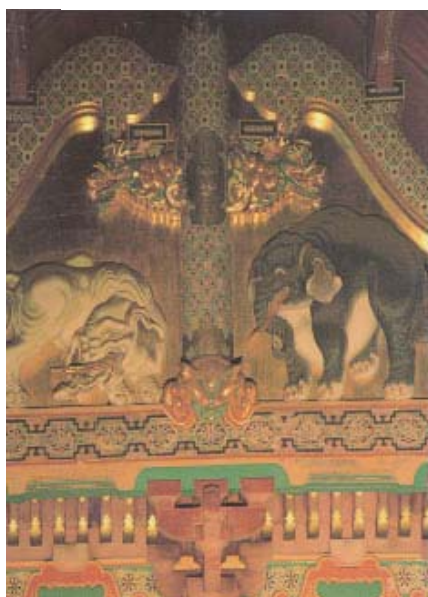
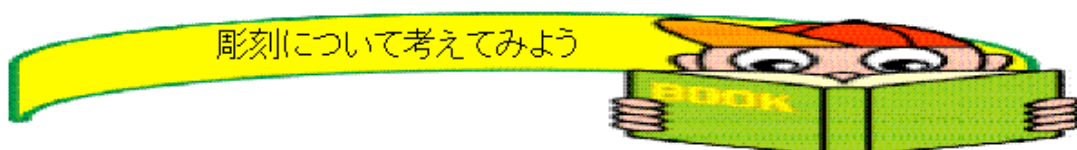
獬の特徴は、熊の体に象の鼻、犀の目、牛  
の尾、虎の脚の5つです。鼻が長いので象とま  
ちがえやすいですが、目が丸く首のあたりに巻  
き毛状の体毛があるので、区別することができます。

鉄や銅を食料とする獬は、それらを材料  
として作られた武器を必要としない、平和な世  
の中にしか生きることができません。

平和のシンボルとして、獬の彫刻は、表門  
で力強く神秘的な姿で世の中の動きを見つめ  
ています。

## さんじんこ 三神庫

表門を入るとすぐに、三つの建物があります。門に近い方から、下神庫、中神庫、上神庫です。3つ合わせて三神庫と呼びます。神庫とは祭具を入れる倉という意味で、中神庫・下神庫には千人武者行列など東照宮のお祭りに使う道具などがしまっており、上神庫は『御宝蔵』とも呼び、もっとも重要な御神宝をしまっておいたところです。この三神庫は、『校倉造り』という通気がよく品物をしまっておくのに適した造りになっています。



「鼻が長く、体が大きく、牙のある動物」と聞いて皆さんはどんな動物を想像しますか。そう、『象』です。三神庫の一つ『上神庫』の南側の妻には象が二頭彫刻されています。けれども東照宮が造られた400年前には、動物園があるわけではなく、下絵を描いたと言われる狩野探幽も本物の象は見たことがありませんでした。そのため象についての話を聞いただけで想像してこの象を描いたといわれています。そこで、この象は『想像の象』と呼ばれています。皆さんが見たことのある本物の象と比べながら見てみましょう。どんなところが似ていますか。また、どんなところが違いますか。



象と猿はよく似ていますが、目と体にちがいがあります。よく見てみましょう。

## さいじょう 西浄

三神庫にはさまれるようにひっそりと、朱塗りの建物が建っています。東照宮の建物の中でただ一つ、何の彫刻もない建物です。これが『西浄』、実は神様のトイレです。中を見ることはできませんが、漆塗りの9つの便器があります。作られてから今まで、人間はだれも使ったことがありません。東照宮の七不思議の一つです。

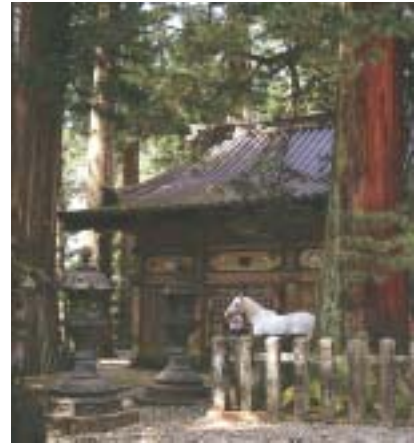


# 神厩（舎）

（神様に仕える神馬の勤務場所が神厩舎）

神厩は神様にお仕える神馬をつなぐための建物で、境内唯一の  
素木造りです。参道に面した方は側面で、東向きが正面です。内部  
は二つに分かれ、前方に馬をつなぐ場所があり、石の間をおいて、  
後方が畳敷の部屋になっています。

神馬の勤務時間は、午前10時から、午後2時まで、雨や雪の日  
はお休み。神馬は雄の白馬が条件で、現在2頭が飼育されていま  
す。建物の西、北二側の長押しには、猿の彫刻が八面施され、人の  
一生を物語に表しています。



午前10時、御神馬が出勤して来たところです。

## 一馬屋に猿がいる訳（有名な「三猿」）一

昔から、猿は馬を病気から守るといふ信仰があります。（猿が馬を病気から守るといふ信仰は、  
陰陽五行説から生じたといわれます。馬は火であり、猿は水であることから、火を守る水、すなわち、  
馬を守る猿、という関係が成立したといわれています。）

### 一三猿の物語一



①母子の猿 母猿は小手を  
かざし、遠くを見えています。  
これを見上げる子猿の  
表情は、親に対する  
信頼感に満ちています。子供の幸せな未来を願  
う母親の気持ちが表現されています。



②子猿三匹（有名な  
三猿）「見ザル、聞か  
ザル、言わザル」子供  
の頃は、悪いことを見

たり、聞いたり、話したりしないで、素直な心の  
まま成長せよという教えです。



③座っている猿（まだ  
一人立ちしていない猿）  
大人になることを「一人  
立ち」するといいますが、  
まだ座っています。これで立ち上がれば本当の「一  
人立ち」。



④上を見る猿 二匹の猿  
が上方を見上げています。  
右端の雲が青く塗られて  
いるから「青雲の志」を抱く、青年期の猿を暗示  
しています。



⑤崖っぷちにたたされて  
いる猿（下を見る猿）  
人生にまっすぐ立ち向  
かいますが、崖っぷち  
に立つときも。「人生の曲がり角」。迷い悩む仲  
間を励ます友がいます。



⑥物思いにふける猿  
恋愛中と思われます。  
愛を告白できずにいる  
のかもしれない。



⑦結婚した猿 二匹の  
猿の前に波が彫刻され  
ています。二人で力を  
合わせ、人生の荒波を越  
えて行こうとしています。



⑧妊娠した猿 子猿も  
やがて母親になります。  
やと親の苦勞が分か  
ります。そして、再び新  
たな人生（猿生）が始まることになります。

## おみずや 御水屋

御水屋とは、神様にお参りする前に身を清めるための施設です。水盤の石は元和4年（1618年）九州佐賀の鍋島侯が奉納したものです。サイフォンの原理を用いて水を吹き上げる近代的设计になっています。

建物は、寛永13年(1636年)の建 立です。花崗岩の柱が使われ、柱の上部には飾金具が付けられています。ふつう、飾金具は木の柱に付けられますが、ここでは石につけられていることから、「石に金物日光ばかり」と言うことわざが生まれました。このことわざは、珍しいもののたとえです。

屋根下には水の守りという飛龍（翼のある龍）と波があります。また、水に関係のある鯉も泳いでいます。

よく見ると、屋根の西側の一部が切り落としてあります。逆柱と同じように、魔除けの説のほか、杉の成長を邪魔しないためともいわれます。



飛龍の彫



鯉の彫刻

### ～内番所をさがしてみよう～

番所とは、警備の役人のいた所で、当時、昼夜2人ずつ交代でここに詰め警備にあたりました。もし参拝者が建物にさわったり、スケッチなどをすると、お咎めを受けました。建坪はわずか6坪ですが、漆の塗り替え費用が何と1300万円（昭和55年修理）もかかっています。

今はお札やお守りを扱っている所になっています。

## 回廊と鐘楼・鼓楼に見られる彫刻

陽明門から左右に延びる廊下を回廊といいます。（向かって右側が東回廊、左側が西回廊。）長さは220メートルあり、その外側の部分には、見事な彫刻があります。屋根の下の長押の上の部分に雲、胴羽目の部分には花鳥と動物、腰羽目の部分には水鳥というように、天・地・水にちなんだものが、どれも一枚のけやきの木の板に透かし彫りという技法で彫られています。



←長押

←胴羽目

←腰羽目



鶯（胴羽目）



鶯（腰羽目）

鐘楼は釣鐘、鼓楼は太鼓を納める建物です。高さは12.6メートルあり、陽明門の前に左右対称に配置されています。（向かって右が鐘楼で、左が鼓楼。）よく似た建物ですが、鐘楼には鶴・竜・飛竜・麒麟・波など78体の彫刻があるのに対して、左側の鼓楼には、亀、竜、雲など38体があります。このように、彫刻の種類と数に違いがあり、装飾も、鐘楼の方が豪華になっています。

鐘楼→



←鼓楼



飛竜（鐘楼）



亀（鼓楼）

これらの彫刻には、平和への願いが込められています。

# 神輿舎

神輿とは、神様の乗り物「おみこし」のことで、この「おみこし」を入れておく建物のことを神輿舎といいます。東照宮では、陽明門をに入って左側の奥に神輿舎があります。

神輿舎は、入母屋造りという屋根の形をした7メートル四方の建物で、屋根の下には、鶴・鳳凰・インコ・ミズクなど、鳥の彫刻が多く彫られています。また、建物正面の上には、徳川家康公の干支である虎が彫られています。



神輿舎



天井に描かれた天女と3基の神輿

神輿舎の中の天井には、狩野派の人が描いた天女の絵があります。笛や琵琶、花を持って舞うこの天女は、日本一美人の天女といわれています。

春のお祭りに神輿が出たあと、天女の下で手を打つと、鳴龍と同じような現象が起きるということです。ただし、鳴き声ではなく、「天女のささやき」が聞こえるそうです。

## 神輿舎の中の神輿

神輿舎の中には、3基の神輿があります。

中央にあるのが東照宮の主祭神・徳川家康公の神輿、向かって右側が配祀神・豊臣秀吉公の神輿、左側が同じく配祀神・源頼朝卿の神輿です。中央の徳川家康公の神輿には、三葉葵の紋がついています。

## 一神輿が主役の「千人武者行列」

日光東照宮の祭典の中でもっとも有名な「千人武者行列」は、春季例大祭と呼ばれる東照宮最大の祭典の中の一つの神事で、正式には「神輿渡御祭」といい、神輿が主役になります。

春のお祭りには3基の神輿が、行列に守られるようにして進んでいきます。行列には、鎧武者を始め、槍・鉄砲・弓などを持った武者など、53種類・約1200人がお供をします。

(秋は、「秋季祭」と呼ばれ、規模を少し縮小して行います。神輿は徳川家康公の1基になります。)

神輿1基の重さは約800キログラムあり、行列のときには、55人で担がれます。この神輿は、昭和40年代に新しく作られたもので2代目です。寛永13年(1636年)に作られた初代の神輿は、約1120キログラムもありました。そのため、担ぐのに重すぎるとの理由で新しいものが作られたわけです。

この「千人武者行列」は、元和3年(1617年)、久能山(静岡県)から徳川家康公の神霊を日光に移したときの行列を再現したものです。



千人武者行列

# からもん 唐門

陽明門をくぐって正面、全体に白っぽい印象の門が目に入ってきます。それが唐門です。間口3m、奥行き2mの小さな門ですが、東照宮で最も重要な本社の正門です。江戸時代には、「御目見得」（将軍に拝謁できる身分）以上の幕臣や大名だけが使えました。唐門には611もの彫刻が施されていて、中でも人物の彫刻は6体64人います。



正面から見た唐門



「舜帝朝見の儀」

その中のひとつ「舜帝朝見の儀」の彫刻は、正月元日に、舜帝がたくさんの役人達から新年のあいさつを受けている場面を表したものです。

舜帝は堯帝の没後、禅譲（真に能力のあるものに政権を譲ること）によって政権にいた人物です。中国では、堯帝、舜帝の二代が最もよく国が治まった理想の時代といわれています。彫刻の舜帝の顔をよく見てください。家康公と似ていませんか。これは、下絵を描いた絵師が舜帝と家康公を似せて描いたと思われます。そこからこの彫刻は、家康公こそが舜帝に比すべき帝王であり、徳川幕府が目指すべき政権は舜帝の治世である、との考えを表しているものと解釈できます。

現在の平成の年号はこの舜帝が残した「内平外成」の言葉からとったものです。内平外成とは「内平かに外成る」といって、舜帝が優秀な人材を登用して政治に力を入れた結果、国がよく治まったことを言います。

## 【その他の彫刻】

唐門の屋根下には「八仙人」「竹林の七賢人」「七福人」など、向かって右の柱には昇龍、左に降龍が彫られています。それぞれに重要な意味をもち、願いをもって作られたものなので調べてみるとおもしろいと思います。新しい発見があるかもしれません。



福をもたらす「七福神」



屋根上の恋といわれる霊獣  
（実際は唐獅子）

唐門や陽明門には、理想的な政治のあり方や、人間としての生き方を教えてくれる彫刻（42体156人）がたくさん彫られているのです。



# おくしゃ 奥社

徳川家康公のお墓があるところを言います。ここには銅鳥居・銅神庫・拝殿・鑄拔門・  
宝塔などがあります。



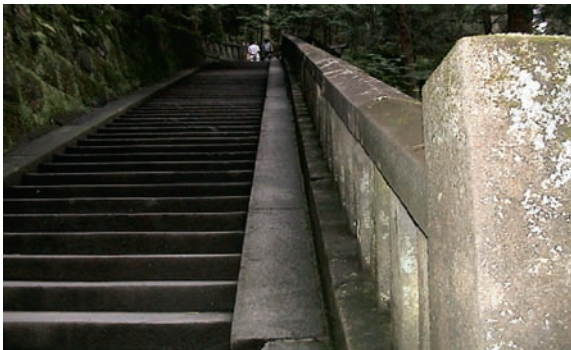
宝塔(家康公のひつぎ 柩が納められています)

木造(元和7年)→石造り(寛永18年)→青銅製に(天和3年)  
1621年 1641年 1683年



坂下門

お墓にたどりつくまでには、まず坂下門をくぐります。この門は「開かずの門」ともよばれ  
ます。それは、将軍が参拝する時にしか開かなかったからです。門の天井を見上げると菊と  
芙蓉の浮彫などがあります。この門からはじまる参道の石段は207段あります。



一枚岩の踏み石



一枚岩でくりぬかれた柵

柱と手すり土台につなぎ目がありません。

< 見つけてみよう! >

東回廊の奥社参道入り口にあります。



左甚五郎の作と伝えられる「眠り猫」

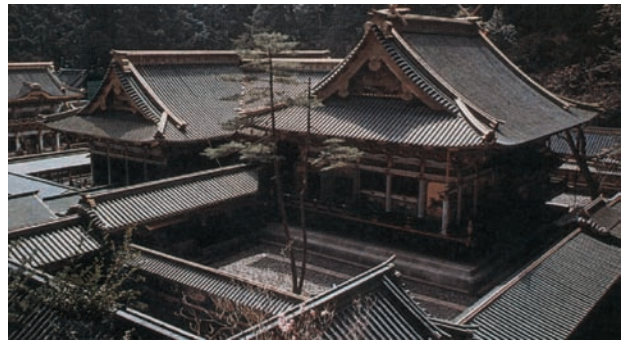
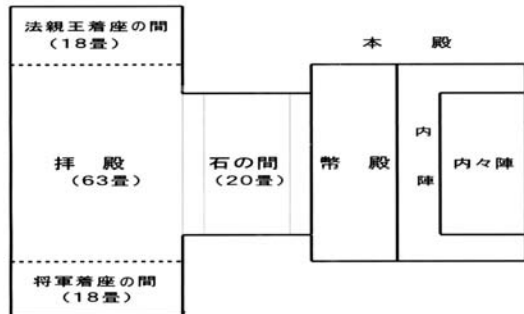


眠り猫の裏側にある、竹林に遊ぶ2羽の雀

猫が寝ているから雀が遊べる、平和な時代の訪れを意味しているという説もあります。

# 本殿・拝殿

本殿は御神体を安置する最も神聖な社殿で、彫刻は1439体もあります。拝殿は神様に拝礼するための御殿、東に将軍、西に法親王着座の間があり、940体の彫刻が施されています。この本殿と拝殿は石の間に結ばれています。これを権現造といいます。



〔拝殿の霊獣、霊鳥と昆虫〕

拝殿一石の間一本殿



白沢 (法親王着座の間の杉戸)

人の言葉を話す聖獣  
政治に誤りがあればそれを忠告する



麒麟 (将軍着座の間の杉戸)

王者のシンボル  
命あるものを食料にしない



鳳凰 (将軍着座の間額羽目)

鳥類の王者 動乱の世を天下泰平に導く



二つ蝶 (拝殿向拝柱の置紋)

蝶が止まったところに幸せが訪れる

せん にん むし ゃ ぎ よ う れ つ

# 千人武者行列

「千人武者行列」とは、東照宮のお祭りの中で最も大きな神事<sup>しんじ</sup>で、元和3年<sup>げんな</sup>（1617年）に久能山<sup>くのうざん</sup>（静岡県）から徳川家康公の神霊<sup>しんれい</sup>（神様）を日光<sup>にっこう</sup>に移したときの行列<sup>にっこうせんざ</sup>（日光遷座と言います。）を再現<sup>さいげん</sup>したものです。行列の中心は三基<sup>さんき</sup>の神輿<sup>みこし</sup>（神輿舎<sup>しんよしゃ</sup>を参照）で、そのほかにたくさんの衣装<sup>いしやう</sup>を着た人々が参加<sup>さんか</sup>しています。その人数は約1200人で、行列の順番や数もきちんと決められています。



おてつぼうもち  
御鉄砲持



ちご  
稚児



よろいむしや  
鎧武者



全部で53種類あるんだけど、みんなはいくつ知っているかな？

千人武者行列は、春と秋の二度行われますが、春は5月17日午前10時から本社<sup>ほんしや</sup>において例祭<sup>れいさい</sup>と呼ばれる祭典<sup>さいてん</sup>が行われます。東照宮<sup>まつ</sup>にお祀りされている徳川家康公、豊臣秀吉公<sup>とよとみひでよしこう</sup>、源頼朝<sup>みなもとのよりともきやう</sup>卿の三柱<sup>みほしら</sup>の神様は、夕方、三基<sup>にしどなり</sup>の神輿<sup>みこし</sup>に乗って西隣<sup>にしどなり</sup>の二荒山神社に移動し、宵成祭<sup>よいなりさい</sup>という祭典が行われ、東照宮の神様は、その日は二荒山神社<sup>ふたらさんじんじや</sup>に泊まります。

次の日（18日）の午前11時、三柱の神様を乗せた神輿<sup>みこし</sup>は、約1200人のお供<sup>とも</sup>を従<sup>したが</sup>え、二荒山神社を出発し、神橋の近くにある御旅所<sup>おたびしょ</sup>まで行き、御旅所祭<sup>おたびしょさい</sup>が行われます。



ほんしやみこし  
本社神輿（徳川家康公）三葉葵と鳳凰



さじんみこし  
左神神輿（豊臣秀吉公）三つ巴と鳳凰



うしんみこし 右神神輿（源頼朝卿） だきみょうが そうか 抱茗荷と葱花

東照宮の神輿は三社あって、先頭の本社神輿（主祭神）が徳川家康公、左神が豊臣秀吉公、右神が源頼朝卿なんだ。

これは、明治4年の神仏分離により祭神名が変更されたからなんだ。

それ以前は、左神が山王神、右神が摩多羅神で、それぞれの神輿には三葉葵（体衾）、三つ巴（左神）、抱茗荷（右神）の紋がついているんだ。また、屋根上のは、本社と左神が鳳凰、右神には葱花が付いているよ。

### 3人の人物が東照宮にお祀りされているのはなぜ？

徳川家康公は、自分が死んだ後も日本の平和を守るために、日光に神社を建てて神として祀るように遺言したからだよ。

源頼朝卿は、鎌倉幕府をひらき、はじめて武士による政治の基礎を作り上げた人で、徳川家康が尊敬していたからだよ。

豊臣秀吉公は家康公の先輩で、戦国の世を統一し平和な世の中にしたからなんだ。

※ 例大祭は、その神社の創立記念のお祭りで、毎年毎年神社ができた時の様子を再現する儀式です。また、お神輿が出るのは、神様が神社を出て、人々に幸福を分けあたえる意味もあります。

3人の人物とも国の将来を考えて、最も良いと思うことを行動に移していたんだ。3人の中には、生前敵味方となり戦った人物もいたけれど、その目的（平和な世の中を築き上げる）は同じだったんだよ。日本人の平和に対する考え方を知ることができるね。

おたびしょ  
御旅所  
ではどんなことをしているのだろう

行列が到着した御旅所では数々の行事がなされています。御旅所の中ではどんなことをしているのでしょうか。みなさんも見学してみましょう。

二荒山神社で一泊した神輿は、18日に神橋の近くにある御旅所に向かいます。

御旅所に行列が到着すると、御旅所本殿に神輿を据え、拝殿に神饌（神様の食べ物）を供えます。この神饌は、三品立七十五膳と呼ばれる特別メニュー。三品立とは、山野、田畑、海川の産物を、七十五膳とはたくさんの料理を意味しています。神主が御幣を左右左と3度振ってから神前に供え、その後、神主が2人向かい合って拍手をします。これは、合わせ拍手と言って、神様と人間とのあいさつを意味します。この後、宮司が祝詞（神様への祈りの言葉）を読み上げます。

神饌とは？

米、酒、魚、野菜、塩、水をお膳にのせ、神様へ供えます。普段も毎日供えていますが、春や秋の大祭の時には特別の豪華メニューとなります。拝殿では、何人もの人が手渡しで運ぶことで心をこめます。息がかからないようにお膳は顔よりも高く上げてささげます。神饌は全部で4組分用意されています。これは、東照宮の三神の分と、お客の神様の分です。

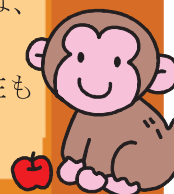


御旅所に供えられた神饌(三品立七十五膳)

御旅所拝殿の中では・・・

神主が神饌を供えたり、合わせ拍手をしたり、それぞれの動き全てに決まった形があります。手足の動かし方や順序など、本殿の神に対する大切な儀式であるために、間違えのないように一つ一つを緊張感のある中で行います。これらの儀式の一つ一つには深い意味があります。伝統ある神事を現在まで変わらずに続けることは、大変な苦勞があることでしょう。

みなさんも学校や地域、家庭で昔から伝わり、現在も守り続けている行事やその意味を調べてみましょう。



白馬に乗ってお神輿のお供をするの宮司さん。



緊張感のある中での神事



続いて八乙女舞が奉納されます。

八乙女舞は八乙女神楽ともいわれ、古くから日光に伝わる優雅な神楽の舞です。二荒山神社の弥生祭などで「御前神楽」として奉納されているものです。振り袖(袖を縫わずに、こよりでくくった、打ち掛け風の白布の衣服)に緋色のはかまの、2人または4人の巫女さんが、鈴・扇や剣を手に、笛、大拍子(太鼓)、銅拍子、篠ばちでたたかれるリズムにのりながら、優雅な舞を神にささげるもので、日光独自の振り付けに特色があるものとなっています。

3様式の舞と数種類の曲目があり、演舞時間は、それぞれ5分位で、二荒山神社拝殿でも毎日のように奉納されています。

八乙女舞はどうして8人いないの？

御旅所で見られる八乙女舞は2人で行われています。ではどうして八乙女という名前が付いたのでしょうか。もともと舞う女性は、氏神に仕える8軒の家の娘さんに限られていました。そこで八乙女という名が付いたのですが、長い年月がたつうちに、その風習もなくなってしまい現在の形になりました。しかし、その伝統は今もしっかりと受け継がれています。



振り袖で優雅に舞う、八乙女の舞



色鮮やかな衣装をまとい、奉納される東遊舞

次に御旅所の本殿と拝殿の間の右舞台上で東遊舞が奉納されます。

東遊舞は今では格式の高い神社でしか行なわれない由緒ある芸能で、もともとは久能山東照宮のある駿河国(今の静岡県)で生まれたもので奈良時代に宮中で舞われるようになりました



下神庫の中での、地区ごとに分けて収納された衣装の確認作業

春や秋の例大祭の前になると東照宮では毎日忙しく準備が進められます。三神庫(日光東照宮コーナー参照)には行列に使われる衣装が収納されていて、たくさんの人達が衣装を確認したり、例祭のあとにはきれいに収納したりしています。こうしたことが何百年も伝統として受け継がれているのです。



中神庫に収納された鎧が入った箱

# すぎ なみ き 日光杉並木



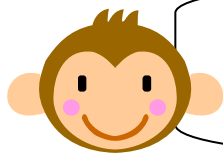
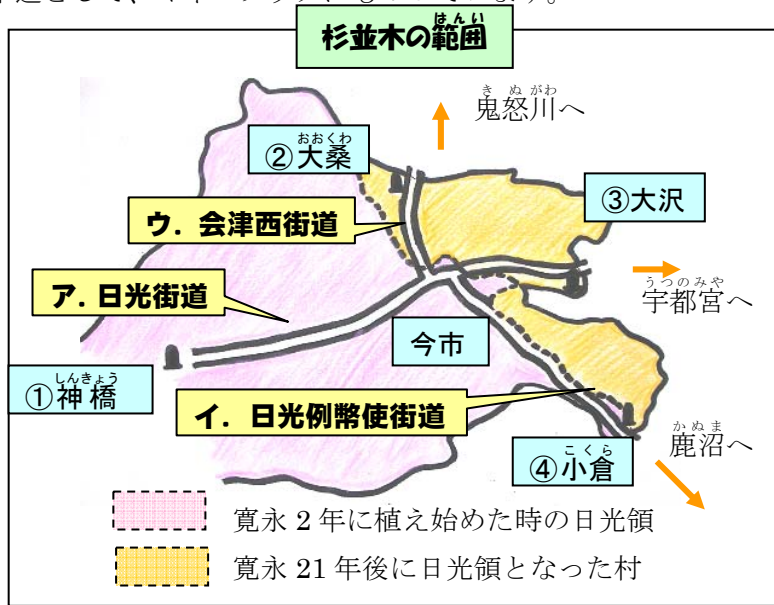
日光杉並木は、家康の近臣だった松平正綱が、亡き将軍の恩に報いるため、紀州熊野から苗木を取り寄せ、日光へと続く道にそって植えた杉の並木のことで、その道とは江戸時代に整えられたア. 日光街道 イ. 日光例幣使街道 ウ. 会津西街道 の3つの道で、杉並木は国の特別史跡・特別天然記念物の二重指定を受けています。二重指定を受けているのは日本でも日光杉並木だけで、世界一長い並木道として、ギネスブックにもなっています。

**杉並木の全長 約37km**

**ア. 日光街道**  
(神橋～今市 8.5 kmと、  
今市～大沢 10.7 km)

**イ. 日光例幣使街道**  
(今市～小倉 13.9 km)

**ウ. 会津西街道**  
(今市～大桑 3.9 km)



杉並木は今は途切れているところもあるし、町の中には最初から植えられていないんだ。でも起点となる神橋の近くと、日光神領の境界に寄進碑が立っていて、もともとの範囲がわかるんだよ。

寄進碑って？



**寄進碑**・・・杉並木を植えたことを記すために建てた石碑で、国の特別史跡です。神橋近くの寄進碑以外は、日光神領（東照宮の領地）と他藩との境に建てられました。→このため**境石**とも呼ばれます。



①神橋 (1648年建立)



②大桑 (洪水で1864年再建)



③大沢 (1648年)



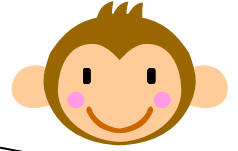
④小倉 (鹿沼市と日光市の境、1648年)

すぎなみき

## 杉並木についてもっとくわしく調べてみよう！

### Q. 最初から今の長さだったの？

杉並木は寛永2年（1625年）に植え始めた時、日光神領（東照宮の領地）は今市までだったので植えた距離は約3里（12km）でした。その後寛永21年（1644年）に大沢まで神領が広がりました。杉並木は、日光神領内の街道に植える計画だったので、さらに約7里（28km）分が延長されたというわけです。



### Q. いつごろ植えられたの？

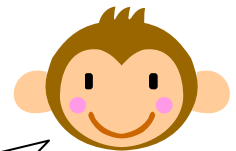


杉並木は、松平正綱が※大名になった寛永2年（1625年）ごろから植え始め、東照宮に奉納しました。杉の苗は紀州熊野（今の和歌山県）から取り寄せたもので、日光神領のほか塩谷町の林業農家も苗を育てたそうです。家康公の33回御神忌（1648年）にすべてが植え終わり寄進碑が建てられました。

※大名…1万石以上の領地を持つ武家。江戸時代、東照宮には大名でないと建物や灯籠などを奉納することができなかった。

### Q. 松平正綱って、どんな人？

松平正綱は、17歳の時から家康公の家来になり、後に幕府の財政を管理する大切な仕事を任されました。家康公が亡くなったあとも、2代将軍秀忠、3代将軍家光に仕え寛永2年（1625年）に大名になりました。家康公の33回御神忌の時には、日光にお参りにいく家光の先駆けを務め、この後、日光で病に倒れ亡くなりました。



### Q. 何本くらいあるの？



最初は5万本くらい植えられましたが、現在樹齢が約370年くらいの杉は1万3000本が残っています。杉並木は日光奉行に管理され、「立ち枯れや風倒木があれば道中奉行に届ける」「伐採の後には苗木を植える」「伐採した木は払い下げる」などが決められていました。また、街道筋の村には下草刈りや清掃することが課せられ、杉を黙って伐採し盗んだ者は田畑屋敷を没収の上、下野国外へ追放されました。杉並木が大切に守られてきたことがわかります。



# い し ど り い 石鳥居

東照宮の境内の入口に建つ石鳥居は、元和4年（1618年）筑前国（福岡県）の大名、黒田長政が奉納したものです。江戸時代に建てられた石造りの鳥居としては日本最大で、黒田長政の領内、筑前国志摩郡小金丸村から切り出した御影石（花崗岩）で造られています。石材は、船で江戸まで運ばれ、江戸からは川をさかのぼり、下野小山近くの乙女河岸で陸揚げされ、そこからは、人力で陸路を運ばれました。たいへんな作業であったと考えられます。



上を見上げると中央に額が掲げられています。「東照大権現」の文字は後水尾天皇が書いたとされます。この額だけでも畳1枚分の大きさがあります。

高さ 9メートル

柱の中心の間隔 6.8メートル

柱の直径 1.2メートル

（実は柱の太さは、西側の方が10cmほど太い）



鳥居を支える柱の継ぎ目



15の石で組み立てられています  
が、継ぎ目の一カ所は額を下げたため  
の金具でかくされています。

昭和24年（1949年）に日光周辺をおそった大地震で、柱に10cmほどのずれができてしまったそうです。しかし、その後の余震で、ずれたつなぎ目が徐々に元の位置に戻ったといわれています。柱の継ぎ目の部分の内側は、穴が掘ってあり木の柱でつないであるそうです。また鳥居は15の石で組み立てられていますが、上部の石は、重量を軽くするために中心がくりぬいてあります。これらの工夫があったから、大きな地震にもくずれることがなかったのでしょう。



## 千人枅形

石鳥居の下の石段を千人枅形と呼びます。石段は10段あり、人を並べると1段に約100人乗ります。10段で合計千人あまりを収容できるので、この名前がつけました。また、石段は、上に行くほど横幅が狭く段も低くなっています。遠近法により、実際より高く、鳥居も遠くに見せる工夫がしてあるのです。



さがしてみよう



## 照降石

石段の10段目、鳥居の少し手前のところに斜めに線が入ったように色が分かれた敷石があります。茶と青の色の違いが強まると翌日から天気がかざれるといわれています。

ご じ ゅ う の と う

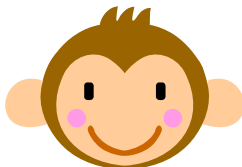
# 五重塔



石鳥居をくぐった左手には朱塗りの美しい五重塔がそびえ立っています。五重塔は若狭国（福井県）小浜藩主、酒井忠勝が、家康公の33回御神忌に当たり、江戸時代の慶安3年（1650年）に奉納したものです。文化12年（1815年）に火災にあい焼失してしまいましたが、3年後の文政元年（1818年）忠勝の子孫によって再建されました。

高さ 36メートル

周囲 5.3メートル四方



## 五重塔にほどこされている工夫をさぐってみよう

### 心柱の秘密

中心を貫いているのは直径60cmの心柱。この心柱は4層目（4階）から、くさりでつり下げられ、最下部にある礎石の穴の中で10cmくらい浮いています。

長い年月がたつうちに、木造の建物は、建物自体の重みと、木の収縮によりゆがみが生じてきますが、これを調整するはたらきがあるのです。また、地震や強風にも耐えられる造りとなっているのです。

### 屋根の秘密

1層目から4層目までの屋根の垂木はまっすぐ平行（和様）、5層目の垂木は扇のように放射状（唐様）になっています。

1カ所だけ他と違った造りになっているのは、建物は完成したときから崩壊が始まるので、完成させなければ崩壊はおこらないといった考えにもとづいていると言われていいます。陽明門の「魔よけの逆柱」と同じ意味です。

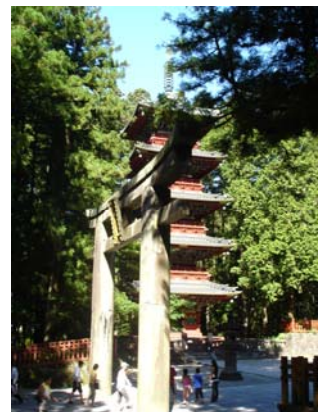
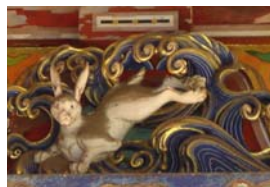


4層目と5層目の垂木の違いを見てみよう。

### 十二支の彫刻

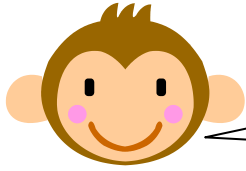
1層目の屋根の下の部分、かえる股には十二支の動物のあざやかな彫刻がほどこされています。

子（ネズミ）は北、卯（ウサギ）は東、午（ウマ）は南、酉（トリ）は西というように、十二支で方角を示しています。



石鳥居と五重塔

# けいだい とうろう 境内の灯籠



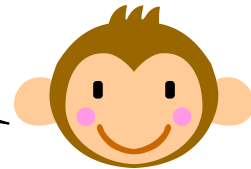
灯籠って何？

灯籠というのは、昔の照明器具のことです。お寺や神社にはどこにでも見られるものですが、一般に、これらは他から奉納されたものです。奉納された灯籠からは、人々が寺社の神仏を敬う気持ちが読み取れます。



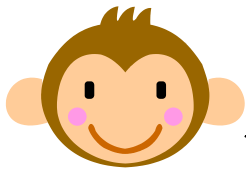
陽明門前石段下

東照宮にはどのくらい灯籠があるの？



三神庫前

東照宮には123基の灯籠があります。このうち約120基は諸大名からの奉納品です。特に御鎮座の年の元和3年（1617年）には48名の大名家が、合計71基を奉納しています。将軍家への忠誠心を見せようと競って奉納したことが想像されます。



立派な灯籠だね。  
これは何？

灯籠の材質は、石できているものがほとんどですが、銅製のものもいくつか見られます。中でも一番珍しいのは鉄製のもので、2基だけです。これは仙台藩主の伊達政宗が奉納したもので、俗に「南蛮鉄灯籠」と呼ばれており、ポルトガルから輸入した鉄材で造られたと語り伝えられています。



陽明門前大石段下



## Q. 外国から献上されたものがあるの？

陽明門前には、シャンデリア型（釣燈籠）、スタンド型（蓮燈籠）、回転燈籠と釣鐘があります。三基の燈籠はオランダ商館が将軍家光に献上したものです。釣鐘は朝鮮から献上されたものです。また、回廊南側外壁に取り付けられたブラケット型灯架（燭台）12基もオランダから献上されたものです。

### シャンデリア型（釣燈籠）



寛永13年（1636年）に奉納

### スタンド型（蓮燈籠）



寛永17年（1640年）に奉納

### 回転燈籠



寛永20年（1643年）に奉納



## Q. イルカがいるって本当？



回廊南側外壁に取り付けられたブラケット型灯架（燭台）には、イルカのデザインが用いられています。

ヨーロッパでは、イルカは「海の騎士」とも呼ばれていたそうです。



## 見つけてみよう！

### ① 逆さについた葵の紋

オランダから献上された回転燈籠についています。

### ② 飛び越えの獅子



陽明門前の石段を上がると、石の瑞垣の左右から、石で彫刻した獅子が向かい合ってにらめっこしています。

家光が東照宮ができあがったというので見に来た時、陽明門の規模が小さくて気に入らず、機嫌が悪くなったが、近づいてよく見ると、門が杉のなかに燦爛と輝いている。家光はとても気をよくしたが、急に笑顔を見せるのもおかしい。そこで、近くにあった獅子の彫刻に目をとめ「誠によい」と、石の彫刻にかこつけて機嫌がなおったという話があります。



# 日光東照宮～昔と今～



上の絵図は「日光道中図絵」の中の「日光山内図」です。天保年間（今から約260年前）に書かれたものです。

一方、左は現在の東照宮の縮小図です。2つの絵図をよく見てみましょう。建物の位置がほとんど同じですね。

日光東照宮は、1636年に現在の建物が完成してから江戸時代だけでも20数回修理が行われました。しかし、東照宮の姿は完成した時のまま、今も残っています。これは、東照宮が時代を超え、たくさんの人々によって大切に守られてきたという証なのです。そして、その思いは現在にも受けつがれています。

※三仏堂と相輪様は、明治時代になって輪王寺境内へ移築されました。

おかりでん てんじょう  
①御仮殿の天井



中央の模様もようの向きが、まわりのもの  
とちがいます。

かみじん こ かえるまた  
③上神庫の墓股



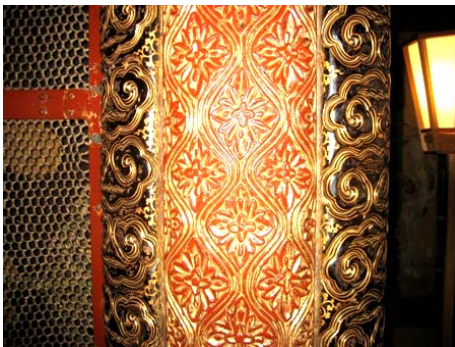
5つのうち、中央の模様もようの大きさがちがいます。

おみずや やね  
⑤御水屋の屋根



1つの角のひさしが欠けています。

はいでん  
⑦拝殿の柱



右の模様もようが逆さになっています。

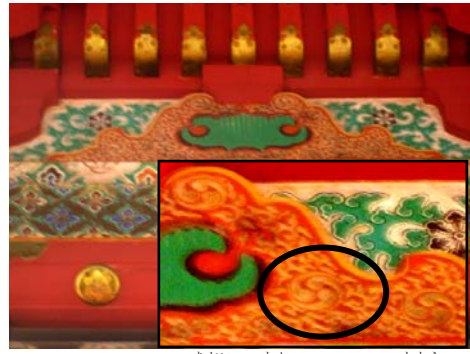
# 東照宮の

ごじゅうのとう やね  
②五重塔の屋根



たるきたるきを見ると、4層目そうまでと5層目そうの  
ならび方がちがいます。

しもじん こ かえるまた  
④下神庫の墓股



この建物あらいもんだけ、葵あおいの紋もんではなく巴ともえの紋もんが  
つけられています。

まよ さか ばしら  
⑥魔除けの逆さ柱



1本だけグリ紋グリもんが逆さになっています。

# ふしぎ発見

「魔除けの逆さ柱」のいわれはよく知られていますが、ほかの建物もよく見てみると、同じように1か所だけちがうものがあることが分かります。もしかしたら、わたしたちが気づいていないだけで、まだまだほかにも同じようなものがあるのかもしれません。よく注意して、見つけてみましょう。

# とうしょうぐう びじゅつかん 東照宮美術館

美術館は、かつて、社務所として使われていた建物です。

東照宮旧社務所の東側は明治時代の造りですが、西側は昭和3年に当時導入されつつあったメートル法で建てられたものです。玄関や会議室・貴賓室など、内部の杉戸・襖には、横山大観・荒井寛方・中村岳陵・堅山南風らが描いた48点のすばらしい障壁画があります。



**まつ たけ つばき**  
【松・竹・椿】 大玄関正面は寛方作の「老松」、右側は南風作「椿」です。



「松」は徳川の旧姓、「松平」にちなんでいます。その左側には、家康の幼名「竹千代」にちなんで岳陵作「竹に万年青」が描かれています。また「椿」は二代将軍・秀忠が好んだと言われています。

**がいがい つづ かいが**  
【外界に続く絵画】



「流水」  
その流れの続く右側には廊下の脇につくばいがあり、さらに遣水から前庭の池へと続いています。



「月・兎」  
中秋の名月。白兎が東を向いてたたずんでいます。さて、月はどこにあるでしょうか？



「紅葉狩」  
美しく紅葉する日光の山々から風に吹き寄せられた落ち葉を描いたものです。また、右下の扇子は、風向きを表しています。

う ほととぎす  
【卯の花と杜鵑】

かじん きさき のぶつなさくし どうよう かし  
歌人・佐々木信綱作詞の童謡『夏は来ぬ』の歌詞、  
「卯の花のにおう垣根に時鳥早もきなきて忍音もらす  
夏は来ぬ」の世界を描いたものです。夏の訪れの一瞬を  
感じます。



あさひのす  
【朝陽之図】



←  
きひんしつ  
貴賓室として使われて  
いた部屋の内部の様子  
「上段の間」と言わ  
れ、ほかの部屋よりも  
一段高くなっています。

よこやまたいかん  
横山大観作。  
しやむしよ しやうへきが ちゆうかく  
社務所の障壁画の中核をなす作品であり、  
まさに、とうしやうぐう しやうちやう かいが  
まさに、東照宮を象徴する絵画です。

すぎ ひのき さくら  
【杉・檜・桜】



びやっこう  
【白狗】



↑ 犬か狐か？ 婦人室に描かれたこの絵、一説には、  
しのだ きつね ものがたり  
「信太の狐」の物語を描いたものだと言われています。

↑ 貴賓室の前の襖に描かれています。画面の下部に樹木の梢のみを描いているのはなぜでしょう？



げつと  
【月斗】

月と天の川。社務所の障壁画全体を締めくくる、  
そうだい  
壮大な自然界を想像させてくれます。

美術館に描かれている、それぞれの絵に込められた  
いみ  
意味を考えながら観ると、色々な世界が広がります。



# お かり でん 御仮殿

「御仮殿」とは、神社の本社を修理したり、造りかえたりする時に、神様を移しておまつりする建物です。ふつう修理が終われば、取り壊してしまうものですが、日光東照宮は、修理を定期的に行うので、そのまま残されています。また、造りも立派になっています。



「御仮殿」ってどんな建物なんだろう？



本殿

拝殿



すきべい  
【透塀】

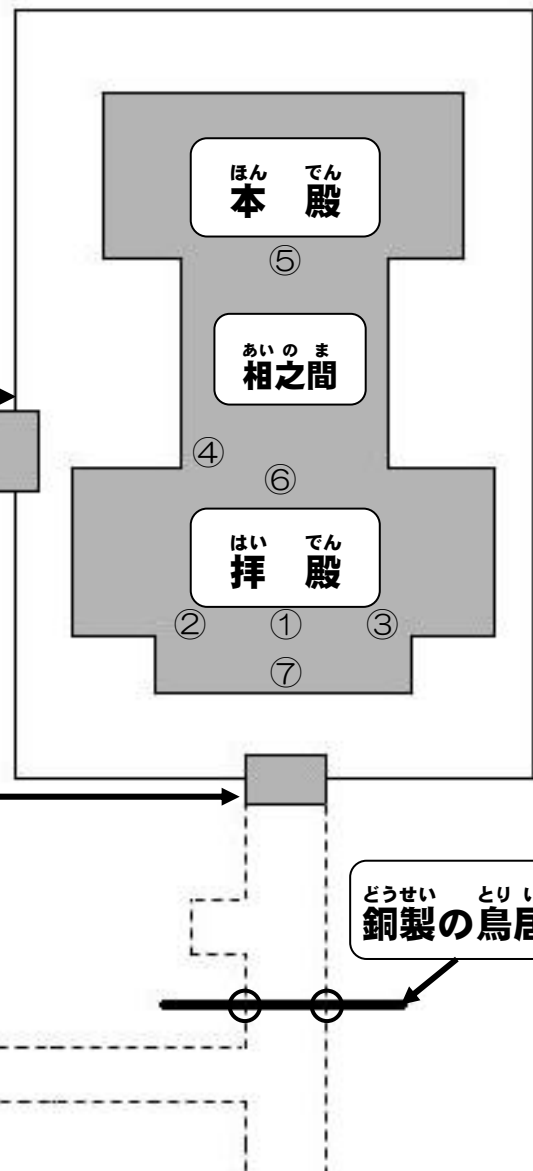
わきもん  
掖門



からもん  
【唐門】

しょうろう  
【鐘楼】

どうせい とりい  
銅製の鳥居



※ 図の中の番号①～⑦は、次のページの写真右下の①～⑦に対応しています。

「御仮殿」の中はどうなっているのかな？



**【虎と吐綬鶏の彫刻】** 寅（虎）は徳川家康公の干支です。東照宮の中の重要な建物には、虎の彫刻があります。御仮殿の正面にも、本殿と同じように虎の彫刻があります。

虎の彫刻を挟むようにして、吐綬鶏の彫刻があります。吐綬鶏は中国の想像上の鳥で、オス（写真左）には耳があります。年老いた親を子どもが養う習性があると伝えられています。



壁には、「鳳凰」(空想の鳥)の絵がかかれています。



神様がまつられる本殿のとびらは、板唐戸の漆塗りです。これは本社よりは簡単なつくりです。



**【二羽のウサギと葡萄唐草】**

ウサギには夏毛と冬毛の二つの姿があります。季節によって違う二つをあえて並べることによって、「一年にわたって栄える」という意味がこめられています。

また、葡萄をえがいた唐草模様は、東照宮ではこの御仮殿にだけ見られます。



**【落とし錠の蝉】**

正面のとびらの落とし錠の取手は、蝉の形になっています。これは、古代中国の「羽化登仙」(蝉が羽化するように、人間が亡くなると羽が生えて仙人となって天に登る)という信仰にならっているとされています。

※ 写真右下の番号①～⑦は、前のページの図の中の①～⑦に対応しています。

# 朝鮮通信使



東照社縁起絵巻 第四巻 (日光東照宮蔵)

朝鮮通信使とは、江戸時代、<sup>しょうぐん</sup> 将軍の<sup>たいが</sup> 代替わりや<sup>よつぎ</sup> 世継ぎの<sup>たんじょう</sup> 誕生に際して、お祝いのために朝鮮王国から使わされた人たち（使節団）をいいます。朝鮮半島から江戸（今の東京）まで、およそ1,000Kmの道のりを9～10ヶ月かけて行き来しました。1607年から1811年の間に12回の使節団が来ていますが、そのうち初めのころの3回は日光にも来ています。1回目は1636年、東照宮ができあがってまもなくのころ。2回目は1643年、4代将軍家綱が<sup>いえつな</sup> 誕生したころ。3回目は1655年に来ています。使節団は200人以上の人びとで、<sup>けいご</sup> 警護する人たちを入れると1,000人以上の大集団でした。

このころ日本は「鎖国」をしていたので、外国の人が日光に来ることなど大きな<sup>おどろ</sup> 驚きでした。つまり、日光に来た<sup>さいしよ</sup> 最初の外国の人が朝鮮の人びとだったのです。

## 朝鮮から贈られた品々

### 【朝鮮鐘】

1643年に4代将軍家綱の誕生のお祝いに来日した朝鮮通信使から鐘と花瓶、<sup>かびん</sup> 香炉、<sup>こうろ</sup> 燭台が贈られています。鐘の側面には、「朝鮮国王が東照宮におさめるために作らせたもの」という意味の文面が見られます。使われた銅は対馬から取り寄せたものです。龍頭（鐘を吊るための上部の突起）に小さな穴（日本の鐘にはないもの）があるなど、朝鮮鐘の特<sup>とく</sup> 徴も見られます。このことから、別名「虫蝕（むしくい）の鐘」とも呼ばれています。

<sup>しょうめいもん</sup> 陽明門の手前右側、<sup>しょうろう</sup> 鐘楼近くの<sup>しょうしや</sup> 鐘舎に吊るされています。



《朝鮮鐘》



《上部に見られる小さな穴》※円の中央

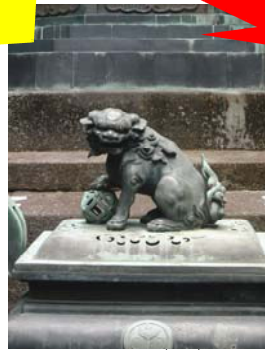
# 【三具足】



花瓶、香炉、燭台を合わせて「三具足」といいます。徳川家康のお墓「奥の院宝塔」の前に置かれています。当時おさめられた三具足は1812年（文化9年）に火災で焼けてしまいました。今あるものは日本で造られたものです。  
三具足は石の台とともに国の重要文化財にも指定されています。



《花瓶》  
・花を供えるもの



《香炉》\*獅子の形  
・せんこうを供えるもの



《燭台》\*鶴と亀  
・ろうそくを立てるもの



\*鶴が蓮のつぼみをくわえ、亀の上に乗っているよ。  
ろうそくは鶴の頭の上に立てるよ。

# 今市客館



東武上今市駅から歩いて1分のところに、朝鮮通信使が宿泊した今市客館の跡があります。200人以上の人々が、身分ごとに宿泊しました。  
また、この辺り一帯を小字名で「唐人小屋」と呼びますが、これは、朝鮮通信使がもとになっていると考えられています。  
現在は、公園になっています。

←この標示が目印です

朝鮮通信使の日記（丙子日本日記）には、今市客館について次のように書かれています。

「材木を江戸から運び、一万両余りの費用で、新設の板屋が百軒近く」  
「人馬が多く、麦畑を平坦にして特別にこの館舎を設けた」



今で言うと、朝鮮通信使のためのごうかな旅館が、今市にあったということだね。  
異国にあらがれる江戸時代の人々が、朝鮮通信使を大かかげいた様子がわかるね。



朝鮮通信使来日400年を記念して建てられた石碑（日光市今市）



今市客館跡の標示（日光市今市）

日光の社寺

ゆかりの人々コーナー



## 日光の社寺にゆかりのある主な人々

時代	人物	主な業績
奈良時代	勝道上人	・日光山を開く。
平安時代	空海 (弘法大師)	・生岡神社, 滝尾神社, 清滝神社などを建てたと伝えられる。
	円仁 (慈覚大師)	・野口に日枝神社をまつり, 阿弥陀如来・千手観音・馬頭観音を安置。 (三仏堂の始まり)
	教王	・勝道上人亡き後, 日光山座主に就く。
	隆宣	・常陸の武将の出
	禅雲	・那須氏一族 治承元年 (1177年)
鎌倉時代	弁覚	・日光山中興の祖。
戦国時代	道興	・京都聖護院門跡。歌人。文明18年 (1486) 日光来訪。
	宗長	・歌人 (運歌師)。永正6年 (1509) 日光来訪。
	昌源	・日光山44世貫首。昌源杉 (太郎杉も含む) を植える。
	昌淳	・豊臣秀吉の小田原攻めの際に, 北条氏に味方したため, 広大な所領を没収される。 ・日光山荒廃。
江戸時代	徳川家康	・江戸幕府を開く。 ・東照宮祭神, 東照大権現。
	天海大僧正 (慈眼大師)	・家康の霊を久能山から日光山に移す。(東照宮の始まり)
	徳川家光	・東照社を造り替える。
	甲良宗広	・作事方大棟梁。
	梶定良	・日光常番 (社寺の監察役) の役につく。
	「八王子千人同心」	・「日光火の番」 - 50人一組, 50日交代 (のち半年交代)。 ・元武田家家臣。
	松尾芭蕉	・元禄2年 (1689) 日光来訪。『奥の細道』を著す。
	蓼太	・俳人。宝暦13年 (1763) 日光来訪。
	植田孟縉	・「八王子寺千人同心」の一人。 ・天保8年 (1837) 『日光山志』を著す。
	天祐	・元禄4年 (1691) 『日光山満願寺勝成就院堂社建立記』を著す。
	二宮尊徳	・「五か村用水 (二宮堀)」を開く。
	天鳥圭介	・旧幕軍
	板垣退助	・官軍
	道純	
慈立		
明治時代	落合源七	・神仏分離令による堂社の破壊・移転に反対する運動を起こす。
	巴袂寛	
	松平容保	・「保晃会」の会長として, 東照宮などの修理を行う。



勝道上人 (輪王寺蔵)



天海大僧正 (輪王寺蔵)

しょうどうしょうにん

# 勝道上人パート1

「勝道上人」は、どのようにして  
日光を開いたのでしょうか。

やますげのじゃばし

○みなさんは、「山菅の蛇橋」のお話を知っていますか？

しんきょう

「山菅の蛇橋」とは、今の神橋のことで、今からおよそ千二百五十年ほど前、勝道上人が初めて日光へ来たときと深いつながりがあるのです。



<山菅の蛇橋（現在の神橋）>

勝道上人は10人のお弟子さんを連れて、

こぶがはら

今の鹿沼市古峯ヶ原の方から、山を越え谷を渡ってやって来ました。そして、今の神橋の所へ出たのです。大谷川の兩岸は、切り立ったがけでその下を流れる水は深く、流れが速くどうしても渡ることができませんでした。勝道上人は、岩の上にすわり、神様や仏様をおがみ、「わたしは、この川（大谷川）を渡り、向こう岸（今の山内）に神様や仏様をおまつりするつもりです。どうかこの勝道の願いを聞きとどけ、この川を渡らせてください。」と、熱心にお祈りしました。

すると、向こう岸の岩の上に、青と黒のしまの着物を着て、首にドクロをつるし

じんじゃだいおう

た恐ろしそうな神様が現れ、「わたしは深沙大王であるぞ。今、勝道の願いを聞きとどけ、川を渡らせてやろう。」と叫ぶと、手に持っていた2匹のへび（蛇）を川の上に投げました。

だいじゃ

2匹のへびは、空中で大蛇となり、からみ合って、橋のように川の上へ渡りました。しかし、へびの背中はずつとすべるし、うろこはきらきら光っているので、とても怖くて渡れませんでした。

ところが、深沙大王が口の中で何かじゅもんをと

しばふ

なえると、へびの背中いっぱい山菅（芝生の草のように細長い草）が生えて、へびの体をかくしたのです。それで、勝道上人たちはぶじに川を渡ることができたのです。

へびが橋をかけたところは、今までに何十回と橋がかけかえられ、今のようなりっぱな「神橋」となったのです。

勝道上人はぶじに川を渡った後、大谷川のほとり

しほんりゅうじ ほんぐうじんじゃ まつ

に四本龍寺と本宮神社を祀りました。この四本龍寺

なんたいさん

で修行を重ねながら、男体山の登頂をめざしたのです。



<深沙大王をまつった深沙王堂>  
(蛇王権現堂)

出典（八木沢 亨 著 「子どものための日光のむかしばなし」より）

## ○勝道上人は、なぜ日光山（男体山）に登ろうと決意したのでしょうか？



<明星天子をまつた星の宮>

勝道上人は、今から約 1250 年前の 735 年（天<sup>てん</sup>平<sup>びやう</sup>7 年）に、下野ノ国（栃木県）芳賀郡に生まれました。幼い頃の名前を藤系丸<sup>ふじいとまる</sup>といい、たいへんかしこく信仰心（仏様を信じる心）の厚い子供でした。

ある夜のこと、眠りについた藤系丸の前に神様（明星天子<sup>みやうじやうてんし</sup>）が現れ、「山川を歩いて日光<sup>にっこう</sup>の三<sup>さん</sup>神<sup>しん</sup>に会い、人々を救え。」と告げたといわれ、このことが日光を開く動機になったと伝えられています。



<中禅寺湖から見た男体山>

## ○男体山登頂への道はけわしかった・・・

勝道上人は、767 年（天平神護3 年）と 781 年（天<sup>てん</sup>応<sup>おう</sup>元<sup>げん</sup>年）に登頂をめざしましたが、山頂への道はけわしく、頂上にたどりつくことはできませんでした。

勝道上人は、2 回の失敗にもめげず、翌年の 782 年（延<sup>えん</sup>暦<sup>りやく</sup>元年）、上人が 48 歳の時、ようやく登頂に成功しました。それはなんと、上人が男体山登頂を志してから 16 年後のことでした。

そして、勝道上人は山頂に日光の神々をまつるとともに、中<sup>ちゆう</sup>禅<sup>ぜん</sup>寺<sup>じ</sup>（今の二荒山神社中宮祠）を建てました。

## コラム なぜ山に登るの？

この頃から、「山岳信仰」といって、深い谷を渡り、神々の住むといわれる高い山に登り、苦しい修行を重ねて仏のさとりをひらこうとする仏教の修行が盛んになってきたということです。

## ○勝道上人、日光にねむる・・・



<開山堂>

日光を開いた勝道上人は、817 年（弘<sup>こう</sup>仁<sup>にん</sup>8 年）83 歳でなくなりました。勝道上人のお墓は、仏岩谷<sup>ほとけいわだに</sup>の開山堂<sup>かいざんどう</sup>の境内<sup>けいだい</sup>にありますが、中禅寺湖にある上野島<sup>こうづけじま</sup>と、竜頭の滝<sup>りゅうず</sup>近くの瑠璃ガ壺<sup>るりがつぼ</sup>にも、分骨されていると伝えられています。そして、今も日光の地を守っていると言われて



<勝道上人のお墓>





女峰山、  
帝釈山、  
大真名子山、  
小真名子山、  
太郎山など  
日光の山々

## 男体山

## 日光連山



中禅寺湖



深沙王堂  
(蛇王権現堂)



勝道上人像



本宮神社



四本龍寺  
と紫雲石

勝道上人が  
男体山登頂に向けて  
スタートした所

# 勝道上人が 男体山登頂までに歩いた道

ルート図は「日光開山勝道上人」  
(星野理一郎 著)からの出典

- ← 1回目・2回目(失敗)
- ← 3回目(登頂成功)

# 家光公と日光

徳川三代将軍家光公は、初代将軍家康公、二代将軍秀忠公の政治を受け継ぎ、江戸幕府の基礎を固めた人です。

どうして家光公は、9回も日光を訪れたのだろう。それだけ日光が好きだったのかな。



輪王寺蔵の徳川家光公画像

## 【家光公の主な業績と日光社参一覧】

回数	西暦	和年号	満年齢	主な出来事
	1623	元和9	20	家光公が三代将軍の地位につく
1	1625	寛永2	22	家光公が鷹司信房の娘、孝子と結婚
2	1628	寛永5	25	東照宮13回忌
3	1629	寛永6	26	乳母お福が春日局となる
4	1632	寛永9	29	東照宮17回忌
5	1634	寛永11	31	東照宮 造り替え開始
	1635	寛永12	32	参勤交代の制度を定める
6	1636	寛永13	33	東照宮 造り替え完成 東照宮21回忌
7	1640	寛永17	37	東照宮25回忌
	1641	寛永18	38	鎖国の完成
8	1642	寛永19	39	前年、東照宮木造宝塔を石製に造り替え
9	1648	慶安1	45	東照宮33回忌
	1651	慶安4	48	家光公死去

家光公は、家康公の法要があるときには必ず日光を訪れているね。使者を立ててもよかったのに自分で訪れたのは、それだけ家康公に対する敬慕の念が強かったからだね。



家光公は、祖父である家康公を心から深く尊敬していました。日光にある見事な東照宮を建て替えたのも、その気持ちの表れでした。東照宮は、家光公が崇敬された天海大僧正の教える山王一実神道（神仏習合）に基づいて建てられました。

家光公と家康公、家光公と天海大僧正とのつながりについて、もっと知りたいね。



## 家光公と家康公

家光公は二代将軍秀忠公の二男として生まれました。

(長男の長丸は、2歳で亡くなっています。)

秀忠公は二男の竹千代(家光公の幼名)より、三男の国千代(のちの忠長)をかわいがったといひます。しかし、竹千代こそ将軍にふさわしいと考えた家康公は、竹千代の乳母であったお福(のちの春日局)からの訴えもあり、家光公を将軍後継者に指名したといひます。

家康公は家光公をかわいがっていて、自分の幼名(竹千代)を家光公に与えたんだよ。



家光公は、幼い頃から家康公を慕い尊敬していたんだね。

家光公にとって、春日局の存在も大きかったね。

家光公

天海大僧正

天海大僧正は、家康公、秀忠公、家光公の三代の将軍から深く尊敬されました。家康公の信頼を得て、1613年（慶長18年）日光山の本坊として光明院を再興し、日光山第53代の貫主（光明院主）となりました。家光公は、家康公に代わる存在として尊敬していました。

1636年（寛永13年）家光公の命令で、東照大権現社の造り替えを完成させました。

家康公が亡くなった時、家光公はまだ13歳でした。これ以後、家光公の精神的な心の支えとなったのが、天海大僧正でした。家光公は、家康公の影を天海大僧正に求め、父のように慕っていました。



家光公のお守りの中にこういうものがあるよ。これは、後西天皇が書いたのではないと言われていたんだ。東照宮大権現は家康公のこと、慈眼大師は天海大僧正のこと。家光公がこれをお守りとしていたことは、家康公・天海大僧正・家光公の三者の結びつきがいかに強いものであったかを物語っているね。（この中には、なぜか父である秀忠公の名がないね。）

家光公と家康公と天海大僧正

・・・そして日光

深い深いつながりを感じるなあ。



大猷院については  
輪王寺のページを見てね。



## 今度は家光公の所持品について調べてみよう。



### ゆめみ いえやすこう 夢見の家康公

輪王寺には、家光公が夢で見た家康公の姿を狩野探幽に描かせた「東照大権現像」が秘蔵されている。現在残っている八幅は、すべて国宝に指定されているんだ。

ここに載っているのはわたしたちが見慣れている東照大権現だけど、残りの七幅はもっと親しみやすい家康公の像ばかりだ。家光公が、いかに家康公を敬愛していたかがわかるね。みなさんもぜひ、この八幅を見に、輪王寺宝物殿（三仏堂の前にある建物）に行ってみよう。

### 家光公のお守り袋

写真にはお守り袋が5袋載っているけど、お守り袋は全部で7袋あるよ。これらのお守り袋の中には、10点以上の書き物が入っているんだよ。



表



裏



家光公のお守り袋には、家光公が自分で書いたものも入っていて、これもその1つと言われているよ。「二世こんけん」は「二世権現」のこと、「二世将くん」は「二世將軍」のことなんだ。家光公は、本当は三代將軍だけど、祖父である家康公に直結する意識が強かったんだね。自分は家康公の後を継いで二代目の権現なんだ、二代目の將軍なんだ、という意識の表れだね。（権現と呼ばれるのは家康公だけなのに、これはすごい。）



次に載っているものも、家光公のお守り袋の中に入っているものなんだ。家光公が自分で書き、常に身近に持っていたもので、これを読むと、家光公の祖父家康公への尊崇と敬慕の意がよく分かるね。



現代語訳

生きることも、死ぬことも  
何事も皆、大権現様（家康公）  
の御心次第です。

將軍のまつりごと皆 神

（家康公）のご意向のまま

何事もその心持ちでござい

ます。神（家康公）の恩恵

をありがたく感じ、朝夕に

つけ拝み申し上げる以外は

ござりません。

十一月廿五日

家光（花押）

將軍



家光公所用の紺絲威二枚胴具足



いろいろ  
わかってきたぞ。  
もっともっと  
調べたいな。

にっこう ちゅうこう そてん か いだい そうじょう  
**日光の中興の祖天海大僧正**



神櫃のそばに建つこの人はだれ？



あれ、この人誰だっけなあ？  
 どこかで見たことがあるよ



この人は天海大僧正だよ。  
 この人は東照宮の始まりにはなくては  
 ならない大切な人なんだよ。



①日光の復興と天海

<天海大僧正の日光での関わり>

年号	出来事
1536天文 5年	天海大僧正生まれる
1546天文15年	天海お坊さんになる (11歳)
1560永禄 3年	足利学校で学ぶ
1590天正 18年	天海、家康と出会う
1613慶長18年	天海、日光山貫主になる
1617元和 3年	東照社ができる
1640寛永 7年	東照宮大造替が行われる
1643寛永 20年	天海大僧正没 (亡くなること)

天海はその生い立ちがはっきりしないことが多く謎に包まれています。そんな天海ですが、日光市などの研究で多くのことがわかってきました。天海が生まれたのは会津高田 (今の福島県) で幼名を兵太郎といひ、父は舟木氏、母が芦名氏の出といわれています。天海お得意してお坊さんになり、比叡山をはじめ各地の有名なお寺などで仏教の勉強を重ねました。

どうしてこの天海さんの銅像が  
日光に建っているの？



天海は日光山の貫主となり、当時おとろえていた日光山を復興し、その後、東照宮をお祀りするために大きな働きをしました。今、国際的な観光地となり、「日光の社寺」が世界遺産に登録されましたが、もし日光山に東照宮ができていなかったら、どんな日光になっていたでしょうか。そのように考えてみると天海は日光にとって大変大きな遺産を残してくれた人といえるのではないのでしょうか。



天海大僧正は、今の山内に建てられている神社やお寺の土台を作りました。それで、日光を立て直した恩人ということで中興の祖といわれているのです。

天海さんと家康さんが会った  
おかげで今の日光があるような  
ものなんだね

天海と徳川家康公が出会ったのは1590年（天正18）だったといわれていますが、1607年（慶長12）ごろには家康公の相談役になっていたようです。天海が日光とかかわりを持つのは1613年（慶長18）で家康公に第五十三代日光山の貫主としてえらばれてからのことです（天海68歳）。この以前の日光山は、京都の比叡山とならんで天台宗の本山として多くの人々の信仰を集めていましたが、北条氏に味方したために豊臣秀吉から足尾以外の寺の領地をすべてうばわれてしまい、僧の数も大変少なくなっていました。幕府は関東を守るために日光山を大変重要なものと考えたようで、天海は幕府の考えを受け、日光山再興の仕事を行いました。そして東照宮はもとより日光の（二荒山神社）の再建、二十院八十坊の復興などに努力しました。





## ②東照宮と天海

家康公は、1616年（元和2）駿府城（今の静岡市）で亡くなります。このとき、家康公は遺言で一周忌を過ぎたら日光に神廟をたて、関八州の鎮守にすることを命じています。そして、家康公の葬儀は天海の指図で行われ、朝廷から神号を下されるときも天海の意見で「東照大権現」ということに決まりました。

次に、東照宮を建てるまでの  
天海さんのお仕事を調べたよ。



幕府は東照社（後に東照宮と呼ばれるようになる。）の建設をはじめますが、これも天海の指示でおこなわれました。617年（元和3）4月、家康公の棺が久能山（今の静岡県から日光に移され東照社が開かれることとなりました。東照宮は、家康公の孫の家光公のころにおおがかりな造り替えがおこなわれます。（寛永の大造替）そのために全国から大勢の職人たちが集まり、その人たちが住んでいたところが今の石屋町、匠町（板挽町・大工町）となったのです。天海の手がけた東照宮の建設が今の日光に大きな恵みを与えたといっても過言ではないと思います。なお、天海は生前、門前町に御幸町という名前をつけています。



東照宮陽明門



匠町、町名改称之碑

へえーこの  
ころの町名  
が今でも残  
っているんだ  
ね。



③

天海大僧正にまつわる史跡



「相輪櫓」

輪王寺の境内には変わった形の塔が立っています。めずらしい形をした塔ですが、これは国家の安全や、人々の幸福を願って天海が建てたもので「相輪櫓」といいます。

江戸時代には、二荒山神社の境内に立っていましたが、明治時代に神仏分離令により現在のところに移されました。

この大師像は、<sup>いこうぼう</sup>口講帽という特殊なかぶりものから<sup>とくしゅ</sup>年齢を推測すると六、七十歳代のお姿となります。百八歳説のある長生きのかたですから、力のみなぎった働き盛りの姿です。



「慈眼大師座像」



「慈眼堂」



「天海の墓」

天海は、1643（寛永二十）年108歳で寛永寺で亡くなりました。彼は遺言で日光の大黒山に埋葬されました。後にそこには天海廟「慈眼堂」が建てられました。彼の死後、朝廷は「慈眼大師」の称号を贈りました。大師の称号は、最澄（伝教大師）や空海（弘法大師）円仁（慈覚大師）以降700年間贈られなかったもので、天海の偉大さを明らかにしていると思われます。また、三代將軍家光公は天海を慕うあまり、死んだら天海のそばに埋めるよう遺言をしたといわれています。天海の墓所は慈眼堂の裏にあり、大きな石を用いた立派なもので、ひっそりとたっています。

#### ④東照宮ができる前後の山内の様子

東照宮ができる前の絵図と  
できた後の絵図をくらべてみよう

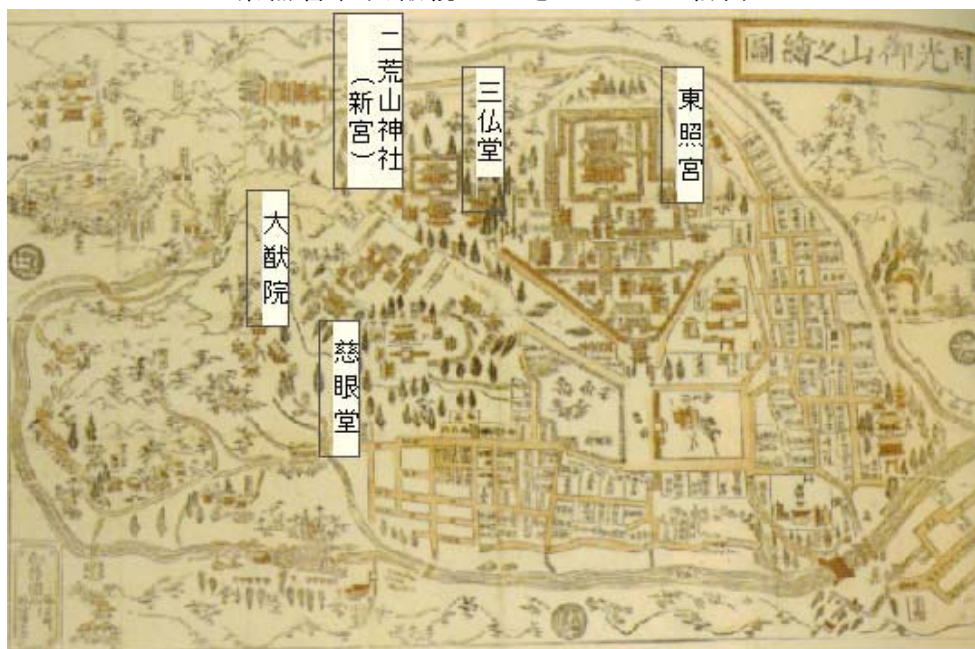


<東照宮ができる前の山内の絵図>



日光山之図<中世期>写本(東京国立博物館所蔵)  
[聖地 日光の至宝 P54、55]

<東照宮、大猷院ができてからの絵図>



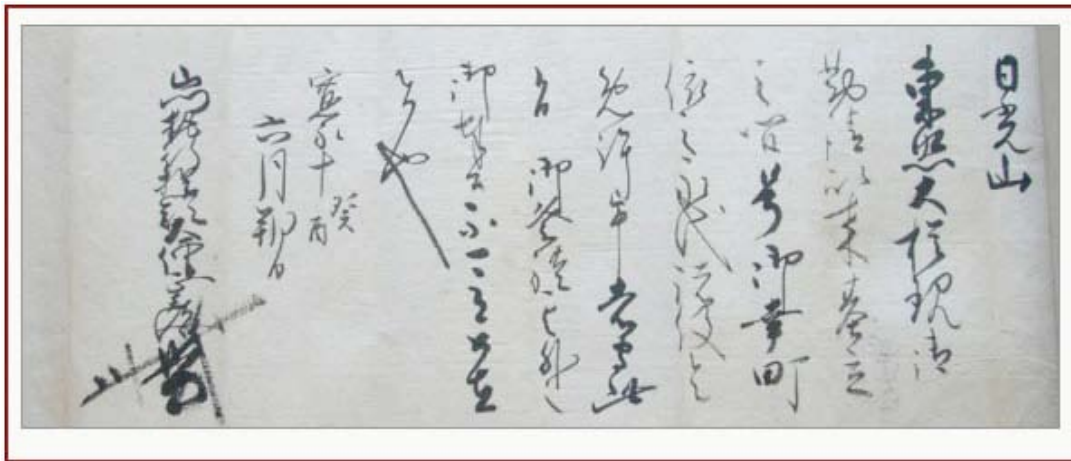
下野国日光御山之図(栃木県立博物館所蔵)  
[「聖地 日光の至宝」P147]

日光御山之図はたくさんの版があります。[「日光市史・中巻」<sup>と</sup>綴じ込資料]等参照

二つの絵図を見くらべて  
何か気がつくことはないかな？



- 東照宮ができる前は神社とお寺と民家がまざっているよ
- できたあとは整理されてお寺や神社がきれいに並んで建っているよ
- 江戸時代には三仏堂は二荒山神社(新宮)のそばに建てられていたんだね。どうして、今の場所になったのかなあ。



天海大僧正の書付 (御幸町 自治会所蔵)

徳川家康公が神様(東昭大権現)として日光山にお祀りされてからできた町であるので、この町を御幸町と呼ぶ。したがって、以後永久にこの町は税金や町の役割の仕事を除く。その代わりに、お祭りの行事には必ず 忘れずに仕事をしなさい。

寛永十 酉  
六月朔日

日光山東照大権現御勧請以来  
立の間、御幸町と号す。これにより永代諸役免許せしめ畢ぬ。てへれば此旨を守り、御祭礼その他御奉公に如あるべきからざるものなり。



御幸町は民家の人々が移り住んだ場所の一つなんだよ

さくじかただいとうりょう  
作事方大棟梁

こうらぶんごのかみむねひろ  
甲良豊後守宗広



この写真の銅像、どこかで見たことはありませんか。

そう、これは、日光東照宮の駐車場のところに建っていますよね。

この銅像の主、甲良豊後守宗広は、天才といわれた名大工で、世界文化遺産に登録された日光東照宮の建物をつくりかえた人なのです。

「作事方」というのは、大工職の高い位のこと、  
「棟梁」は、大工のかしらのことだよ。



宗広の一生

徳川家とどんな関係があったのかな？

西暦	元号	年令	できごと
1587	〃 18年	15	京都に修行に出る。
1572	元亀3年		近江国甲良庄（今の滋賀県甲良町）に生まれる。
1596	慶長元年	24	家康の屋敷を建て、伏見城で直々に感謝の言葉をもらう。
1603	〃 8年	31	豊後守の呼び名をもらう。
1604	〃 9年	32	江戸（今の東京）に出る。
1605	〃 10年	33	大きな建築を任される。
〃	〃	〃	・江戸城天守 ・大名の御殿
1632	寛永9年	60	・鎌倉鶴岡八幡宮 ・2代将軍秀忠の霊廟
1634	〃 11年	62	日光東照宮つくりかえの大棟梁となる。
1636	〃 13年	64	東照宮のつくりかえを完了する。
			隠退して職を長男宗次にゆずる。
1646	正保3年	74	死去。墓は、京都に作られる。

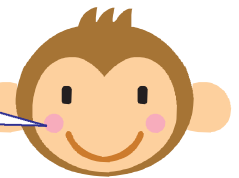
# なぜ宗広が東照宮のつくりかえを任されたのか

三代将軍徳川家光は、尊敬していた祖父家康のために日光東照宮をより立派なものにしようと考えました。ちょうどその時期、日光東照宮が建てられて二十年目と家康の二十一回忌があり、これに合わせて建て直しをすることにしました。

声のかかった宗広は、京都に徳川家康の屋敷の建設を任されたことをきっかけに初代将軍家康、二代将軍秀忠、三代将軍家光との交流があり、3人の将軍とも宗広の実力を認めていました。

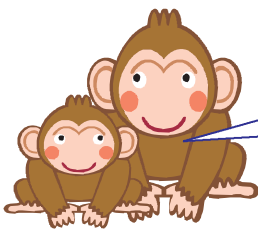
宗広は設計・建築・彫刻のどれをとっても技術者として最高の力を持っていました。また、宗広の周りには、同じようにすぐれた技術を持った大工が数多く集まっており、最高の技術・芸術集団としても有名でした。特に彫刻に関しては、すばらしい力をもっていて、東照宮のつくりかえを任された大きな要因といえるでしょう。

ばくふ さくじかた だいとうりょう  
幕府作事方 大棟梁 って？



「作事方」とは建築の仕事を目指す言葉で、「棟梁」「大棟梁」とは建物をつくる大工さんの中心となる人のことを言っています。この言葉は昔から使われていました。宗広が任されていた「幕府作事方大棟梁」という仕事は、幕府の組織の中の仕事上の地位を指しています。大棟梁は、お城や神社の設計をしたり、作ったり、修理をしたりする人に与えられた最高の地位でした。

むねひろ かぞく かつやく  
宗広の家族の活躍は？



東照宮をつくりかえるときには、宗広は中心となって活躍していましたが、その子どもや孫も東照宮つくりかえの時に活躍していました。

長男の宗次、次男の宗久そして孫の宗賀の名前が記録に残っています。その後も宗次が大棟梁の役職を継ぐなど、甲良一族は、建築の世界をリードしていきました。



宗広むねひろが描いた鯉こいの絵

# 東照宮のつくりかえの様子

どれくらいの日数が  
かかったのかな？



徳川家光は祖父家康の21回忌を迎えるにあたり、東照宮の全面的なつくりかえを命じました。寛永11年（1634年）11月から始めて、寛永13年（1636年）4月には奥社をのぞく現在の東照宮の大部分が完成しました。そして、寛永13年（1636年）4月8日に上棟式が行われ、寛永13年（1636年）4月17日に家康の21回忌の祭礼が行われたのです。これほどの建築が工期わずか1年5ヶ月で完成したことは驚くべきことといえるでしょう。その指揮をとった甲良宗広がいかにすぐれた棟梁であったかがうかがわれます。



これはなんだろう？ 東照宮  
の宝物館にあるよ。

この写真は、寛永13年（1636年）4月8日の東照宮本殿の上棟式に使われた手斧・墨壺・曲尺・墨さしの4点をおさめた大工道具箱で、宗広が東照宮に奉納したものです。日光東照宮のつくりかえという大事業をなすとげて、宗広は将軍から太刀や馬をいただき、棟梁としては誰もいただいたことのない高い位を許されています。

どれくらいの人に参加したのかな？



『造宮帳』という記録によれば、大工の延べ人数は約170万人で、その他の仕事も含めると約453万人と記されています。この中には絵画・彩色・漆・金具・屋根の工事の人数は数えられていないので、総延べ人数はこれをはるかに上まわる650万人と推定されます。甲良宗広は日々数千人の大工を指揮してこの大仕事をやりとげたのです。

どれくらいの費用がかかったのかな？



金568000両、銀100貫目、米1000石で、全部幕府の支出でまかなっています。大工の日当（一日の給料）を基準に現在の金額に置きかえると、これは約2千億円にもなります。東照宮のつくりかえにあたって家光は、経費はいくらかかってもよいと命じていましたが、「総工費はおよそ100万両」との報告を聞いて、「思ったよりも安くできた」といったそうです。家光の東照宮のつくりかえにかける意気込みが伝わってくる話です。

このように偉大な仕事をなすとげた甲良豊後守宗広は、正保3年（1646年）、74歳でその生涯を閉じました。

それから約330年後の昭和52年、甲良宗広の故郷滋賀県甲良町と日光市は、宗広の業績をともにたたえ、今に生きる者の手本にしようとの願いをこめて、姉妹都市となりました。そして、長くその偉業をたたえるため、山本修二氏の作による銅像を日光東照宮と甲良町役場にそれぞれ建てたのです。

いろいろわかってきたね。



甲良町には甲良豊後守記念館が建てられています。



いたがきたいすけ  
**板垣退助**

なぜ日光に板垣退助の銅像があるのだろう？

ぼくたちは日光にとって大切な  
この人について調べるよ。



みんなもこの銅像を見た  
ことあるでしょ。

神橋の所だよ。



この人ってどんな人？



この人はねー・・・



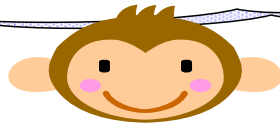
## ① 板垣退助について



昔の百円札の肖像にもなった板垣退助。1837年  
(天保8年)土佐高知城下町に生まれる。17歳で  
江戸勤番となる。1867年(慶応3年)薩摩藩の  
西郷隆盛らと倒幕の密約を結ぶ。討幕・戊辰戦争に参加。  
1874年(明治7年)民撰議院の設立を建議、自由  
民権運動の指導者となる。議会政治の確立に努力し、近  
代日本の民主化に貢献した。

国立国会図書館ホームペ  
ージ「近代日本人の  
肖像」より転載

とくがわぼくふ たお いたがきたいすけ どうぞう  
なぜ徳川幕府を倒そうとした板垣退助の銅像が日光にあるの？



ぼしんせんそう  
それはね、戊辰戦争という戦争に答えがかくれているのさ。



戊辰戦争？



## ② 戊辰戦争について

1867年（慶応3年）10月14日の大政奉還（※）によって、15代265年間続いた徳川幕府は消滅することになりました。それでも15代将軍徳川慶喜（※）は権力を持ち続けていました。ところが、同年12月9日の王政復古の大号令（天皇に全ての権力をもどす命令）により政治を行う人たちの力関係は今までと大きく変わってしまいました。天皇政府をしっかりと立ち立てることを宣言したのです。

それでも旧幕府勢力（※）は反撃を計画し、今までの状態にもどそうとしました。それに対して、討幕軍（※）は武力によって旧幕府勢力を滅ぼそうとしました。この戦いを戊辰戦争といいます。

1868年（慶応4年・明治元年・戊辰の年）に始まったこの戦いは、江戸開城後（※）も関東・東北各地で激しい抗戦がありましたが、会津落城でほぼ落ち着いた。現在の日光市でも激しい戦いがありました。

翌年5月に箱館（函館）の五稜郭の戦いで旧幕府軍が降伏して戦いは終わりました。

※大政奉還（将軍から天皇へ政治を行う権力を返したこと。）

※徳川慶喜（江戸幕府最後の15代将軍）

※旧幕府勢力（徳川幕府を守る立場の人々）

※討幕軍（旧幕府軍を討とうとする天皇・新政府側の軍隊・官軍）

※江戸開城（徳川慶喜が江戸城を討幕軍に明け渡した。）

## 今でも残る戊辰戦争の跡

日光街道瀬川・野口付近



砲弾打込杉



砲弾の撃ち込まれた跡

### ③ 日光を守った板垣退助

日光の山内も戦火に巻き込まれようとしていました。旧幕府軍は日光を根拠地として今市あたりまで進出していたからです。討幕軍の土佐藩士を率いる板垣退助は、土佐藩が代々徳川家の恩をうけていることや、家康公の功績を思い、その霊廟（※）のある日光山を戦火にかけることを避けたいと考えていました。このような考えをもったのは、板垣だけではありませんでした。旧幕府軍の大鳥圭介、討幕軍の谷干城、日光山の僧侶たち、そして徳川家の恩を受けていた多くの人々の努力により、旧幕府軍は日光山を降り会津に撤退することになったのです。

これにより、日光山は戦火を免れることとなり、今の美しい日光として残ることができたのです。

こうした板垣退助の功績を讃え、日光に銅像が建てられているのです。

### コラム 銅像について

昭和4年に、板垣退助の銅像が造られました。題字を慶喜の跡を継いだ徳川16代宗家（※）徳川家達が書いています。しかし、昭和19年太平洋戦争のときに、この銅像は国に差し出されました。現在のものは昭和42年に再建されたもので、板垣退助の娘夫婦により除幕されました。この銅像の原寸大の木型が日光中学校に保管されています。

※霊廟（祖先の霊をまつた建物）

※宗家（一族の中心となる家）

## 参考資料

ぼ し せん そう かん けい

# 戊辰戦争に関係し日光を守ろうとした人たち

とう ぼく ぐん

**討幕軍** (天皇・新政府側の軍勢、当時は官軍と呼ばれた。)

いたがきたいすけ と き はんたいちよう そうとく せきにんしや きゆうぼくふぐん たいきよ じようけん  
**板垣退助**: 土佐藩隊長で、日光方面討幕軍の総督(責任者)。旧幕府軍の日光退去を条件に戦闘を止めて日光を戦火から守った。

たにたてき せんとう せんか ぐんかん りくぐんちゆうじよう のうしやうむだいじん じりつ どうじゆん せうりよ  
**谷干城** : 討幕軍の軍監。のちに陸軍中将、農商務大臣。慈立、道純(日光山僧侶)と今市瀬川付近の視察中に会い、直接話をする。進撃(攻撃を進めること)を待ってほしいという訴えに対し、旧幕府軍が日光山を退去することをもとめた。

きゆうぼくふぐん

**旧幕府軍** (徳川幕府を守る立場の軍勢)

おおとりけいすけ ほへいぶぎよう つど きゆう じりつ どうじゆん  
**大鳥圭介**: 前幕府の歩兵奉行。日光山に集った旧幕府軍の総督。二人の僧侶(慈立、道純)から討幕軍側の話を聞き旧幕府軍2000名を引き連れ、日光山での戦いをさげ会津へ向かう。

まつだいらたろう りくぐんぶぎよう ぐんしきん いし おおとり わた えど とうちゆう  
**松平太郎**: 旧幕府の陸軍奉行。軍資金3千両と医師を大鳥へ引き渡す。江戸へ帰る途中、討幕軍と談判(話し合い)をするが失敗している。

いたくらかつきよ ろうじゆう うつのみや えいげんじ ゆうへい お こ  
**板倉勝静**: 前幕府老中、宇都宮の英巖寺に幽閉(人をある場所に押し込めて外へ出さないこと)されていたが、宇都宮が落城し、寺も焼けたため、日光に逃れていた。大鳥に対して、日光で戦争をしては家康公に対して恐れ多いのでどうか引き上げてほしいと申し入れる。

## 日光山に関係のあった人々

げんりやう いいつか げんおやまし だいらんじ じゆうしよく にんしやうぼう でし じようじき そだ  
**巖亮**: 飯塚(現小山市)の台林寺の住職。日光山忍性坊の弟子で幼児期日光山中で育った。板垣退助の命令により日光山へ話をしに行く。

じりやう げんりやう いたがきたいすけ めいれい せう ちやうらう  
**慈亮**: 巖亮より板垣退助の話を聞き、一山の僧を集めて話し合い、一山の長老妙道院道海と共に旧幕府軍の大鳥圭介にこの話を伝えた。

あんごいんじりつ さくらもといんどうじゆん りやうかい え けつし かくご  
**安居院慈立、桜本院道純**: 日光山の僧。大鳥の了解を得て決死の覚悟で今市の討幕軍のもとに向かった。慈立35歳、道純38歳であった。

いがらししんのすけ につこうがくもんじやがくとう しやうへいこうきやうじゆ やすいそうけん きんけいじゆく どうもん  
**五十嵐真之介(日光学問所学頭)**: 昌平校教授の安井息軒の三計塾で谷と同門であったので谷あてに懇願書を書き、これを二人の僧が持参したと伝えられる。

# 慈覚大師 円仁



## 「円仁」ってどんな人？



「円仁」

慈覚大師円仁は今から約1200年前、平安京へいあんきょうが建てられた794年に生まれました。

(円仁の生まれた場所については岩舟町上耕地、岩舟町手洗窪、壬生町壬生寺などの説があります。)

21歳で、僧そうになるための難むずかしい国家試験に合格して、その後は自分の育った大慈寺だいじじへ行き、寺を大きくするために、宝塔院ほうとういんを建て、法華経ほけきょうというありがたいお経おきを納めました。

唐とう(今の中国ちゅうごく)に行きたくさん修行しゅぎょうや研究をして日本に帰って、それから全国をまわり天台宗てんだいしゅうを広めました。円仁が開山さいこうしたり再興さいこうしたりしたと伝わる寺は関東地方かんとうに209寺、東北地方とうほくに331寺ほどあります。

## 日光とはどんな関係があるの？



「輪王寺三仏堂」

また、円仁は満願寺まんがんじ(のちの輪王寺りんのおうじ)に千手観音せんじゆかんのん・阿弥陀如来あみだによらい・馬頭観音ばとうかんのんを安置あんちしました。これが現在の三仏堂さんぶつどうです。(輪王寺のコーナーを見よう)

勝道上人しょうどうしやうにん(勝道上人のページを見よう)が開いた日光山にっこうざんが、円仁の力によって比叡山延暦寺ひえいざんえんりやくじと結びつき、宗派が天台宗てんだいしゅうとなりました。



「三仏様」



## ほかには？



日枝神社ひえじんじやを建てました。  
日光市野口ひえじんじやの日枝神社ひえじんじやの記念碑きねんひには、「山王権現さんのおうごんげんを栃木県の神様としてお祭りするため、848年に慈覚大師円仁が建てました。」と書かれています。  
←「日枝神社」 → 「新造記念之碑」



円仁は72歳さいでこの世よを去りました。その2年後、朝廷ちやうていは円仁の功績こうせきをたたえ、「慈覚大師」というおくり名なを与えました。円仁は、日本で初めて「大師」の名なをもらった人物じんぶつです。

は ち お う じ せ ん に ん ど う し ん

# 八王子千人同心

みなさんは、同心という言葉を知っていますか。

時代劇を観る人なら一度は聞いたことがあると思います。同心とは、今でいうと役所で働く武士のことです。

下の写真は、「日光火之番八王子千人同心顕彰之燈」といいます。東照宮の参道を下りてきた、突き当たりの所に建っています。



八王子千人同心とは、江戸時代に東照宮や大猷院のある日光を、火災や災害などから守る役目をした人たちです。

江戸幕府は東照宮などのある日光をとっても大切な場所と考えていました。この場所を火災などから守るために、大猷院造営が始まった承応元年（1652年）に日光火之番という役目を作りました。この役目に従った人たちが、現在の東京都八王子市の周辺に住む千人同心と呼ばれる人たちでした。千人同心の人々は故郷を遠く離れ、日光を火災などから守るといって大切な役目を、明治元年（1868年）まで200年間にわたって果たしました。

そのおかげで、世界文化遺産の「日光の社寺」は、火災による被害を受けることなく大切に受け継がれました。

この長い間にわたる役目に、感謝の気持ちを表して建てられたのがこの顕彰の燈です。

日光火之番八王子千人同心顕彰之燈

なぜ、千人同心と呼ばれたのでしょうか。

それは、幕府の槍奉行に入る旗本が十人いて、この十人がそれぞれ百人の同心を支配していたので、八王子千人組、または千人同心と呼ばれたそうです。



防火隊碑

江戸幕府の終わりの頃、寛政年間（1789年～1801年）から、この人たちの二・三男を中心に北海道の開拓がなされました。その場所が現在の苫小牧の周辺だったそうです。

このことが縁で、日光市は八王子市と苫小牧市と姉妹都市の関係を保っています。

日光火之番八王子千人同心顕彰之燈は、八王子千人同心の人たちの働きに感謝して、1958年に日光市・八王子市・東照宮・輪王寺・二荒山神社で相談して建てられました。

また、匠町の浄光寺には、日光で亡くなった隊士を弔うために天保5年（1834年）に建てられた防火隊碑があります。

## 「わくわく『日光の社寺』たんけん」作成委員

平成12年度担当

指導者・監修者

高田雄康（日光市立所野小学校）〔会長〕	本間政和（日光市教育委員会教育長）
小林幸男（日光市立中宮祠小学校）〔副会長〕	中川光熹（日光市文化協会会長）
内村タカ子（日光市立所野小学校）〔副会長〕	中麿輝美
八木沢聡（日光市立日光小学校）〔理事〕	高藤晴俊
大橋一成（日光市立清滝小学校）〔理事〕	今井昌英
川崎晃子（日光市立野口小学校）〔理事〕	
石原久美子（日光市立中宮祠小学校）〔理事〕	
本間恵子（日光市立所野小学校）〔理事〕	
松浦貢（日光市立小来川小学校）〔理事〕	
福田亮子（日光市立安良沢小学校）〔理事〕	
塩澤由紀江（日光市立日光中学校）〔理事〕	
内藤聖治（日光市立中宮祠中学校）〔理事〕	
高木亮（日光市立東中学校）〔理事〕	
渡辺巖（日光市立小来川中学校）〔理事〕	

太田邦男	（社会教育課長）〔事務局〕
小野昌紀	（社会教育課文化係長）〔事務局〕
川田盛雄	（社会教育課文化係副主幹）〔事務局〕
湯澤健一	（学校教育課長）〔事務局〕
諏訪文敏	（同 課長補佐・指導主事）〔事務局〕
小又陽三	（同 学校教育係長）〔事務局〕
岩本英俊	（同 学校教育係主査）〔事務局〕

平成13年度・14年度担当（第2集担当）

高田 雄 康	（日光市立所野小学校）	〔会長・校長会〕	13年度
高田 雄 康	（日光市立東中学校）	〔会長・校長会〕	14年度
小林 幸 男	（日光市立中宮祠小学校）	〔副会長・教頭会〕	
内村タカ子	（日光市立所野小学校）	〔副会長・教務主任会〕	
佐藤恵津子	（日光市立日光小学校）	〔理 事〕	
清水 仁 美	（日光市立清滝小学校）	〔理 事〕	
文挾 淳	（日光市立野口小学校）	〔理 事〕	
清水せつ子	（日光市立中宮祠小学校）	〔理 事〕	
渡辺 聡	（日光市立所野小学校）	〔理 事〕	指導者・監修者
須藤 明 美	（日光市立小来川小学校）	〔理 事〕	本間政和（日光市教育委員会教育長）13年度
福田 亮 子	（日光市立安良沢小学校）	〔理 事〕	杉江秀雄（日光市教育委員会教育長）14年度
和氣 緑	（日光市立日光中学校）	〔理 事〕	中川光熹（日光市文化協会会長）
内藤 聖 治	（日光市立中宮祠中学校）	〔理 事〕	中麿輝美
星野 満 代	（日光市立東中学校）	〔理 事〕	高藤晴俊
渡辺 巖	（日光市立小来川中学校）	〔理 事〕	今井昌英

小林 庸 男	（社 会 教 育 課 長）	〔事務局〕	13年度
斉藤 昭 一	（社 会 教 育 課 長）	〔事務局〕	14年度
小野 昌 紀	（同 文 化 係 長）	〔事務局〕	13年度
福田 和 美	（同 文 化 係 長）	〔事務局〕	14年度
川田 盛 雄	（同 文 化 係 副 主 幹）	〔事務局〕	
湯澤 健 一	（学 校 教 育 課 長）	〔事務局〕	13年度
千種 良	（学 校 教 育 課 長）	〔事務局〕	14年度
諏訪 文 敏	（同課長補佐・指導主事）	〔事務局〕	13年度
福田 倫 夫	（同 副 主 幹 ・ 指 導 主 事）	〔事務局〕	14年度
小又 陽 三	（同課長補佐・学校教育係長）	〔事務局〕	13年度
星野 寛 治	（同課長補佐・学校教育係長）	〔事務局〕	14年度
岩本 英 俊	（同 学 校 教 育 係 副 主 幹）	〔事務局〕	



## 【参考資料】

- ・日光市史 第3編近世2「寛永の東照宮大造替」
- ・甲良豊後守宗廣 甲良町教育委員会
- ・日光パーフェクトガイド「甲良豊後守宗廣記念館」日光観光協会編・下野新聞社
- ・日光東照宮の謎 高藤晴俊著 講談社現代新書
- ・下野民俗第42号「東照社縁起に描かれた祭礼行列」高藤晴俊著
- ・儀礼文化第32号「日光東照宮の御輿渡御行列について」  
～その成立過程の考察を中心として～ 高藤晴俊著
- ・広報「ふたらさん」 日光二荒山神社社務所発行

平成15年度担当（第3集担当）

高田 雄康（東 中 学 校）〔会 長・校 長 会〕

須藤 イヨ（野 口 小 学 校）〔副会長・教 頭 会〕

内村タカ子（所 野 小 学 校）〔副会長・教務主任会〕

倭文小百合（日 光 小 学 校）〔理 事〕

芦川 隆（清 滝 小 学 校）〔理 事〕

丹治 良行（野 口 小 学 校）〔理 事〕

渡辺 聡（所 野 小 学 校）〔理 事〕

松本由美子（小 来 川 小 学 校）〔理 事〕

若林真智子（安 良 沢 小 学 校）〔理 事〕

佐々木敏史（日 光 中 学 校）〔理 事〕

内藤 聖治（中 宮 祠 中 学 校）〔理 事〕

加藤 紀子（東 中 学 校）〔理 事〕

杉江 秀雄（教育委員会・教育長）〔事 務 局〕

斎藤 昭一（社会教育課・課 長）〔事 務 局〕

福田 和美（社会教育課・文化係長）〔事 務 局〕

岩本 英俊（社会教育課・文化係副主幹）〔事 務 局〕

赤坂 潤一（学校教育課・課 長）〔事 務 局〕

大橋 富昭（学校教育課・学校教育係長）〔事 務 局〕

福田 倫夫（学校教育課・学校教育係副主幹兼指導主事）〔事 務 局〕

荻原 清孝（学校教育課・学校教育係主任）〔事 務 局〕

平成16年度担当（第4集担当）

関口千代子（清 滝 小 学 校）〔会 長・校 長 会〕

鈴木 辰雄（所 野 小 学 校）〔副会長・教 頭 会〕

内藤 聖治（中 宮 祠 中 学 校）〔副会長・教務主任会〕

倭文小百合（日 光 小 学 校）〔理 事〕

白石 光人（野 口 小 学 校）〔理 事〕

若林真智子（安 良 沢 小 学 校）〔理 事〕

佐々木敏史（日 光 中 学 校）〔理 事〕

渡辺 功（小 来 川 中 学 校）〔理 事〕

丹野 哲久（東 中 学 校）〔理 事〕

杉江 秀雄（教育委員会・教 育 長）〔事 務 局〕

阿部 茂樹（社会教育課・課 長）〔事 務 局〕

石川 茂（社会教育課・課長補佐兼文化係長）〔事 務 局〕

鈴木 泰浩（社会教育課・文化係副主幹）〔事 務 局〕

赤坂 潤一（学校教育課・課 長）〔事 務 局〕

大橋 富昭（学校教育課・学校教育係長）〔事 務 局〕

福田 倫夫（学校教育課・学校教育係副主幹兼指導主事）〔事 務 局〕

荻原 清孝（学校教育課・学校教育係主任）〔事 務 局〕

高田 雄康（前 会 長 ・ 顧 問）〔指 導 助 言 者〕

中川 光熹（日光市文化協会・会長）〔指 導 助 言 者〕

中麿 輝美（二荒山神社・庶務部長）〔指 導 助 言 者〕

今井 昌英（輪王寺・教化部長）〔指 導 助 言 者〕

高藤 晴俊（東照宮・教学室長・美術館事務長）〔指 導 助 言 者〕

#### 平成17年度担当（第4集担当）

関口千代子（日光小学校）〔会長・校長会〕

鈴木辰雄（安良沢小学校）〔副会長・教頭会〕

本間恵子（所野小学校）〔副会長・教務主任会〕

太田みどり（日光小学校）〔理事〕

宮崎哲（清滝小学校）〔理事〕

大橋通康（野口小学校）〔理事〕

菊池誠（日光中学校）〔理事〕

手塚智博（中宮祠中学校）〔理事〕

渡辺功（小来川中学校）〔理事〕

丹野哲久（東中学校）〔理事〕

早川俊英（教育委員会・教育長）〔事務局〕

阿部茂樹（社会教育課・課長）〔事務局〕

鈴木泰浩（社会教育課・文化係長）〔事務局〕

小杉明（社会教育課・文化係主査）〔事務局〕

大橋忍（学校教育課・課長）〔事務局〕

大橋富昭（学校教育課・学校教育係長）〔事務局〕

福田倫夫（学校教育課・学校教育係副主任兼指導主事）〔事務局〕

荻原清孝（学校教育課・学校教育係主任）〔事務局〕

高田雄康（前会長・顧問）〔指導助言者〕

中川光熹（日光市文化協会・会長）〔指導助言者〕

中麿輝美（二荒山神社・庶務部長）〔指導助言者〕

今井昌英（輪王寺・教化部長）〔指導助言者〕

高藤晴俊（東照宮・教室長・美術館事務長）〔指導助言者〕

## 平成 18 年度担当（第 5 集担当）

関口千代子（日光小学校）〔会長・校長会〕

鈴木辰雄（安良沢小学校）〔副会長・教頭会〕

本間恵子（所野小学校）〔副会長・教務主任会〕

佐藤紀恵（日光小学校）〔理事〕

加藤菜穂子（清滝小学校）〔理事〕

高橋明美（野口小学校）〔理事〕

青山桃子（日光中学校）〔理事〕

手塚智博（中宮祠中学校）〔理事〕

山口等（小来川中学校）〔理事〕

川原順子（東中）〔理事〕

阿部茂樹（日光教育行政事務所生涯学習課・課長）〔事務局〕

町田真実（日光教育行政事務所生涯学習課・文化係長）〔事務局〕

小杉明（日光教育行政事務所生涯学習課・文化係副主幹）〔事務局〕

高田雄康（前会長・顧問）〔指導助言者〕

中川光熹（日光市文化協会日光支部・支部長）〔指導助言者〕

中麿輝美（二荒山神社・庶務部長）〔指導助言者〕

今井昌英（輪王寺・教化部長）〔指導助言者〕

高藤晴俊（東照宮・教学室長・美術館事務長）〔指導助言者〕

## 平成19年度・20年度担当（第6集担当）

須藤 イヨ	（日光小学校）	〔会長・校長会〕	
小林 幸男	（所野小学校・野口小学校）	〔副会長・教頭会〕	
笹沼 隆志	（清滝小学校）	〔副会長・教務主任会〕	※平成19年度
本間 恵子	（所野小学校）	〔副会長・教務主任会〕	※平成20年度
小金澤政弘	（日光小学校）	〔理事〕	
長沼 美佳	（野口小学校）	〔理事〕	
佐藤恵津子	（清滝小学校）	〔理事〕	※平成20年度
渡辺 優子	（安良沢小学校）	〔理事〕	
花塚 正和	（日光中学校）	〔理事〕	
渡辺 功	（中宮祠中学校）	〔理事〕	
塚原 正人	（東中学校）	〔理事〕	※平成19年度
江田 美穂	（東中学校）	〔理事〕	※平成20年度
斎藤 修	（小来川中学校）	〔理事〕	※平成19年度
大塚 政紀	（小来川中学校）	〔理事〕	※平成20年度
斎藤 宏子	（日光教育行政事務所・所長）	〔事務局〕	※平成20年度
阿部 茂樹	（日光教育行政事務所・生涯学習課長）	〔事務局〕	※平成19年度
佐久間真二	（日光教育行政事務所・所長補佐）	〔事務局〕	※平成20年度
町田 真実	（日光教育行政事務所・文化係長）	〔事務局〕	※平成19年度
星野 暁子	（日光教育行政事務所・副主幹）	〔事務局〕	
宮本 裕行	（日光教育行政事務所・主査）	〔事務局〕	※平成20年度
高田 雄康	（元会長・顧問）	〔指導助言者〕	
関口千代子	（前会長・顧問）	〔指導助言者〕	
中川 光熹	（日光市文化財保護審議委員会・会長）	〔指導助言者〕	
中麿 輝美	（二荒山神社・庶務部長）	〔指導助言者〕	
今井 昌英	（輪王寺・教化部長）	〔指導助言者〕	※平成19年度
根村 隆宣	（輪王寺・教化部長）	〔指導助言者〕	※平成20年度
高藤 晴俊	（東照宮・教学室長・美術館事務長）	〔指導助言者〕	

## 【参考資料】

- ・日光社寺と史跡 沼尾正彦著 金園社
- ・しもつけ物語 人物編 第三集 栃木県連合教育会
- ・写真提供（円仁・三仏様） 日光山輪王寺
- ・日光パーフェクトガイド 日光観光協会編 下野新聞社
- ・たっぷり日光歴史ウォーキング 水曜社
- ・日光市史 史料編 中巻
- ・日光の故実と伝説 星野理一郎著 栃木県連合教育会
- ・東照宮再発見 高藤晴俊著 日光東照宮社務所
- ・大日光26号 「陽明門前の洋風オランダ献備灯架」  
～世紀を超えた点灯盛儀所感～ 菊池重郎著
- ・大日光46号 「陽明門前のオランダ灯籠及び燭台の誤伝について」 大滝晴子著
- ・大日光19号 「日光東照宮石燈籠考」 高田茂著
- ・大日光63号 「伊達正宗公奉納の鉄燈籠」 松永兼治著
- ・大日光65号 「日光東照宮の燈籠」 松永兼治著
- ・大日光77号 「東照宮の銅燈籠～江戸初期将軍家奉献銅燈籠の形態について～」  
石塚雄三著

平成21年度担当（第7集担当）

高田えり子（野口小学校）〔会長・校長会〕

関口 宏文（日光小学校）〔副会長・教頭会〕

須藤 明美（小来川小学校）〔副会長・教務主任会〕

黒羽 剛（清滝小学校）〔理事〕

関根 悠雅（所野小学校）〔理事〕

室町 直（安良沢小学校）〔理事〕

阿部 剛英（日光中学校）〔理事〕

渡邊 功（中宮祠中学校）〔理事〕

江田 美穂（東中学校）〔理事〕

石川 茂（日光・足尾教育行政事務所・所長）〔事務局〕

星野恵美子（日光・足尾教育行政事務所・公民館長）〔事務局〕

神山 悦子（日光・足尾教育行政事務所・主任）〔事務局〕

高田 雄康（元会長・顧問）〔指導助言者〕

関口千代子（元会長・顧問）〔指導助言者〕

須藤 イヨ（前会長・顧問）〔指導助言者〕

中川 光熹（日光市文化財保護審議委員会・会長）〔指導助言者〕

中麿 輝美（二荒山神社・秘書部長）〔指導助言者〕

根村 隆宣（輪王寺・教化部長）〔指導助言者〕

高藤 晴俊（東照宮・教学室参事）〔指導助言者〕



【参考資料】

- ・日光市史 第4編 近現代
- ・明治維新と日光 柴田宜久著 随想社
- ・日光山三仏堂遷宮図 青山勝男氏所蔵
- ・写真提供（日光道中図絵・日光山内図） 日光東照宮宝物館

【平成22年度担当（第8集担当）】

高田えり子（野口小学校）〔会長・校長会〕

手塚由美子（清滝小学校）〔副会長・教頭会〕

柴田 一利（日光中学校）〔副会長・教務主任会〕

石川 創未（日光小学校）〔理事〕

関根 悠雅（所野小学校）〔理事〕

室町 直（安良沢小学校）〔理事〕

大河原 勇（中宮祠中学校）〔理事〕

奈良里歌子（東中学校）〔理事〕

菅田 晃章（小来川中学校）〔理事〕

石川 茂（日光・足尾教育行政事務所・所長）〔事務局〕

吉澤 幸雄（日光・足尾教育行政事務所・公民館長）〔事務局〕

佐藤 剛（日光・足尾教育行政事務所・主査）〔事務局〕

高田 雄康（元会長・顧問）〔指導助言者〕

関口千代子（元会長・顧問）〔指導助言者〕

須藤 イヨ（前会長・顧問）〔指導助言者〕

中川 光熹（日光市文化財保護審議委員会・会長）〔指導助言者〕

中麿 輝美（二荒山神社・秘書部長）〔指導助言者〕

根村 隆宣（輪王寺・教化部長）〔指導助言者〕

高藤 晴俊（東照宮・教室参事）〔指導助言者〕

【参考資料】

- ・ 日光二荒山神社 [神橋] 日光二荒山神社資料より抜粋
- ・ 世界文化遺産二荒山神橋 日光二荒山神社パンフレットより抜粋
- ・ 輪王寺ホームページ
- ・ 高藤晴俊「東照宮旧社務所の障壁画一図像解釈学的鑑賞の試み」

『文星紀要』第16号 文星芸術大学 2005年

【平成23年度担当（第9集担当）】

仁平 和江（所野小学校）【会長・校長会】

松浦 貢（中宮祠小学校）【副会長・教頭会】

宇賀神 正（日光小学校）【副会長・教務主任会】

相馬 直之（野口小学校）【理事】

関根 悠雅（所野小学校）【理事】

影山 直美（安良沢小学校）【理事】

福田十三男（清滝小学校）【理事】

石澤 宏明（日光中学校）【理事】

菊池 健人（東中学校）【理事】

青柳 平人（小来川中学校）【理事】

石川 茂（日光・足尾教育行政事務所・所長）【事務局】

吉澤 幸雄（日光・足尾教育行政事務所・公民館長）【事務局】

高田 雄康（元会長・顧問）【指導助言者】

関口千代子（元会長・顧問）【指導助言者】

須藤 イヨ（元会長・顧問）【指導助言者】

高田えり子（前会長・顧問）【指導助言者】

中川 光熹（日光市文化財保護審議委員会・会長）【指導助言者】

中麿 輝美（二荒山神社・秘書部長）【指導助言者】

鈴木 常元（輪王寺・教化部長）【指導助言者】

高藤 晴俊（東照宮・教室参事）【指導助言者】

【参考資料】

- ・ 「二社一寺国宝及び重要文化財建造物配置図」 日光東照宮
- ・ 「日光二荒山神社配置図」 日光二荒山神社「神苑・案内地図」より
- ・ 日光パーフェクトガイド

【平成24年度担当（第10集担当）】

関口 善教（清滝小学校）【会長・校長会】

福田 倫夫（東中学校）【副会長・教頭会】

大橋 通康（野口小学校）【副会長・教務主任会】

石川 創未（日光小学校）【理事】

菊地 実（中宮祠小学校）【理事】

浅田 鉄也（所野小学校）【理事】

阿部 剛英（安良沢小学校）【理事】

石澤 宏明（日光中学校）【理事】

星野 秀行（小来川中学校）【理事】

福田 幸江（日光・足尾教育行政事務所・所長）【事務局】

吉澤 幸雄（日光・足尾教育行政事務所・公民館長）【事務局】

高田 雄康（元会長・顧問）【指導助言者】

関口千代子（元会長・顧問）【指導助言者】

須藤 イヨ（元会長・顧問）【指導助言者】

高田えり子（元会長・顧問）【指導助言者】

仁平 和江（前会長・顧問）【指導助言者】

中川 光熹（日光市文化財保護審議委員会・会長）【指導助言者】

中麿 輝美（二荒山神社・秘書部長）【指導助言者】

鈴木 常元（輪王寺・教化部長）【指導助言者】

高藤 晴俊（東照宮・教学室参事）【指導助言者】

【参考資料】

- ・「朝鮮通信使・琉球使節の日光参り－三使の日記から読む日光道中－」  
佐藤 権司著 随想舎
- ・「日光東照宮の寶物」  
日光東照宮社務所発行